

科目 基本 情報	科目名 アジア消費・流通論	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木 5	2
	担当者 原田 優也	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	
学 び の 準 備	ねらい アジア市場の特徴および地域物流システムについて理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。		
	到達目標 アジア市場に関するビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 アジア消費・流通市場に関するレポート作成能力を身につける。			
学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) (授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある)			
	第01回 オリエンテーション (資料1を読む)			
	第02回 アジアビジネスの課題説明 (課題の選択、情報収集方法など) (資料1を読む)			
	第03回 アジア市場の特徴 (ASEAN市場、中国市場、インド市場など) (資料2を読む)			
第04回 グローバル・セグメンテーションとポジショニング (資料2を読む)				
第05回 日本企業とアジア企業 (資料2を読む)				
第06回 アジア市場参入戦略 (資料3を読む)				
第07回～第14回 アジアビジネスの課題 (発表テーマに関する情報収集、分析、比較、まとめなど)				
第15回 課題レポートの準備 (課題作成・点検)				
第16回 レポート提出				
テキスト・参考文献・資料など クラス内で紹介する。				
学びの手立て 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (報告に対する質疑応答、パティシペーションなど) が必要である。				
評価 レポート (30%)、発表 (30%)、平常点 (40%)				
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習I・II			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアの企業と文化	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	3年	ppt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 入門的なマーケティングのテキストを自分で読んで内容を理解できる。多国籍企業のアジアでの国際的なマーケティング活動に興味を持ち、全体像を一通り理解できる。特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を習得する。	メッセージ 教科書と参考文献を併用し、PDFを配布します。外国で実際に行われているマーケティングの手法を写真等を用いて学習します。事例を通じて理解を深めます。
	到達目標 実際のアジア地域のマーケティング活動に対して、活用可能なマーケティング概念を理解できること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	(対) グローバリゼーションの現実と国際製品戦略	テキスト2章&8章
	3	(対) 国際市場細分化戦略 (進出国&当該国でのターゲット市場の決定)	テキスト9章
	4	(対) アジア・マーケットとSTPの決定 (進出国でのポジショニング戦略)	参考文献
	5	(対) 日本企業の競争力	テキスト4章
	6	(対) 国際マーケティング戦略のと典型的イメージ	テキスト6章
	7	(対) グローバル・マーケティング活動と文化背景の関係	テキスト11章
	8	(対) 経営の実際 (日系多国籍企業と華人系多国籍企業との連携)	参考文献
9	(対) 経営理論 (日系多国籍企業のグローバル人的資源戦略)	参考文献②2章5章	
10	(対) グローバル・マーケティング戦略1 (日系グローバル企業のナレッジ・マネジメント)	参考文献②5章12章8章	
11	(対) グローバル・マーケティング戦略2 (日系企業の国際製品開発の類型)	参考文献①8章	
12	(対) グローバル・マーケティング戦略3(消費者のブランド選択&アジア系企業のブランド戦略)	参考文献①	
13	(対) グローバル・マーケティング・プランの設定1 (グローバル製品の選定・価格競争)	テキスト5章	
14	(対) グローバル・マーケティング・プランの設定2(国際プロモーション戦略)	参考文献②7章参①	
15	(対) ビューティー・ビジネスのグローバル化 (資生堂のケース)	参考文献②9章	
16	テストもしくはレポート	これまでの復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト①諸上茂登 (2013)『国際マーケティング講義』同文館。参考文献①大石芳裕編集(2009)『日本企業のグローバルマーケティング』同文館。②浅川和宏 (2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社③松浦祥子(2014)『グローバル・ブランディング』中央経済社		
	学びの手立て ①授業で用いるテキストは授業連絡で案内するので、各自で添付PDFを印刷した上で授業に参加すること。②新型コロナウイルス感染状況次第では、レポート・感想文の提出も授業連絡を通じて案内する。③『グローバルマーケティング総論』の受講を前提とせずに補足説明を加える。		
	評価 期末テストあるいはレポート課題(コロナ感染状況次第) 70%, 平常点約30%で総合的に評価する。新型コロナウイルス感染拡大状況次第では評価方法は変更される場合がある。なお詳細は初回講義時に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」、「グローバル・マーケティング演習」がある。次のステージ：授業で学んだ知識は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、経営学について、全般に知識を高められる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

まず専門に対し総合的視点を持つ。次に課題取組から問題解決能力を身に付ける。最後に地域企業への関心と社会貢献意欲を高める。

[ / ]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 学科インターンシップ運営委員	その他	その他	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】** ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】** ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】** 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認） 20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性

まず専門に対し総合的視点を持つ。次に課題取組から問題解決能力を身に付ける。最後に地域企業への関心と社会貢献意欲を高める。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者

【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】 ①実習先による学生評価調書20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英文簿記・会計	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。この講義では、「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目指します。	英文簿記・会計に関する資格として、東京商工会議所主催の国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) があります。この講義はSubject1に対応しています。直前対策講座も実施する予定なので、是非、チャレンジしてください。
到達目標	① 商品売買取引、手形取引、資金調達取引などの諸取引を英語で仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を英語でSpecialized journal（特殊仕訳帳）へ記帳し、Ledger（元帳）に転記できる。 ③ 決算を行い、Income statement（損益計算書）とBalance sheet（貸借対照表）を英語で作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Guidance	*時間外学習の内容：テ=テキスト
	2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting	シラバスの理解（以下、前/後）
	3	Transactions and Journal Entries① Purchase & Sales Transaction	テ5-16頁の精読/問題の再解答
	4	Transactions and Journal Entries② Notes, Financing & Dividends	テ18-47頁の精読/問題の再解答
	5	Journals and Ledgers① General Journal & Ledger	テ18-47頁の精読/問題の再解答
	6	Journals and Ledgers② Specialized Journal	テ48-68頁の精読/問題の再解答
	7	Trial Balance	テ48-68頁の精読/問題の再解答
	8	Test①	テ70-75頁の精読/問題の再解答
	9	Adjusting Entries① Inventory & Cost of Sales, Depreciation	講義内容の復習/テストの再解答
	10	Adjusting Entries② Prepaid Expense, Unearned Revenue, Accrued Expense, Accrued Revenue	テ76-101頁の精読/問題の再解答
	11	Closing Entries	テ76-101頁の精読/問題の再解答
	12	Financial Statements① Income Statement	テ105-110頁の精読/問題の再解答
	13	Financial Statements② Balance Sheet	テ111-120頁の精読/問題の再解答
14	Financial Statement Analysis	テ111-120頁の精読/問題の再解答	
15	Test②	テ126-132頁の精読/問題の再解答	
16	テストの返却および解説・講評	講義内容の復習/テストの再解答	
実践	テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：清村英之『英文会計が基礎からわかる本（第2版）』同文館出版，2019年，2,300円。 ・参考文献：講義中に紹介します。	
学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。  ○学びを深めるために： ・映画、音楽、雑誌等、日常的に英語に触れる機会を作るといいでしょう。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際会計検定BATICは、7月と12月に行われます。「メッセージ」にも書いたように、検定試験の前には直前対策講座を実施する予定です。是非、チャレンジを！
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメントⅠ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。 tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきることが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>データサイエンスに関する講義とエクセルを利用した実習を組み合わせた科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類、演習を通じた事例の積み重ねによるエクセルの基本的な使い方からビッグデータ解析につながるエクセルのBI（ビジネスインテリジェンス）手法までを学びます。</p>
到達目標	実社会で利用可能なエクセルによる分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	授業内容に関する自己学習
	2	エクセルの成り立ち	授業内容に関する自己学習
	3	エクセルの基本操作	資料の確認と自習
	4	エクセルがもつデータベース機能	パソコンを使った自習
	5	エクセルによる関数計算	パソコンを使った自習
	6	エクセルのアウトラインと集計	サンプルデータによる確認と自習
	7	ワークシート分析とWhatIf分析	サンプルデータによる確認と自習
8	中間試験	これまでの学習内容の復習	
9	ピボットテーブルの利用方法	パソコンを使った自習	
10	ピボットテーブルの演習	サンプルデータによる確認	
11	ピボットテーブルとスライサー	サンプルデータを使った自習	
12	データのグラフ化とスパークライン	パソコンを使った自習	
13	エクセルによるデータ収集とコード変換	サンプルデータによる確認と自習	
14	パワーピボットの利用	インターネットに接続しての自習	
15	Resasを使った地域データの利用	DBに接続しての自習	
16	期末試験	これまでの学習内容の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価	中間試験40%、期末試験45%、平常点15%。ただし、進行度により試験形式、回数を変更する場合があります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理ⅠとⅡで必要になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメントⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。 tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきることが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>データサイエンスに関する講義とエクセルを利用した実習を組み合わせた科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類、演習を通じた事例の積み重ねによるエクセルの基本的な使い方からビッグデータ解析につながるエクセルのBI（ビジネスインテリジェンス）手法までを学びます。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる事務処理、数値処理、統計分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	授業内容に関する自己学習
	2	エクセルの成り立ち	授業内容に関する自己学習
	3	エクセルの基本操作	資料の確認と自習
	4	エクセルがもつデータベース機能	パソコンを使った自習
	5	エクセルによる関数計算	パソコンを使った自習
	6	ピボットテーブルの利用方法	サンプルデータによる確認と自習
	7	ピボットテーブルの演習	サンプルデータによる確認と自習
8	中間試験	これまでの学習内容の復習	
9	スライサーとタイムライン	パソコンを使った自習	
10	パワーピボット利用の基本	サンプルデータによる確認	
11	パワーピボット演習	DBに接続しての自習	
12	パワークエリ（データの取得と変換）利用の基本	サンプルデータを使った自習	
13	パワークエリ演習	DBに接続しての自習	
14	パワーマップの利用	サンプルデータを使った自習	
15	Resasによるビッグデータの視覚化	インターネットに接続しての自習	
16	期末試験	これまでの学習内容の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価	中間試験40%、期末試験45%、平常点15%。ただし、進行度により試験形式、回数を変更する場合があります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理ⅠとⅡで必要になります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 キャリア教育の一環として、公認会計士としての実務経験に基づく講義により、実践的な知識や考え方を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計監査	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-友利 健太	3年	授業終了後もしくはメールで受け付けます。 tomori@umuyasu-law.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、会計監査と、これを担う公認会計士とその仕事内容について、公認会計士である講師の実務経験を交えて解説します。メッセージに記載したツールとなるように、会計監査の「考え方」と「社会的な役割」を理解してもらいます。	メッセージ 学生のみなさんが、将来社会人となって触れることとなる情報（特に財務情報）の信頼性がどのように担保されているのかを理解し、その考え方を身に付けることは、さまざまな分野で活躍していくための活用ツールの一つになると思います。
	到達目標 ①会計監査の「背景」、「内容」、「考え方」、「手法」、「社会的な役割」が理解できる。 ②公認会計士の「社会的な役割」と「仕事内容」が理解できる。 ③会計監査の視点や考え方を、現在そして社会人となったときにどのように活用するかイメージできる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	監査とは何か？なぜ必要なのか？
	3	監査の基礎概念「監査意見」、「重要な虚偽の表示」ほか
	4	監査の基礎概念「監査証拠」ほか
	5	身の回りの監査「会社法監査」、「金融商品取引法監査」
	6	広がる監査&公認会計士のニーズ
	7	公認会計士とはどのような人？（試験内容、勉強方法を含む）
	8	監査制度を支える要件
学びの実践	9	監査基準について
	10	内部統制とは何か？
	11	監査の手法「リスクアプローチ」とは何か？
	12	監査計画
	13	監査の実施（監査手続の基本とこれから）前半
	14	監査の実施（監査手続の基本とこれから）後半
	15	監査報告書
	16	期末テスト
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストとして以下の書籍を使用します。 「監査論を学ぶ（第3版）」 著者：蟹江 章、高原 利栄子、藤岡 英治 出版社：税務経理協会 出版年：2020年 価格：2,100円（税抜）	
	学びの手立て ①履修上の心構え ・「商業簿記Ⅰ」程度の簿記の知識があると望ましいですが、無くても受講できます。 ・遅刻、欠席は、評価の際、不利になりますので留意すること。 ②学びを深めるために ・興味のある会社や組織の「財務諸表」（決算書）をHPなどから入手してみてください。上場会社などの有価証券報告書発行会社の財務諸表は、EDINET（エディネット）でも閲覧できます。 <a href="http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/">http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/</a> ・経済の動きや、興味のあるビジネス・業界に関する新聞記事・ニュースに目を向けてみてください。	
	評価 平常点20%：講義中の取り組み・姿勢を評価します。 テスト80%：上記「到達目標」を評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 ・会計コースの諸科目
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 聡	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業が毎年公開する有価証券報告書は、過去の活動実績と将来予測をする際に必要なデータの宝庫です。ただ、その分析には一定の知識が必要となります。この講義では、財務諸表に開示されるデータがどこから来て、どこに向かおうとしているのかを知ることを目標とします。</p>	<p>社会に数多くある企業が業界のなかでどのように位置づけられ、将来性があるのかを知ることは、これから社会に出て行く学生の皆さんには必要な知識です。また、この講義で学ぶ分析方法は、卒業論文を作成する際のヒントにもなります。企業を分析する際に必要な手法を厳選し、段階を経て学ぶなかで、就職活動・卒業論文に必要な分析手法を体得してみませんか？</p>
到達目標	<p>本講義は、財務諸表が複式簿記の技術を経て作成されることを知っている学生が、集積された財務データを、業界内での企業の特徴や、強さ・弱さを分析するなかで利用し、将来に向けた戦略を立案できるようになることを目標とします。そのため、分析の途中には、財務諸表から離れる分析が必要になりますが、本講義では、いくつかの分析を通じて、企業の活動成果はすべて財務諸表に集約されること、将来に向けた活動の原資も財務諸表のなかから導き出す必要があることを知り、企業を冷静な目で分析できるようになることが期待されます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	会計学・簿記の概略の予習
	2	業界分析－企業の選択－	業界分析の復習
	3	業界分析－企業が属する業界の特徴－	業界分析の復習
	4	業界分析－業界内での企業の特徴－	業界分析の復習
	5	経営分析－ファイブフォース分析－	経営分析手法の復習
	6	経営分析－PPM分析－	経営分析手法の復習
	7	経営分析－SWOT分析－	経営分析手法の復習
	8	財務分析－収益性分析－	財務分析手法の復習
	9	財務分析－安全性分析－	財務分析手法の復習
	10	財務分析－成長性分析－	財務分析手法の復習
	11	総括（分析結果の統合－視点の解説－）	統合的視点のまとめ
	12	総括（分析結果の統合－学生サンプルの開示－）	統合的視点のサンプルとの対比
	13	報告の準備（1）学生チームの分析結果の集積	総合的視点の確立
	14	報告の準備（2）学生チームの分析結果の調整	総合的視点の確立
15	報告の実施（1）学生チームによる研究成果報告	総合的視点の確立	
16	報告の実施（2）研究成果討論・総評（試験代替）		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	創成社より近刊予定の教材を教科書として使用する予定です。

学びの手立て	<p>本講義は、分析手法の講義の後、チームでの実践学修を求めることを予定です。そのため、遅刻・欠席が多くなると、共同で作業をするチームのメンバーに迷惑がかかります。受講を希望する学生の皆さんは、原則、遅刻・欠席せず、講義時間内で分析手法を体得するように努めてください。</p> <p>また、講義時間内で、分析手法を体得できない学生には、質問を受け付けますので、その日の講義内容は、その日のうちに理解するようにしてください。</p>
--------	---

評価	<p>評価方法は、講義最終日に実施するチームの共同研究成果報告の内容で行います。本講義の評価には、教員だけでなく、受講者自身の他チームへの感想も、一部加点として反映させたいと考えております。これは、皆さんと同じ立場の学生がどの程度かを知り、今後の学修に生かすことが重要だと考えているからです。その意味でも、皆さんには、毎回の講義への出席が求められます。出席点は、一部平常点として考慮する可能性がありますので、積極的に受講するようにしてください。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：財務会計、管理会計、経営戦略論、経営分析、監査論</p> <p>本講義で学修した企業分析の基礎体系を関連科目などを通じよりの確な意思決定ができるよう研鑽を積んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-多賀 寿史	2年	htaga@tm.u-ryukyuu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、企業が株主や債権者などの外部利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で提出される財務諸表の理論と読み方を理解してもらうことを主眼に置いて講義を進める。我が国において、企業が提出する財務諸表に対して様々な規制が行われている。なぜ、規制が必要なのかというところから紐解いて、財務会計の理論について学んでいくことになる。</p>	<p>この講義は、会社の実際のデータを参照しながら、このデータの数字の持つ意味について、理論と実践に焦点を当てて学んでいく。様々な会社のデータを読みながら、アクティブに会計学を学んでほしい。</p>
到達目標	<p>この講義を受けることで、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計規制の必要性について理解することができ、会計の基本を学び財務データを理解することで沖縄の経済社会に貢献できる人材になることができる。</li> <li>2. 会計のしくみを学び会計不正をしないという倫理観を会得することができる。</li> <li>3. 会計のしくみを学び、実際の企業の財務データを読み当該企業の問題点の把握と解決の方法を見出す力を身に付けることができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：会計の意義	授業参加前にシラバスを読む。
	2	会計公準と一般原則	配布資料を読む/復習課題を解く
	3	会計原則と概念フレームワーク	配布資料を読む/復習課題を解く
	4	資産の意義と評価	配布資料を読む/復習課題を解く
	5	流動資産（当座資産と棚卸資産を中心に）	配布資料を読む/復習課題を解く
	6	棚卸資産と売上原価	配布資料を読む/復習課題を解く
	7	固定資産と減価償却	配布資料を読む/復習課題を解く
8	中間試験	配布資料を読む/復習課題を解く	
9	減価償却と減損会計	テストの振り返り	
10	負債会計（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く	
11	負債会計（その2）	配布資料を読む/復習課題を解く	
12	リース会計	配布資料を読む/復習課題を解く	
13	資産除去債務	配布資料を読む/復習課題を解く	
14	純資産会計	配布資料を読む/復習課題を解く	
15	包括利益概念	配布資料を読む/復習課題を解く	
16	期末試験	テストの振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：上江洲由正他編『財務会計の基礎理論と展開』 第2版 配布資料、電卓必携のこと</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構えは、ケースとして配布する、沖縄の企業の財務データを見て「読めるになろう！」という意欲を持ってほしい。企業の単のデータを見ながら企業の実態をつかんでいくと、自然と会計を学ぶことが楽しいと思えるようになるはずである。本講義を受けるにあたって、商業簿記の単位を履修しておくことが望ましい。並行して会計関連科目も履修してほしい。</p>		
評価	<p>成績の評価は中間テスト（40%）、期末テスト（40%）、宿題の提出状況や受講態度（20%）で行う。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目履修後は、会計学Ⅱを履修することを推奨する。また、同時並行で、商業簿記Ⅲや商業簿記Ⅳを履修することを推奨する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-多賀 寿史	2年	htaga@grs.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、企業が株主や債権者などの外部利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で提出される財務諸表の理論と読み方を理解してもらうことを主眼に置いて講義を進める。我が国において、企業が提出する財務諸表に対して様々な規制が行われている。なぜ、規制が必要なのかというところから紐解いて、財務会計の理論について学んでいくことになる。	メッセージ この講義は、会社の実際のデータを参照しながら、このデータの数字の持つ意味について、理論と実践に焦点を当てて学んでいく。様々な会社のデータを読みながら、アクティブに会計学を学んでほしい。
	到達目標 この講義を受けることで、 1. 会計規制の必要性について理解することができ、会計の基本を学び財務データを理解することで沖縄の経済社会に貢献できる人材になることができる。 2. 会計のしくみを学び会計不正をしないという倫理観を会得することができる。 3. 会計のしくみを学び、実際の企業の財務データを読み当該企業の問題点の把握と解決の方法を見出す力を身に付けることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	前期講義の振り返り	
	2	損益会計（その1）	
		時間外学習の内容	
	3	損益会計（その2）	授業参加前にシラバスを読む。
	4	財務諸表の作成（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く
	5	財務諸表の作成（その2）/小テスト（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く
	6	連結会計（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く
	7	連結会計（その2）	配布資料を読む/復習課題を解く
	8	連結会計（その3）	配布資料を読む/復習課題を解く
	9	連結会計（その4）	配布資料を読む/復習課題を解く
	10	金融商品会計（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く
	11	金融商品会計（その2）/小テスト（その2）	配布資料を読む/復習課題を解く
	12	金融商品会計（その3）	配布資料を読む/復習課題を解く
	13	外貨建取引会計（その1）	配布資料を読む/復習課題を解く
	14	外貨建取引会計（その2）	配布資料を読む/復習課題を解く
	15	わが国の会計基準と国際会計基準	配布資料を読む/復習課題を解く
	16	期末試験	テストの振り返り
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：上江洲由正編著『財務会計の基礎理論と展開』 第2版		
	学びの手立て		
	この講義は奇数回は対面講義、偶数回は特例講義となっている。特例講義は、ZOOMによるリアルタイム講義&録画配信で行う。単位認定において毎回の課題の提出は必須である。必修講義という性格上、3分の2未満の出席、そして、3分の2未満の課題提出状況で不可となるので注意されたい。		
	評価		
	成績の評価は2回の小テスト（20%×2=40%）、期末テスト（40%）、毎週（15回分の課題の提出）（20%）で行う。1回目の小テストの範囲：損益会計・財務諸表の作成、2回目の小テスト：連結会計、期末試験：金融商品会計・外貨建て取引会計・我が国の会計基準と国際会計基準、である。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目履修後は、財務会計、資金会計など会計関連科目を履修することを推奨する。また、商業簿記Ⅲ・Ⅳを未履修の場合は履修することを推奨する。
-------	--

※ポリシーとの関連性 ホスピタリティ&観光マーケティングを学習することで、沖縄観光・サービス産業分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光マーケティング	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい ホスピタリティ&観光マーケティングの基礎知識を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。	メッセージ 本講義では、日本または沖縄の観光産業の発展のために何が必要なのかを想像しながら、履修学生たちが思い出した観光商品のアイデアを如何に表現すればよいかについて一緒に考えてみます。本講義は履修する受講生とともに観光マーケティングの面白さや観光客の多様な観光活動が持つ意義について一緒に考えてみる時間です。
	到達目標 1. ホスピタリティ&観光マーケティングに関する基礎的な知識を習得する。 2. 新しい観光市場を創出するために必要な観光商品やサービスとは何かについて考えてみることで、受講生の創造力を向上させる。 3. 観光マーケティング分野で活躍できる基礎実務を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	観光マーケティング理論Ⅰ. 観光マーケティングとは何か	資料を読む
	3	観光マーケティング理論Ⅱ. 市場細分化とトレンド	沖縄観光市場を分析
	4	観光マーケティング理論Ⅲ. ポジショニングと目標	沖縄のポジションについて分析
	5	観光マーケティング理論Ⅳ. 商品開発	沖縄の魅力について調査
	6	観光マーケティング理論Ⅴ. サービスと品質管理	沖縄ホテルサービスについて調査
	7	観光マーケティング理論Ⅵ. パッケージングとプログラミング	沖縄パッケージ商品について調査
	8	観光商品企画のガイダンス(グループ課題→中間テストの振替)	グループ課題準備
9	観光マーケティング課題Ⅰ. テスティネーション・ブランド・MKT①	観光ブランドの意義	
10	観光マーケティング課題Ⅱ. テスティネーション・ブランド・MKT②	観光ブランドのケース分析	
11	観光マーケティング課題Ⅲ. トレンド変化への対応	観光トレンドへの対応ケース	
12	観光マーケティング課題Ⅳ. 観光ベンチャーの時代	新たな観光ビジネスの形態ケース	
13	観光マーケティング課題Ⅴ. IR(統合型リゾート)の可能性	IRによる肯定・否定効果	
14	観光マーケティング課題Ⅵ. DMOの必要性和役割	国内のDMO組織現状	
15	期末テスト	期末テスト	
16	観光マーケティングのまとめ	総合ディスカッション	
	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。		
	評価 1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 期末テスト(50%)とグループ課題(50%)によって評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。 次のステージ：なし。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡慶次 マーガレット 有子	2年	① 大学メール ptt1186@okiu.ac.jp ② 授業終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①読解力を向上させるためのリーディングスキルを磨く。 ②国際問題についての基本知識や問題意識を養う。 ③自分の意見を述べることができるようにコミュニケーション能力を鍛える。	①チャレンジ精神をもって授業に参加しましょう。 ②授業前後の予習復習をすること。 ③間違ってもよいから自分の意見を堂々と述べましょう。 ④多くの英文を読んで、異文化や、国際問題について学びましょう。

学びの準備	到達目標
	①国際社会間に関する英文を適切に読解することができる。 ②文字に頼らず音声聞いてディクテーションすることができる。 ③学習した内容について自分の考えや意見を英語で発信することができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) <b>【重要】</b> 授業は以下のスケジュールで行いますが、学習者の理解度などを考慮し適宜修正・変更をする場合があります。																																																																			
	<table border="0"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間</th> <th>外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>Orientation</td> <td></td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>Unit 1 Education and Gender</td> <td></td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>Unit 1 Reading Questions</td> <td></td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>Unit 2 Global Warming</td> <td></td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>Unit 2 Reading Questions</td> <td></td> <td>クイズの準備をする</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>Unit 7 Internment</td> <td></td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>Unit 7 Reading Questions (Quiz1)</td> <td></td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>Unit 3 Drinking Water</td> <td></td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>Unit 3 Reading Questions</td> <td></td> <td>クイズの準備をする</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>Unit 4 Poverty and Hunger</td> <td></td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>Unit 4 Reading Questions (Quiz2)</td> <td></td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>Unit 5 Fighting Disease</td> <td></td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>Unit 5 Reading Questions</td> <td></td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>Unit 6 Terrorism</td> <td></td> <td>クイズの準備をする</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>Unit 6 Reading Questions</td> <td></td> <td>専門用語とリーディング復習</td> </tr> <tr> <td>16.</td> <td>復習 (Quiz3)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間	外学習の内容	1.	Orientation		予習	2.	Unit 1 Education and Gender		復習	3.	Unit 1 Reading Questions		練習問題	4.	Unit 2 Global Warming		事前に大まかな翻訳をする	5.	Unit 2 Reading Questions		クイズの準備をする	6.	Unit 7 Internment		事前に大まかな翻訳をする	7.	Unit 7 Reading Questions (Quiz1)		練習問題	8.	Unit 3 Drinking Water		予習	9.	Unit 3 Reading Questions		クイズの準備をする	10.	Unit 4 Poverty and Hunger		練習問題	11.	Unit 4 Reading Questions (Quiz2)		予習	12.	Unit 5 Fighting Disease		事前に大まかな翻訳をする	13.	Unit 5 Reading Questions		予習	14.	Unit 6 Terrorism		クイズの準備をする	15.	Unit 6 Reading Questions		専門用語とリーディング復習	16.	復習 (Quiz3)	
回	テーマ	時間	外学習の内容																																																																	
1.	Orientation		予習																																																																	
2.	Unit 1 Education and Gender		復習																																																																	
3.	Unit 1 Reading Questions		練習問題																																																																	
4.	Unit 2 Global Warming		事前に大まかな翻訳をする																																																																	
5.	Unit 2 Reading Questions		クイズの準備をする																																																																	
6.	Unit 7 Internment		事前に大まかな翻訳をする																																																																	
7.	Unit 7 Reading Questions (Quiz1)		練習問題																																																																	
8.	Unit 3 Drinking Water		予習																																																																	
9.	Unit 3 Reading Questions		クイズの準備をする																																																																	
10.	Unit 4 Poverty and Hunger		練習問題																																																																	
11.	Unit 4 Reading Questions (Quiz2)		予習																																																																	
12.	Unit 5 Fighting Disease		事前に大まかな翻訳をする																																																																	
13.	Unit 5 Reading Questions		予習																																																																	
14.	Unit 6 Terrorism		クイズの準備をする																																																																	
15.	Unit 6 Reading Questions		専門用語とリーディング復習																																																																	
16.	復習 (Quiz3)																																																																			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ①教科書 Global Issues Towards Peace (DVDで学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える) ②参考資料 授業で配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ① 全体の1/3以上欠席した場合、単位は与えられない。 ② 3回遅刻=1回欠席とみなす。遅刻・欠席は成績に大きく影響するので、授業時間に間に合うように心がける。 ③ 予習・復習は欠かさず行い、積極的に、授業に貢献することを求める。わからないところは事前に調べ、予備知識を持って授業に参加すると、学習した内容が定着し理解しやすい。 ④ 計画を立てて学習し、課題の提出期日は守るようにする。 ⑤ 英字新聞、エッセイなど、多くの英文を読み、英語の単語力や表現力を高めましょう。
-------	---

学びの実践	評価 ①小テスト (Quiz) 3回 60% (20%X3) 上記の達成目標1-3を評価 ②Presentation 2回 30% (15%X2) 上記の達成目標1-3を評価 ③授業参加度、貢献度 10% (10%) 上記の達成目標1-3を評価 以上の割合で、総合的に判定する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読IIを履修することが望ましい。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡慶次 マーガレット 有子	2年	① 大学メール ptt1186@okiu.ac.jp ② 授業終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>① 学生のリスニング能力及び流暢な英語運用能力を育てる。</p> <p>② 国際問題に関する理解力や問題解決能力を高める。</p> <p>③ 発展的活動を多く取り入れ、英語でのコミュニケーションを強化する。</p>	<p>① 英語のテキストや雑誌などを読んで、国際問題に関する専門用語などを多く吸収しましょう。</p> <p>② 常に自分の意見を持つように心がけましょう。</p> <p>③ クラスワークには積極的に参加しましょう。</p>
到達目標	<p>① 英文テキストを適切に読解することができる。</p> <p>② 文字情報に頼らず、音声情報だけで英語を聞き取り、簡単なリスニング問題に答えることができる。</p> <p>③ 英語でレポートを作成し、発表、質疑応答をすることができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p><b>【重要】</b> 授業は以下のスケジュールで行いますが、学習者の理解度などを考慮し適宜修正・変更をする場合があります。定期的にCalaboLMSを確認してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>Orientation</td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>Unit 8 Atomic Weapons</td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>Unit 8 Reading Questions (Quiz1)</td> <td>Presentation1の準備</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity</td> <td>Presentation1の準備</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>Unit 9 Reading Questions (Presentation1)</td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>Unit 10 Landmines</td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>Unit 10 Reading Questions (Quiz2)</td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>Unit 11 Refugees</td> <td>事前に大まかな翻訳をする</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>Unit 11 Reading Questions</td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>Unit 12 Nelson Mandela (Human rights, apartheid)</td> <td>リサーチ</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>Unit 12 Reading Questions (Quiz3)</td> <td>練習問題</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>Unit 12 Movie (Nelson Mandela's life goals)</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>Unit 12 Movie (Nelson Mandela's achievements)</td> <td>映画についての感想をまとめる</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>Unit 14 国際赤十字の活動</td> <td>Presentation2の準備</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>Unit 14 Reading Questions</td> <td>Presentation2の準備</td> </tr> <tr> <td>⑯</td> <td>(Presentation2)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	①	Orientation	事前に大まかな翻訳をする	②	Unit 8 Atomic Weapons	予習	③	Unit 8 Reading Questions (Quiz1)	Presentation1の準備	④	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity	Presentation1の準備	⑤	Unit 9 Reading Questions (Presentation1)	練習問題	⑥	Unit 10 Landmines	事前に大まかな翻訳をする	⑦	Unit 10 Reading Questions (Quiz2)	練習問題	⑧	Unit 11 Refugees	事前に大まかな翻訳をする	⑨	Unit 11 Reading Questions	予習	⑩	Unit 12 Nelson Mandela (Human rights, apartheid)	リサーチ	⑪	Unit 12 Reading Questions (Quiz3)	練習問題	⑫	Unit 12 Movie (Nelson Mandela's life goals)	復習	⑬	Unit 12 Movie (Nelson Mandela's achievements)	映画についての感想をまとめる	⑭	Unit 14 国際赤十字の活動	Presentation2の準備	⑮	Unit 14 Reading Questions	Presentation2の準備	⑯	(Presentation2)	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	①	Orientation	事前に大まかな翻訳をする																																																	
	②	Unit 8 Atomic Weapons	予習																																																	
③	Unit 8 Reading Questions (Quiz1)	Presentation1の準備																																																		
④	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity	Presentation1の準備																																																		
⑤	Unit 9 Reading Questions (Presentation1)	練習問題																																																		
⑥	Unit 10 Landmines	事前に大まかな翻訳をする																																																		
⑦	Unit 10 Reading Questions (Quiz2)	練習問題																																																		
⑧	Unit 11 Refugees	事前に大まかな翻訳をする																																																		
⑨	Unit 11 Reading Questions	予習																																																		
⑩	Unit 12 Nelson Mandela (Human rights, apartheid)	リサーチ																																																		
⑪	Unit 12 Reading Questions (Quiz3)	練習問題																																																		
⑫	Unit 12 Movie (Nelson Mandela's life goals)	復習																																																		
⑬	Unit 12 Movie (Nelson Mandela's achievements)	映画についての感想をまとめる																																																		
⑭	Unit 14 国際赤十字の活動	Presentation2の準備																																																		
⑮	Unit 14 Reading Questions	Presentation2の準備																																																		
⑯	(Presentation2)																																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>① 教科書 Global Issues Towards Peace (DVDで学ぶ共存社会—グローバル時代を考える) NAN' UN-DO 2014</p> <p>② 参考文献 授業で紹介する。</p> <p>③ 資料 必要なプリントは授業で適時配布する。定期的にLMSも確認してください。</p>																																																			
学びの手立て	<p>① 全体の1/3以上欠席した場合、単位は与えられない。</p> <p>② 3回遅刻=1回欠席とみなす。遅刻・欠席は成績に大きく影響するので、授業時間に間に合うように心がける。</p> <p>③ 予習・復習は欠かさず行い、積極的に、授業に貢献することを求める。わからないところは事前に調べ、予備知識を持って授業に参加すると、学習した内容が定着し理解しやすい。</p> <p>④ 計画を立てて学習し、課題の提出期日は守るようにする。</p> <p>⑤ 英字新聞、エッセイなど、多くの英文を読み、英語の単語力や表現力を高めましょう。</p>																																																			
評価	<p>① 小テスト(Quiz) 3回 60% (20%X3) 上記の達成目標 1-2を評価</p> <p>② Presentation 2回 40% (20%X2) 上記の達成目標 1-3を評価</p> <p>以上の割合で、総合的に判定する。</p>																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>① 英字新聞や雑誌、インターネットやDVDなどを活用し、国内・国際情勢を、英語で学ぶことにもチャレンジしてみてください。</p> <p>② 海外の映画(DVD)なども、効果的な学習ツールだと思います。楽しみながら、英語の表現力、異文化理解力や、コミュニケーション能力を高めることができます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業者史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。	メッセージ 企業者の活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。
	到達目標 時代がひとをつくることと、ひとが時代をつくることを、中長期的な視野でとらえられること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 企業者史への視角	講義内容の復習
	2	(特) 鈴木敏文（セブン-イレブン・ジャパン）	鈴木敏文から学ぶ
	3	(特) 松下幸之助（松下電器産業、現パナソニック）	松下幸之助から学ぶ
	4	(特) 小倉昌男（ヤマト運輸）	小倉昌男から学ぶ
	5	(特) カルロス・ゴーン（日産自動車）	カルロス・ゴーンから学ぶ
	6	(特) 稲盛和夫（京セラ・KDDI）	稲盛和夫から学ぶ
	7	(特) スティーブ・ジョブズ（アップル）①	スティーブ・ジョブズから学ぶ
	8	(特) スティーブ・ジョブズ（アップル）②	スティーブ・ジョブズから学ぶ
	9	(特) 南場智子（DeNA）	南場智子から学ぶ
	10	(特) 安藤百福（日清食品）	安藤百福から学ぶ
	11	(特) 本田宗一郎（本田技研工業）	本田宗一郎から学ぶ
	12	(特) 孫正義（ソフトバンク）	孫正義から学ぶ
	13	(特) 山田昭男（未来工業）	山田昭男から学ぶ
	14	(特) 星野佳路（星野リゾート）	星野佳路から学ぶ
	15	(特) 期末試験	学習内容をまとめる
	16	(特) まとめ	学習成果をまとめる
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。		
	評価 期末試験（50%）、中間レポート（20%）、ミニレポート（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅰ、ベンチャー経営論Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 清村 英之	前期	金 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	メッセージ 現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
-------	--	---

到達目標	① 高度な商業簿記・工業簿記の知識・技術を習得し、財務諸表から企業の経営内容を把握できる。 ② 会計学の各領域を理解し、説明できる。 ③ 会計学の各領域に興味・関心を持ち、個々の領域について自ら意欲的に学習し、理解を深めることができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)	シラバスの理解(以下、前/後)
	2	会計とは?	配布資料①の精読/講義内容の復習
	3	会計の歴史①-イタリア・ルネサンスと複式簿記	配布資料②の精読/講義内容の復習
	4	会計の歴史②-オランダ海上帝国と期間計算	配布資料②の精読/講義内容の復習
	5	会計の歴史③-イギリス産業革命と減価償却	配布資料②の精読/講義内容の復習
	6	会計の歴史④-現在:会計の国際化	配布資料②の精読/講義内容の復習
	7	財務諸表の作り方①-連結貸借対照表	配布資料③の精読/講義内容の復習
	8	財務諸表の作り方②-連結損益計算書	配布資料③の精読/講義内容の復習
	9	財務諸表の読み方①-成長性分析	配布資料④の精読/講義内容の復習
	10	財務諸表の読み方②-収益性分析(資本利益率)	配布資料④の精読/講義内容の復習
	11	財務諸表の読み方③-収益性分析(売上高利益率)	配布資料④の精読/講義内容の復習
	12	財務諸表の読み方④-効率性分析	配布資料④の精読/講義内容の復習
	13	財務諸表の読み方⑤-安全性分析	配布資料④の精読/講義内容の復習
	14	コロナウイルス感染拡大が企業業績に与えた影響	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
	15	コロナウイルス感染拡大が企業経営に与えた影響	配布資料⑤の精読/講義内容の復習
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。
-------	--

学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・会計コースを選択した学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。  ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう(新聞は図書館に各紙揃っています)。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
--------	---

評価	・平常点……20点(講義中の取組みを評価します) ・レポート……80点(上記「到達目標」を評価します)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記 I II, 会計学 I II, 英文簿記・会計など, 会計コースの科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの準備	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	各班ミーティング
	2	グループワーク(1)： ビジネスアイデアの探求	各班プレゼン資料作成
	3	グループワーク(2)： 業界研究	各班プレゼン資料作成
	4	経営学の基礎	各班プレゼン資料作成
	5	経営形態の歴史的発展	各班プレゼン資料作成
	6	生産管理の歴史的発展	各班プレゼン資料作成
	7	経営管理論の展開	各班プレゼン資料作成
	8	現代企業の経営組織	各班プレゼン資料作成
	9	現代企業の経営戦略	各班プレゼン資料作成
	10	現代企業の生産システム	各班プレゼン資料作成
	11	現代企業の人的資源管理	各班プレゼン資料作成
	12	トヨタ生産方式とその発展	各班プレゼン資料作成
	13	情報化と企業の変革	各班プレゼン資料作成
	14	現代企業のグローバル化	各班プレゼン資料作成
	15	現代の企業統治と倫理・社会的責任	学習内容をまとめる
16	前期のまとめ	学習成果を振り返る	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 井上秀次郎・安達房子 編 (2019) 『企業と社会が見える経営学概論』 大月書店。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。
-------	---

学びの実践	評価 受講態度（討論での積極的な発言など）50%、課題の完成度（各班プレゼンテーションと各自レポートなど）50%。なお、自分の班が報告班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい マーケティング理論に基づいた様々な事例(ケース)について、受講生が自らその事例(ケース)の意義や示唆を把握できるような能力を育成する。	メッセージ マーケティング・コース科目の履修において、基礎演習 I は、事例(ケース)調査とその情報のまとめ方について学習します。マーケティングの分野で活躍するためには、事例(ケース)調査と分析、それに関する情報をまとめることが非常に重要なスキルとなります。本講義では、多様な事例を自分の情報にする方法を演習します。
	到達目標 消費者トレンドに合わせて、様々な企業とビジネス、そして製品やサービスが次々登場したり、進化・革新したりします。マーケティングの視点から、現時点での消費者トレンドを読み取って、今後のマーケティングの課題とは何かを一緒に考えてみます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	基礎演習 I の学習方針を確認
	2	1次課題についてのガイダンス	グループ分け
	3	1次課題のグループ調査活動	グループ別調査活動
	4	消費者トレンド変化についての調査発表①	グループ発表とディスカッション
	5	消費者トレンド変化についての調査発表②	グループ発表とディスカッション
	6	消費者トレンド変化についての調査発表③	グループ発表とディスカッション
	7	消費者トレンド変化についての調査発表④	グループ発表とディスカッション
	8	消費者トレンド変化についての調査発表⑤	グループ発表とディスカッション
	9	2次課題についてのガイダンス	個人レポート課題準備
	10	2次課題のグループ調査活動	グループ別調査活動
	11	新消費者トレンドに合わせたケース調査発表①	グループ発表とディスカッション
	12	新消費者トレンドに合わせたケース調査発表②	グループ発表とディスカッション
	13	新消費者トレンドに合わせたケース調査発表③	グループ発表とディスカッション
	14	新消費者トレンドに合わせたケース調査発表④	グループ発表とディスカッション
	15	新消費者トレンドに合わせたケース調査発表⑤	グループ発表とディスカッション
	16	基礎演習 I のまとめ。	個人レポート提出締め切り
	テキスト・参考文献・資料など		
	1. テキストおよび参考文献： ①テキスト：使用しません。別途の参考資料を配布 ➡その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。 ②参考文献：池尾恭一『マーケティング・ケーススタディ』、碩学舎、2015年。		
	学びの手立て		
	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に反映しますので、ご注意ください。 ➡やむを得ず欠席した場合、欠席届を提出してください。 2. グループの発表2回、そして他グループの発表についての個人の鑑賞レポート1回で評価します。		
	評価		
	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. グループ課題2回(70%)と個人レポート1回(30%)の評価を総合して評価します。 *出席が優秀な受講生は総合評価後、加点をつけます		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、グローバル・マーケティング総論、流通論などのマーケティング・コース関連科目
-------	--

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 金 1	単位 2
	担当者 清村 英之	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	メッセージ 現時点では、「簿記＝会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
-------	--	---

到達目標	① 高度な商業簿記・工業簿記の知識・技術を習得し、財務諸表から企業の経営内容を把握できる。 ② 会計学の各領域を理解し、説明できる。 ③ 会計学の各領域に興味・関心を持ち、個々の領域について自ら意欲的に学習し、理解を深めることができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等)	シラバス理解(以下、前/後)
	2	貨幣の時間価値①－複利計算と将来価値	配布資料①の精読/講義内容の復習
	3	貨幣の時間価値②－割引計算と現在価値	配布資料①の精読/講義内容の復習
	4	貨幣の時間価値③－アニュイティ	配布資料①の精読/講義内容の復習
	5	貨幣の時間価値④－時間価値と会計(貸倒見積高の算定、リース会計など)	配布資料①の精読/講義内容の復習
	6	投資意思決定①－投資の意義と種類	配布資料②の精読/講義内容の復習
	7	投資意思決定②－投資決定のための評価方法	配布資料②の精読/講義内容の復習
	8	投資意思決定③－不確実性下の投資意思決定	配布資料②の精読/講義内容の復習
	9	経営計画と短期利益計画①－経営計画の意義・種類	配布資料③の精読/講義内容の復習
	10	経営計画と短期利益計画②－損益分岐点分析	配布資料③の精読/講義内容の復習
	11	経営計画と短期利益計画③－損益分岐点分析の活用	配布資料③の精読/講義内容の復習
	12	キャッシュ・フロー計算書①－キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性	配布資料④の精読/講義内容の復習
	13	キャッシュ・フロー計算書②－キャッシュ・フロー計算書の作成(直接法)	模擬授業④の精読/講義内容の復習
	14	キャッシュ・フロー計算書③－キャッシュ・フロー計算書の作成(間接法)	配布資料④の精読/講義内容の復習
	15	キャッシュ・フロー計算書③－キャッシュ・フロー計算書の作成(練習問題)	配布資料④の精読/講義内容の復習
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。プリントを配布します。 参考文献：講義中に紹介します。
-------	--

学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・会計コースを選択し、「基礎演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。  ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう(新聞は図書館に各紙揃っています)。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
--------	--

評価	・平常点……20点(講義中の取組みを評価します) ・レポート……80点(上記「到達目標」を評価します)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ、会計学ⅠⅡ、英文簿記・会計など、会計コースの科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい マーケティング・リサーチについて学習し、受講生が自ら簡単な調査分析が実施できるように演習する。	メッセージ マーケティングの研究ならびにマーケティングの実務において、マーケティング・リサーチの重要性はますます高まっています。将来マーケティングの分野で活躍する際に必要なマーケティング・リサーチの基本スキルに関する基礎的な知識を学習し、実際のデータの収集と分析方法について演習します。
	到達目標 1. マーケティング・リサーチの基礎的な知識を学習する。 2. マーケティング・リサーチの基礎的な分析方法について学習する。 3. マーケティング・リサーチの報告書の作成方法について学習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	グループ分け
	2	マーケティング分析の楽しさ	資料をよく読むこと
	3	マーケティング・リサーチ__質問票(アンケート)の設計	資料をよく読むこと
	4	グループ別アンケート設計(作成)演習	グループ研究活動
	5	アンケート内容の発表①	グループ・ディスカッション
	6	アンケート内容の発表②	グループ・ディスカッション
	7	アンケート調査方法ガイダンス	Google Forms演習
	8	グループ発表(期末報告書)の作成方法	資料をよく読むこと
	9	マーケティング分析の演習__記述統計・クロス分析	オンライン動画参照
	10	グループアンケート実施	フィールドワーク
	11	グループ発表1回	グループ・ディスカッション
	12	グループ発表2回	グループ・ディスカッション
	13	グループ発表3回	グループ・ディスカッション
14	グループ発表4回	グループ・ディスカッション	
15	報告書作成	グループ研究活動	
16	基礎演習Ⅱのまとめ	期末報告書提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。別途の参考資料を配布 *その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。 *授業の関連資料は「沖国大ポータル」にて「授業連絡」もしくは「授業共有ファイルにてアップ・ロード」します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。 2. 実際の分析方法など、自らの演習や復習が重要な授業です。積極的に講義に参加してください。		
	評価 1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. グループ課題2回(100%)の評価を総合して評価します。 *出席が優秀な受講生は総合評価後、加点をつけます		

学びの継続	次のステージ・関連科目 サービス・マーケティング、広告論、観光マーケティングなど、更にマーケティングの専門科目に進んでいく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの準備	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	各班ミーティング
	2	企業の誕生： メルカリ	各班プレゼン資料作成
	3	環境・戦略・組織： フォード、GM	各班プレゼン資料作成
	4	競争戦略の基本型： マクドナルド、モスバーガー	各班プレゼン資料作成
	5	図書館ガイダンス	図書館利用に慣れる
	6	事業のリストラクチャリングと組織改革： GE	各班プレゼン資料作成
	7	ビジネス・システム： コマツ	各班プレゼン資料作成
	8	破壊的技術への対応と新規事業創造： 富士フイルム	各班プレゼン資料作成
	9	プラットフォーム・ビジネス： アップル	各班プレゼン資料作成
	10	経営理念と組織文化： リクルート	各班プレゼン資料作成
	11	人材のマネジメント： 双日	各班プレゼン資料作成
	12	日本的生産システム： トヨタ	各班プレゼン資料作成
	13	成熟市場における商品開発： サントリー	各班プレゼン資料作成
	14	環境変化期のマーケティング活動： 良品計画	各班プレゼン資料作成
	15	ビジネスの倫理： JR西日本	学習内容をまとめる
16	後期のまとめ	学習成果を振り返る	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ（2019）『ケースに学ぶ経営学 [第3版]』有斐閣ブックス。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。
-------	---

学びの実践	評価 受講態度（討論での積極的な発言など）50%、課題の完成度（各班プレゼンテーションと各自レポートなど）50%。なお、自分の班が報告班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	業績管理会計	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 会計情報は経営管理のために不可欠です。管理会計は能率的、効率的に経営管理を実施するためのシステムです。本講義では管理会計の理論を理解し、練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者や管理者、あるいは管理される労働者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントのための会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	管理会計のフレームワーク	配布したプリントを読み問題を解く
	3	原価概念	配布したプリントを読み問題を解く
	4	特殊原価調査 I	配布したプリントを読み問題を解く
	5	特殊原価調査 II	配布したプリントを読み問題を解く
	6	標準原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	7	標準原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	8	利益計画 I	配布したプリントを読み問題を解く
9	利益計画 II	配布したプリントを読み問題を解く	
10	利益計画 III	配布したプリントを読み問題を解く	
11	予算管理 I	配布したプリントを読み問題を解く	
12	予算管理 II	配布したプリントを読み問題を解く	
13	事業部制会計 I	配布したプリントを読み問題を解く	
14	事業部制会計 II	配布したプリントを読み問題を解く	
15	事業部制会計 III	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『エッセンシャル管理会計』谷武幸中央経済社 『管理会計入門ゼミナール [改訂版]』高栢真一編著、創成社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので電卓を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%、テスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算、戦略管理会計
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル観光ビジネス	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	i.sanjon@okiu.ac.jp または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々な観光ビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</li> <li>世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、観光ビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</li> </ol>	<p>本講義を履修する学生は、自分が興味を持っている世界の様々な観光地へ旅行に行くことを想像しながら、自分の旅行であったら嬉しい観光サービスについて考えてみてください。本講義は観光ビジネスが観光客に利便性と楽しさを伝えるための多様な活動について説明します。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様で複雑になっている現在の観光ビジネスに関する基礎的な知識を習得する</li> <li>世界の重要な観光目的地の観光ビジネスの特徴を学習する</li> <li>観光分野で活躍できるような力を得ることを講義の目標とする。</li> </ol>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	科目特徴を理解
	2	観光事業のマネジメント特性	テキストを読む
	3	観光事業のイノベーション	テキストを読む
	4	観光事業のグローバル経営	テキストを読む
	5	観光のマーケティング・マネジメント	テキストを読む
	6	観光とWEBビジネス	テキストを読む。
	7	観光関連産業の基幹事業__旅行業	テキストを読む
	8	観光関連産業の基幹事業__宿泊業（レポート課題公開）	テキストを読む。レポート準備
	9	観光関連産業の基幹事業__航空輸送業	テキストを読む
	10	観光関連産業の基幹事業__テーマパーク	テキストを読む
	11	観光事業の展開モデル__総合型リゾート	テキストを読む
	12	観光事業の展開モデル__地域の観光まちづくり事業	テキストを読む。
	13	観光事業の展開モデル__地域ブランドの構築	テキストを読む。
	14	観光事業の展開モデル__地域のインバウンド事業	テキストを読む。レポート提出
15	学習内容のまとめ	総合ディスカッション	
16	期末テスト	テキストを読む	

テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> <li>テキスト：高橋一夫・柏木千春 編著『1からの観光事業論 第1版』碩学舎、2016年。</li> <li>その他、読んでほしい資料は適宜授業で紹介します。</li> </ol>
----------------	--

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</li> <li>テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</li> </ol>
--------	--

評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。</li> <li>レポート2回(40%)と期末テスト(60%)の評価を総合して評価します。</li> </ol>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『消費者行動概論』科目の履修を通じて、観光客行動とを消費者行動との違いを勉強してみることも、いい勉強になると思います。 次のステージ：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング演習	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	授業プリントを読んで内容を理解できる。県系企業の海外進出に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄ブランドのマーケティングを考える。	毎回、写真付きのプリントを配布します。このプリントを通して、沖縄のいいところを再認識できます。

到達目標	初歩的な国際マーケティングの実際を理解できる。特産品について自分で調べ、レポートを作成できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) クラス予定やレポート・テーマの説明(特産品の国際マーケティング)	課題の報告手法を検討する
	2	(対) 講義・討論 (ポジショニング戦略)	プリント読み
	3	(対) 講義・討論 (沖縄スタイルのブランド化ーかりゆしウェア産業のケース)	プリント読み
	4	(対) 講義・討論 (沖縄伝統文化の復活ー伝統工芸・建築資材業界のケース)	プリント読み
	5	(対) 講義・討論 (世界へのクリエイション発信と沖縄のファッション文化戦略)	プリント読み
	6	(対) 講義・討論 (沖縄ブランドの確立ー黒糖・塩産業のケース)	プリント読み
	7	(対) 講義・討論 (沖縄ブランドグローバル化ーオリオンビールのケース)	プリント読み
	8	(対) 講義・討論 (沖縄ブランドグローバル化ー泡盛のケース)	プリント読み
	9	(対) 講義・討論 (沖縄総合ウェルネス産業ー健康美容複合産業のケース)	プリント読み
	10	(対) 講義・討論 (成長する沖縄コスメブランド)	プリント読み
	11	(対) 講義・討論 (成長する沖縄コスメブランド)	プリント読み
	12	(対) 講義・討論 (沖縄料理・食材のマーケティング法ー地域ブランドのグローバル化)	プリント読み&報告の準備
	13	(対) 講義・討論 (差別化と新しい商品の開発ーお菓子産業のケース)	レポート課題の作成
	14	(対) 講義・討論 (島おこしと地域文化マーケティング戦略)	レポート課題の作成
15	(対) レポートの最終提出 (県産品の国際マーケティング)	期末テストの準備	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展開』ポーターインク
-------	---

学びの手立て	①授業で用いる資料等は授業連絡で案内するので、各自で添付PDFを印刷した上で授業に参加すること。②新型コロナウイルス感染状況次第では、レポート・感想文の提出も授業連絡を通じて案内する。③『グローバル・マーケティング総論』の受講を前提とせずに補足説明を加える。
--------	---

評価	定期テストあるいはレポート課題(コロナ感染状況次第)70%、平常点約30%で総合的に評価する。新型コロナウイルス感染拡大状況次第で評価方法は変更される場合がある。なお詳細は初回講義時に説明する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」「アジア企業と文化」「グローバルマーケティング総論」 次のステージ：授業で学んだ知識は現実の世界に応用できる。マーケティング、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング総論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際的なマーケティング活動の動向について、事例をとりあげながら解説する。様々な特性を有する各国・地域の市場特性や社会文化の多様性に合ったマーケティング活動を多様な面から捉え、履修生の国際感覚を磨く。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける
------	--------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある)</p> <p>第01回 クラスの予定の説明 (資料1を読む)</p> <p>第02回 グローバル・マーケティング (資料1を読む)</p> <p>第03回 国際製品ライフサイクルモデル (資料1を読む)</p> <p>第04回 グローバル市場の環境分析1 (資料2を読む)</p> <p>第05回 グローバル市場の環境分析2 (資料2を読む)</p> <p>第06回 グローバル消費者とSTP分析 (資料2を読む)</p> <p>第07回 マーケット参入と拡大戦略 (資料3を読む)</p> <p>第08回 【理解度テスト】 (すべての講義資料を復習)</p> <p>第09回 ~第13回 国際ビジネス課題の発表 (発表内容の資料収集・準備)</p> <p>第14回 レポートの作成 (各グループ・レポートの修正)</p> <p>第15回 レポートの点検 (各グループ・レポートの修正)</p> <p>第16回 期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①小田部正明・Hクリスチアン (2001) 『グローバルビジネス戦略』横井義則監訳、同文館。</p> <p>②諸上茂登・藤沢武史 (2004) 『グローバル・マーケティング』中央経済社。</p> <p>その他</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>積極的に学ぶ姿勢が必要である</p>
	<p>評価</p> <p>試験 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ: アジア消費・流通論、中小企業マーケティング論、専門演習I・IIなど</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル流通論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎知識を習得し、今日の流通実態を理解する。                  ②小売業の国際展開と日本市場の変容について理解する。                  ③インターネットを介した流通への変容について理解する。</p>	<p>本講義は、オンラインによる特例授業（全15回）を実施する。                  受講学生は「沖国大ポータル」で配布される第1回講義資料をよく読んで、講義資料に記載されている指示に従って、第1回講義開始までにオンライン授業に参加する準備を行うこと。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な知識を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②世界の流通を取り巻く市場環境の変化についての理解を深めると同時に、日本市場の変化について考えることができる。                  ③越境ECや物流の効率化など、身近な事例から流通業に対する理解を深めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	(特) グローバル流通とは何か	グローバル流通の意義について確認
	3	(特) 流通が必要な理由	流通の必要性について確認
	4	(特) 日本市場における流通を取り巻く環境の変化	日本の流通変容について確認
	5	(特) 巨大小売業の台頭と小売業態間競争	世界の流通変容について確認
	6	(特) デジタル・マーケティング	デジタル・マーケティングの確認
	7	(特) GAFAの台頭とデータ流通	GAFAについて確認
	8	(特) EC市場の現状	EC市場について確認
	9	(特) 越境EC	越境ECについて確認
	10	(特) 先進テクノロジーによる物流の革新	技術進歩と流通革新について確認
	11	(特) 欧州における食品流通と消費スタイル	欧州の食品流通について確認
	12	(特) CSRからSDGsへ	CSR, CSV, SDGsについて確認
	13	(特) 総合商社のグローバル展開	総合商社の変化について確認
	14	(特) グローバルSPAに見る消費財流通	SPA業態の発展について確認
15	(特) キャッシュレス決済の現状	キャッシュレス決済について確認	
16	(特) 予備日	予備日	

テキスト・参考文献・資料など
<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、毎回持参すること。                  ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社                  【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。                  ・斎藤雅道・佐久間英俊編著（2018）『グローバル競争と流通・マーケティング』ミネルヴァ書房                  【使用ツール】：毎回の講義で使用するため、各自で必ず準備すること。第1回講義資料で導入説明。                  ・Microsoft Teams (<a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software">https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software</a>)</p>

学びの手立て
<p>【履修の心構え】                  ①スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、流通チャネルの重要性を身近から学ぶこと。                  ②新聞などに目を通し、卸売業・小売業の動向についてチェックすること。                  ③①や②を通じて、現代流通の問題点について自分自身で考える癖をつけること。</p>

評価
<p>【成績評価の内訳】 (100%)                  1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (30%)                  2. レポート課題〈中間試験〉 (30%)                  3. レポート課題〈期末試験〉 (40%)                  ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目                  世界における流通業の役割および日本市場の変容について学び。今後の卸売業・小売業のありかたを考える。                  関連科目として、日本流通論や貿易ビジネス論がある。</p>

※ポリシーとの関連性

企学科2年生については4月はじめに「抽選」を行うので留意されたい。本年度履修は教室狭隘のため【企学科生のみ】に制限する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年	講義の質問時間中(10:20~10:30)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>上のポリシーのように、履修制限があるので注意されたい。年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目(全年科目)合計4.0単位に相当する。経営管理は①生産管理、②人的管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも①生産管理と②人的管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。</p> <p>到達目標 経営計画について、よく理解できるようになる。</p>	<p>「皆さん、経営管理についてしっかり学習してまいりましょう(天野)」 なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、手動抽選・登録手続を行なってください。本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていく所存です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	講義のすすめ方、評価のしかた	講義中に指示する
2	経営概念	講義中に指示する	
3	企業概念	講義中に指示する	
4	経営職能	講義中に指示する	
5	テーラー=システム	講義中に指示する	
6	フォード=システム	講義中に指示する	
7	オートメーション	講義中に指示する	
8	「労働科学」	講義中に指示する	
9	人間関係論	講義中に指示する	
10	「行動科学」	講義中に指示する	
11	テーラー式組織	講義中に指示する	
12	伝統的組織論	講義中に指示する	
13	自生組織と成文組織	講義中に指示する	
14	まとめ講義	講義中に指示する	
15	講評	講義中に指示する	
16	(予備日)		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>(テキスト) 未定 (参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小松『経営学 第3版』サイエンス社。</li> <li>・ 占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。</li> <li>・ 藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので準備不足・受験忘れ等、なきように注意されたい。</p>		
	評価		
	<p>概ね次の通りとする。 発言・質問・課題・ショートテストの達成度が85%、平常点が15%。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営管理論II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅱ	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年	講義の質問時間中(10:20~10:30)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.0単位に相当する。経営管理は①生産管理、②人的管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部分に分かち把握せられる。後期も、このなかで①生産管理と②人的管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。</p>	<p>【重要】本講義には【履修制限】があり、履修できる者は今年度前期「経営管理論Ⅰ」を履修していた者のみである。注意されたい。 本講義は抽選科目である。各学期の初回対面講義(4,10月)では面談のうえ、登録をおこなうので必ず出席されたい。</p>
到達目標	<p>「経営統制について、よく理解できるようになる。」 基本的に対面講義とするが特例講義・リモート講義を実施することもあるので、留意されたい。また以下の講義計画・授業計画は変更がありうる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経営戦略概論	講義中に指示する
	2	戦略的組織	講義中に指示する
	3	企業成長	講義中に指示する
	4	生存領域の規定（1）	講義中に指示する
	5	生存領域の規定（2）	講義中に指示する
	6	生存領域の規定（3）	講義中に指示する
	7	資源展開の戦略（1）	講義中に指示する
8	資源展開の戦略（2）	講義中に指示する	
9	競争の戦略（1）	講義中に指示する	
10	競争の戦略（2）	講義中に指示する	
11	競争の戦略（3）	講義中に指示する	
12	組織間関係の戦略	講義中に指示する	
13	教材学習	講義中に指示する	
14	まとめ・ショートテスト	講義中に指示する	
15	講評	講義中に指示する	
16	[ 予備日 ]		
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 未定 (参考文献) ・ 小松『経営学 第3版』サイエンス社。 ・ 占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。 ・ 藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>		
学びの手立て	<p>前提科目「経営管理論Ⅰ」 遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>		
評価	<p>概ね次の通りとする。 発言・質問・課題・ショートテストの達成度が 85%。平常点が 15%。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次 → 国際経営論Ⅰ・国際関係論Ⅰ
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

卒業後の進路を見さだめて、ビジネスの基礎知識をまなぶ。なお本年度に限り履修は教室狭隘のため【企業学科生のみ】に制限する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1 年	学内で講義の質問時間中(12:00~12:10)に直接、問い合わせること。	

学びの準備	ねらい 「経営学に関する基礎的な知識を学ぶ。」 なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ 「みなさん、国際社会に貢献する人材となるための基礎知識をまなびましょう。」
	到達目標 国際経営に関する基礎知識が、理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の概要・授業の進め方・成績評価	関連図書の講読
	2	集団意識と行動特性	日本人の文化について
	3	日本的経営	三種の神器について
	4	経営理念	企業者像について
	5	経営組織	年功序列制度について
	6	日本的経営の普遍性	帰属意識について
	7	日本的経営の特殊性	終身雇用について
	8	賃金の日米比較	年功主義と能力主義について
	9	三種の神器・年功序列制度	労組・長期雇用について
	10	株式会社の歴史	企業形態について
	11	人間関係論	ホーゾン実験について
	12	科学的管理法	時間研究について
	13	「行動科学」	自己実現モデルについて
	14	ポータの競争戦略論	3つの基本戦略について
	15	マクレガのXY理論	「行動科学」について
	16	[ 予備日 ]	
	テキスト・参考文献・資料など (参考文献) ・ 佐久本朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン。 ・ 上間隆則『経営学要論』中央経済社。 (テキスト) ・ 佐久間信夫『経営学概論』創成社。		
	学びの手立て 講義中に紹介された学説・理論について再度、図書館で関連文献を読んでくることがのぞましい。		
	評価 講義中1~3回程度のショートテスト実施を計画している(85点)。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・対策不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。 また平常点(発言・質問・受講態度・課題提出など)が15点である。 定期試験は今のところ予定していない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年次 → 経営学総論 II 2年次 → 基礎演習 (各コース) 3年次 → 経営管理論 I・国際経営論 I
-------	---

※ポリシーとの関連性 卒業後の進路を見定めて、ビジネスの基礎知識を学ぶことが重要で  
す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年	本学学内メールあるいは講義前後に直接問い合わせること	

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ 国際社会に貢献する人材育成
	到達目標 国際経営に関する基礎知識を学ぶ	

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ 国際社会に貢献する人材育成
	到達目標 国際経営に関する基礎知識を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本人の集団意識	関連図書の朗読
	2	日本人の行動特性	日本人の文化
	3	日本的経営	三種の神器
	4	日本の経営理念	日本の企業者像
	5	日本型組織	年功制度
	6	日本的経営の普遍性	労働者の帰属意識
	7	日本的経営の特殊性	終身雇用制度
	8	賃金の日米比較	年功序列制度と能力主義
	9	日本的経営の神器	企業別組合
	10	日本の年功序列制度	日本の長期的雇用制度
	11	株式会社の歴史	企業形態
	12	人間関係論	ホーソン実験
	13	科学的管理法	時間研究とモーションスタディ
	14	行動科学	自己実現モデル
	15	マイケルポーターの競争戦略論	5フォースと3つの基本戦略
16	マクレガールのXY理論	人間の行動科学	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本朝一著『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝, 1997年.
-------	--

学びの実践	学びの手立て 講義中に展開された理論を再度、図書館で関連文献を読んでくれることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 2回(25点+25点)実施される理解度テストと授業中における質疑での理解力チェック(50点),合計100点による。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義は基本的に経営学IIと年間を通して展開されるので後期に経営学IIを履修することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「経営学総論Ⅰ(2単位)」と同様に将来、ビジネス活動に活かせるような基礎的知識をまなぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 経営学総論Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 月 2	単位 2
	担当者 天野 敦央	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			基本的には講義終了時(12:00~12:10)の、質問時間中に問い合わせが可能である。	

学びの準備	ねらい 日本の経営がどのようなものであるかを理解するために、後期は経営システムの実態分析を行う。特に企業文化や経営概念などの観点から、企業者活動について述べる。後期は、経営の成立条件について先行研究やケーススタディから理解していく。 なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,10月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ 【重要】本講義には【履修制限】があり、履修できる者は今年度前期「経営学総論Ⅰ」を履修していた者のみである。注意されたい。
	到達目標 ビジネス活動にやくだつ基礎知識が、よく理解できるようになる。 基本的に対面講義を基本とするが、特例講義・リモート講義を実施することがある。また以下の講義計画・授業計画は変更がありうる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の概要	講義中に指示する
	2	経営人事システムの特質	講義中に指示する
	3	経営の編成原理 (1)	講義中に指示する
	4	経営の編成原理 (2)	講義中に指示する
	5	集団意識と行動特性 (1)	講義中に指示する
	6	集団意識と行動特性 (2)	講義中に指示する
	7	経営と経営理念 (1)	講義中に指示する
	8	経営と経営理念 (2)	講義中に指示する
	9	組織におけるコミュニケーション (1)	講義中に指示する
	10	組織におけるコミュニケーション (2)	講義中に指示する
	11	経営学の普遍性	講義中に指示する
	12	日本的経営の特殊性 (1)	講義中に指示する
	13	経営学の問題点	講義中に指示する
	14	まとめ・ショートテスト	講義中に指示する
	15	講評	講義中に指示する
	16	[ 予備日 ]	
	テキスト・参考文献・資料など (参考文献) ・ 佐久本朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン。 ・ 上間隆則『経営学要論』中央経済社。 (テキスト) ・ 佐久間信夫『経営学概論』創成社。		
	学びの手立て 前提科目「経営学総論Ⅰ」。 講義中に紹介される関連文献を参照することが望ましい。		
	評価 講義中2回程度のショートテスト実施を計画している(85点)。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・対策不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。 また平常点(発言・質問・受講態度・課題提出など)が15点である。  定期試験は今のところ予定していない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経営に関連する講義として「比較経営学Ⅰ」、「国際経営論Ⅱ」や「基礎演習Ⅰ」の履修により、教員との議論に参加することが必要である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年	基本的には講義終了後、質疑応答の時間で問い合わせが可能である。	

学びの準備	ねらい 日本の経営(日本的経営)がどのようなものであるのかを理解するために、前期は日本の経営システムの実態析を行う。特に日本企業の文化や経営理念などの観点から、日本の企業者活動について述べ、日本的経営が成立する条件とは何であるのかについて、先行研究やケーススタディから理解していく。	メッセージ 国際経営に関する基礎知識の習得
	到達目標 将来、自己でベンチャー企業を展開しうる能力の育成を目指す	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 本講義の概要	
	2	(対) 日本型雇用システムの特質	レポートの提出
	3	(対) 日本的経営の編成原理Ⅰ	
	4	(対) 日本的経営の編成原理Ⅱ	
	5	(対) 日本人の集団意識と行動特性Ⅰ	
	6	(対) 日本人の集団意識と行動特性Ⅱ	
	7	(対) 日本的経営と経営理念Ⅰ	
	8	(対) 日本的経営と経営理念Ⅱ	
	9	(対) 日本型組織におけるコミュニケーションⅠ	
	10	(対) 日本型組織におけるコミュニケーションⅡ	
	11	(対) 日本的経営の普遍性Ⅰ	
	12	(対) 日本的経営の普遍性Ⅱ	レポートの提出
	13	(対) 日本的経営の特殊性Ⅰ	
	14	(対) 日本的経営の特殊性Ⅱ	
15	(対) 日本的経営の問題点		
16	(対) マイケルポーターの競争戦略論	レポートの提出	
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝、1997年。		
	学びの手立て 講義中に展開されている関連文献を参照することが望ましい。		
	評価 各レポートの提出状況(80点)とその内容(20点)により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経営に関連する講義として国際経営論や経営の演習参加により教員との議論に参加することが必要である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業内容に関する自己学習
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	QC 7つ道具による分析	自分のパソコンを使った復習
	6	度数分布表の作成	自分のパソコンを使った復習
	7	ヒストグラムの作成	自分のパソコンを使った復習
	8	中間テスト	これまでの学習内容の復習
9	パレート図とABC分析	資料にもとづく演習の実施	
10	管理図の作成	自分のパソコンを使った復習	
11	散布図の利用	自分のパソコンを使った復習	
12	特性要因図について	自分のパソコンを使った復習	
13	チェックシートの利用	自分のパソコンを使った復習	
14	統計的品質管理の概要	配布資料に基づく復習と予習	
15	統計的品質管理の実際	配布資料に基づく復習と予習	
16	期末テスト	これまでの学習内容の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。	
	学びの手立て	一般的に教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いが出ます。前の席に着座すると学習効果が上がりますし、学習意欲の評価にもつながります。	
	評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業内容に関する自己学習
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	QC7つ道具による品質管理	配布資料に基づく復習と予習
	6	ヒストグラムの作成	資料にもとづく演習の実施
	7	パレート図とABC分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	これまでの学習内容の復習
	9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施
	10	正規分布の利用	資料にもとづく演習の実施
	11	記述統計	自分のパソコンを使った復習
	12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習
	13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習
14	初歩的な分散分析の利用	自分のパソコンを使った復習	
15	統計的品質管理のまとめ	これまでの学習内容の復習	
16	期末テスト	これまでの学習内容の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。		
学びの手立て	一般的に教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いが出ます。前の席に着座すると学習効果が上がりますし、学習意欲の評価にもつながります。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営数学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Excelを用いて、線形計画法、日程計画、在庫管理および待ち行列について学ぶ。	メッセージ 現代の企業経営においては、経営上の意思決定を下すために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。
	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチが理解できるようになる。	

学びの準備	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチが理解できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスの確認
	2	線形計画法 ①	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	線形計画法 ②	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	線形計画法 ③	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	線形計画法 ④	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	日程計画 ①	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	日程計画 ②	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	日程計画 ③	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	日程計画 ④	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	在庫管理 ①	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	在庫管理 ②	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	在庫管理 ③	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	待ち行列 ①	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	待ち行列 ②	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	待ち行列 ③	当該講義の復習/次回講義の予習
16	期末試験	講義内容の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。適宜プリントを配布します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て Excelの基礎知識がある者のみを登録する。これらの技術が無い場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。 毎回の講義の積み重ねで進行するため、可能な限り遅刻・欠席はしないように。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度（30%）と期末試験の結果（70%）を総合的に判断し評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営情報処理Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那原 建	3年	yonahara@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 持続的競争優位につながる経営戦略の内容を明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真摯な姿勢で講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの準備	ねらい 持続的競争優位につながる経営戦略の内容を明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真摯な姿勢で講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：本講義の概要説明	学習計画を立てる
	2	経営戦略とは何か	事後学習と疑問等の確認
	3	経営戦略のキーワード：競争優位と事業の定義	事後学習と疑問等の確認
	4	経営戦略のキーワード：環境適応と一連の基本的意思決定	事後学習と疑問等の確認
	5	経営戦略のレベル-全社レベルの戦略（企業戦略）	事後学習と疑問等の確認
	6	経営戦略のレベル-事業レベルの戦略（競争戦略）	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ①	学習成果をまとめる
	8	ドメインの定義	事後学習と疑問等の確認
	9	経営資源の獲得：オーバーエクステンション	事後学習と疑問等の確認
	10	経営資源の配分：P P M	事後学習と疑問等の確認
	11	業界構造分析：ファイブフォース・モデル	事後学習と疑問等の確認
	12	業界構造の事例分析	事後学習と疑問等の確認
	13	競争戦略の基本型とトレードオフ：戦略グループと移動障壁	事後学習と疑問等の確認
	14	ビジネスシステムの構築と持続的競争優位	事後学習と疑問等の確認
	15	ビジネスシステムの事例分析	事後学習と疑問等の確認
16	まとめ②	学習成果をまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜資料を配付する。参考文献については、講義の中で紹介していく。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 事後学習（復習）をしっかりと行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。メールでの質問も対応可。
-------	--

学びの実践	評価 出席状況（10%）、小レポート（20%）、定期試験（70%）
-------	--------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営戦略論 II
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(16:00~16:10)に、対応する。	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略の内容を、多角的な視野から論じていく。	メッセージ 「後期も ひきつづき、ともに 経営戦略を まなんでまいりましょう。」
	到達目標 経営戦略の思考方法をつうじて、経営現象をとらえることができるようになる。 基本的に対面講義とするが、感染情勢によっては特例講義・リモート講義を実施することがある。また以下の講義計画・授業計画は変更がありうる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期の開講	学習計画の立案
	2	成長戦略	事後学習と疑問等の確認
	3	技術戦略	事後学習と疑問等の確認
	4	バルカナイズ戦略	事後学習と疑問等の確認
	5	プライスリーダーシップ戦略	事後学習と疑問等の確認
	6	大企業戦略 vs. ベンチャ戦略	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ[3]	学習成果の要約
	8	証券市場戦略	事後学習と疑問等の確認
	9	継承戦略	事後学習と疑問等の確認
	10	人口戦略	事後学習と疑問等の確認
	11	食糧戦略	事後学習と疑問等の確認
	12	国際戦略	事後学習と疑問等の確認
	13	ティール組織戦略	事後学習と疑問等の確認
	14	まとめ[4]・ショートテスト	学習成果の要約
	15	講評	事後学習と疑問等の確認
	16	[ 予備日 ]	
	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 使用しない、かわりに適宜資料を配付する。 (参考文献) 講義中に紹介していく。		
	学びの手立て 事後学習(復習)を、しっかり行い まなんだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。 遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテスト実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので準備不足や受験忘れ等なきように注意されたい。		
	評価 概ね次の通りとする。 受講態度(10%)、小レポート(20%)そして、ショートテスト(70%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 責任感ある社会人へ。
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営分析は会社を知ることにある。それは、投資家や債権者といったステークホルダーが自らの利益を維持するために行ったり、企業内部の関係者が経営上の問題点を明らかにするために行われる。本講義は、経営分析の主流である財務分析をとりあげ、財務諸表を振り返ったうえで、会計情報を用いた経営分析について学んでいく。	メッセージ イメージだけで会社を判断すると、「就職先、失敗だった」「取引先に裏切られた」「株式投資に大損した」など、痛い目に遭うことが多い。そうならないためには会社の本当の姿を知らなければならない。会社の実態はその会社が発表する財務諸表を見るとおよその見当はつく。
	到達目標 ・経営分析に用いられる財務諸表について説明ができる。 ・経営分析を体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	経営分析の意義	経営分析の意義に関する学習
	3	企業会計の体系①	企業会計に関する学習
	4	企業会計の体系②	企業会計に関する学習
	5	経営活動と財務諸表	経営活動と財務諸表に関する学習
	6	貸借対照表と損益計算書の基本構造	B/S, P/Lの基本構造に関する学習
	7	会計諸制度と会計法規	会計諸制度・法規に関する学習
	8	損益計算書の本質と構造①	P/Lの本質と構造に関する学習
9	損益計算書の本質と構造②	P/Lの本質と構造に関する学習	
10	貸借対照表の本質と構造①	B/Sの本質と構造に関する学習	
11	貸借対照表の本質と構造②	B/Sの本質と構造に関する学習	
12	経営分析の体系と手法	経営分析の体系に関する学習	
13	実数分析の手法	実数分析の手法に関する学習	
14	比率分析の手法	比率分析の手法に関する学習	
15	CVP分析と損益分岐点	CVP分析に関する学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。		
	学びの手立て 「商業簿記Ⅰ」（4単位分）を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験80%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ・Ⅱなど、会計コースの各科目。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析演習	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経営分析は会社を知ることにある。それは、投資家や債権者といったステークホルダーが自らの利益を維持するために行ったり、企業内部の関係者が経営上の問題点を明らかにするために行われる。本講義は、会計情報を用いた経営分析の手法とその進め方について学んでいく。	受講生各自が、それぞれ興味をもった企業の会社情報（会計データ）を入手し、それを分析していく。分析結果を就活に活用するのもよいかもしれない。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営分析手法について説明ができる。</li> <li>・上記手法を活用した分析ができる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	企業の収益性を見る①（収益性分析と資本利益率）	収益性分析に関する学習
	3	企業の収益性を見る②（資本利益率の種類と展開）	資本利益率に関する学習
	4	企業の収益力を見る③（総資本経常利益率の展開）	総資本経常利益率に関する学習
	5	企業の収益力を見る④（売上高利益率の展開、資本回転率の展開）	売上高利益率に関する学習
	6	企業の安全性を見る①（安全性の意義とその分析）	安全性分析に関する学習
	7	企業の安全性を見る②（短期の支払能力の分析、資本構成の分析）	資本の調達・運用に関する学習
	8	企業の生産性を見る（労働生産性分析とその展開）	労働生産性に関する学習
	9	企業の成長性を見る（成長性分析）	成長性分析に関する学習
	10	企業の株式評価を見る（投資収益性分析）	投資収益性分析に関する学習
	11	中間試験	学習成果をまとめる。
	12	経営分析レポート作成①	会計情報の収集
	13	経営分析レポート作成②	分析指標による評価
	14	経営分析レポート作成③	分析指標による評価
15	経営分析レポート作成④	総合評価	
16	経営分析レポート作成⑤	レポートにまとめる。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。

学びの手立て
「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。

評価
中間試験40%、分析レポート50%、授業態度10% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。

学びの継続
次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ・Ⅱなど、会計コースの各科目。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論Ⅰ」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。	メッセージ 経済学的視点を身につけると、社会を見る目が変わります。
	到達目標 授業で学んだ概念や理論を用いて、日々の経済事象の背後に何があるのかを自ら考えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する
	2	需要曲線と供給曲線
	3	市場均衡と均衡の安定性
	4	需要曲線・供給曲線のシフト
	5	価格弾力性
	6	余剰分析①
	7	余剰分析②
	8	消費者行動の理論①
9	消費者行動の理論②	
10	消費者行動の理論③	
11	生産者行動の理論①	
12	生産者行動の理論②	
13	生産者行動の理論③	
14	パレート最適①	
15	パレート最適②	
16	まとめ	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		ミクロ経済学に関する文献の精読
		講義内容の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。適宜プリントを配布します。 【参考文献】 ・マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社	
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。 場合によっては、退室を求めます。	
	評価 期末試験（90%）、平常点（10%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。</p> <p>到達目標 授業で学んだ概念や理論を用いて、日々の経済事象の背後に何があるのかを自ら考えるようになる。</p>	<p>経済学的視点を身につけると、社会を見る目が変わります。</p>

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する
	2	国民所得の諸概念
	3	均衡所得の決定① 有効需要の原理、消費関数、投資関数
	4	均衡所得の決定② 消費・投資需要と均衡国民所得
	5	均衡所得の決定③ 需要の変化と乗数効果
	6	均衡所得の決定④ 需要の変化と乗数効果
	7	IS-LM分析① IS曲線①
8	IS-LM分析② LM曲線②	
9	IS-LM分析② LM曲線①	
10	IS-LM分析② LM曲線②	
11	財政政策①	
12	財政政策②	
13	金融政策①	
14	金融政策②	
15	講義の総括	
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		マクロ経済学に関する文献の精読
		講義内容の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。適宜プリントを配布します。	
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。	
	評価 期末試験（90％）、平常点（10％）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論Ⅰ、国際経済学
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s.sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 利益は、売上から原価を引くことで導出されます。そのため、原価計算は企業経営の基本です。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	原価および原価計算の基礎知識	配布したプリントを読み問題を解く
	3	原価の費目別計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	原価の費目別計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	原価の費目別計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	製造間接費の計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	製造間接費の計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	単純個別原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	9	単純個別原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	10	単純個別原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	11	原価の部門別計算と部門別個別原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	12	原価の部門別計算と部門別個別原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	13	単純総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	14	単純総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
15	単純総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社 『入門原価計算』清水孝、長谷川恵一、奥村雅史、中央経済社 『上級原価計算』清水孝、中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので電卓を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%、テスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 利益は、売上から原価を引くことで導出されます。そのため、原価計算は企業経営の基本です。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	総合原価計算における減損費と仕損費の処理Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算における減損費と仕損費の処理Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	工程別原価計算と組別総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
9	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
10	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
11	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
12	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
13	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
14	直接原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く	
15	直接原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社 『入門原価計算』清水孝、長谷川恵一、奥村雅史、中央経済社 『上級原価計算』清水孝、中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	工業簿記とは何か	配布したプリントを読み問題を解く
	3	工業簿記のしくみ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	材料費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	5	材料費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	6	労務費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	7	経費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	8	経費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	9	製造間接費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	10	製造間接費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	11	財務諸表 I	配布したプリントを読み問題を解く
	12	財務諸表 II	配布したプリントを読み問題を解く
	13	部門費計算	配布したプリントを読み問題を解く
	14	個別原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	15	個別原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：日商簿記2級合格を目指す人はテキストや練習問題を各自購入してください		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので電卓を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%、テスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	工業簿記とは何か	配布したプリントを読み問題を解く
	3	工業簿記のしくみ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	材料費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	5	材料費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	6	労務費計算	配布したプリントを読み問題を解く
	7	経費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	8	経費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	9	製造間接費計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	10	製造間接費計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	11	財務諸表 I	配布したプリントを読み問題を解く
	12	財務諸表 II	配布したプリントを読み問題を解く
	13	部門別計算	配布したプリントを読み問題を解く
	14	個別原価計算 I	配布したプリントを読み問題を解く
	15	個別原価計算 II	配布したプリントを読み問題を解く
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：日商簿記2級の合格を目指す人はテキストや練習問題を各自購入してください。		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%、テスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	総合原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
9	標準原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く	
10	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
11	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
12	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
13	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
14	本社・工場会計Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
15	本社・工場会計Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定した範囲を勉強する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：日商簿記2級合格を目指す人はテキストや練習問題を各自購入してください		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s.sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読み問題を解く
	2	総合原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	総合原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	総合原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	総合原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	標準原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	標準原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	標準原価計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	9	標準原価計算Ⅳ	配布したプリントを読み問題を解く
	10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	11	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	12	直接原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	13	直接原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	14	本社・工場会計Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	15	本社・工場会計Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：日商簿記2級合格を目指す人はテキストや練習問題を各自購入してください		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%、テスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	広告論	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、広告の成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品・サービスの情報を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	広告に関する情報を収集
	2	広告とは	テキストを読む
	3	マーケティングミックス	テキストを読む
	4	マーケティング・コミュニケーション	テキストを読む
	5	広告のコミュニケーション的役割	テキストを読む
	6	マスコミュニケーション4媒体	テキストを読む
	7	テレビCM	テキストを読む。CMのレポート作成
	8	ラジオ広告	テキストを読む
	9	新聞広告	テキストを読む。新聞レポート作成
	10	雑誌広告	テキストを読む
	11	ウェブ広告	テキストを読む。Webレポート作成
	12	レスポンス広告	テキストを読む
	13	広告企画と戦略	テキストを読む
	14	広告会社と関連組織	テキストを読む
	15	まとめ	期末試験の準備
16	期末試験	これまでの復習をする	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと広告の関係を学ぶ、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点（15点）②課題提出（5点）③試験（70点）④レポート（10点）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(16:00~16:10)に、対応する。	

学びの準備	ねらい 本講義では国際関係学の初歩的および基本的な事項を学習する。	メッセージ 「皆さん、国際関係についてしっかり学習してまいりましょう(天野)」
	到達目標 学生が国際社会の仕組みを理解するうえでの、一助と成ることを目標とする。	

学びの準備	到達目標 学生が国際社会の仕組みを理解するうえでの、一助と成ることを目標とする。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義紹介・講師紹介	学習計画の立案
	2	国際関係とは	事後学習と 疑問等の確認
	3	分析のレベル	事後学習と 疑問等の確認
	4	無政府状態	事後学習と 疑問等の確認
	5	国際関係の諸理論	事後学習と 疑問等の確認
	6	国際社会の活動主体	事後学習と 疑問等の確認
	7	国家	事後学習と 疑問等の確認
	8	联合国 (国際連合)	事後学習と 疑問等の確認
	9	欧洲連合	事後学習と 疑問等の確認
	10	国家の下位組織	事後学習と 疑問等の確認
	11	防諜戦略	事後学習と 疑問等の確認
	12	南北問題	事後学習と 疑問等の確認
	13	軍縮 vs. 軍拡	事後学習と 疑問等の確認
	14	(教材学習)	学習成果の要約
	15	(教材学習)	学習成果の要約
16	[予備日]		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 未定
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て 遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテスト実施を計画している。実施日時などは 開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等 なきよう注意されたい。
-------	--

学びの実践	評価 概ね次の通りとする。 発言・質問・課題提出・ショートテストの達成度が 85%、平常点が15%。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際関連科目 「国際経営論II」や「経営戦略論II」など。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	講義の質問時間中(00:00~00:10pm)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目(全年科目)合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。</p>	<p>「みなさん、ともに中国ビジネスの学習をすすめてまいりましょう。」 なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、登録をおこなうので必ず出席されたい。</p>
到達目標	<p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・ビジネス・商業を理解するうえでも妥当することといえよう。本講義では、中国本土(中華人民共和国)の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。</p> <p>・【到達目標】 中国の工場経営について、よく理解できるようになる。 また以下の講義計画・授業計画は変更がありうる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経営管理原則	講義中に指示する
	2	内部経営管理組織	講義中に指示する
	3	上級経営管理組織	講義中に指示する
	4	経営管理制度(1)	講義中に指示する
	5	経営管理制度(2)	講義中に指示する
	6	国営工場の生産管理	講義中に指示する
	7	国営工場の労働管理	講義中に指示する
8	国営工場の販売管理	講義中に指示する	
9	国営工場の財務管理	講義中に指示する	
10	企業形態	講義中に指示する	
11	工場におけるイデオロギ的活動	講義中に指示する	
12	工場における政治活動	講義中に指示する	
13	教材学習(1)	講義中に指示する	
14	教材学習(2)・ショートテスト	講義中に指示する	
15	講評	講義中に指示する	
16	[予備日]		
テキスト・参考文献・資料など	<p>(テキスト) 未定 (参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</li> <li>・ 伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社。</li> <li>・ 芝川林也(編)『経営学演習』同文館。</li> </ul>		
学びの手立て	<p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1~3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>		
評価	<p>概ね次の通りとする。 発言・質問・課題・ショートテストの達成度が85%、平常点が15%。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(関連科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由選択科目 「マルクス経済学Ⅰ」</li> </ul> <p>(関連科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門選択科目 「国際関係論」、「経営戦略論Ⅰ」や「経営戦略論Ⅱ」</li> </ul>

※ポリシーとの関連性 国際経済学を理解するために必要な基礎知識を習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年	knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。	メッセージ ミクロ経済学およびマクロ経済学の応用分野になりますが、基礎知識がなくても理解できるよう説明します。
	到達目標 国際経済学の基礎的理論を習得する。 国際貿易と経済発展との関係を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	シラバスの確認
	2	(特) 国際貿易と日本の経済成長①	国際経済学に関する文献の精読
	3	(特) 国際貿易と日本の経済成長②	国際経済学に関する文献の精読
	4	(特) 貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム	国際経済学に関する文献の精読
	5	(特) 貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整	国際経済学に関する文献の精読
	6	(特) 貿易の基礎理論③ ヘクシャー=オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論	国際経済学に関する文献の精読
	7	(特) 貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当	国際経済学に関する文献の精読
	8	(特) 貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金	国際経済学に関する文献の精読
	9	(特) 為替レートの決定①	国際経済学に関する文献の精読
	10	(特) 為替レートの決定②	国際経済学に関する文献の精読
	11	(特) IS-LM分析① IS曲線とLM曲線	国際経済学に関する文献の精読
	12	(特) IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策	国際経済学に関する文献の精読
	13	(特) IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策	国際経済学に関する文献の精読
	14	(特) ポリシーミックス①	国際経済学に関する文献の精読
15	(特) ポリシーミックス②	国際経済学に関する文献の精読	
16	(特) まとめ	復習	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 その都度紹介する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。		
	評価 課題の提出状況 (80%) とその内容 (20%) を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論 I・II
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性

講義内の入力演習では、ビジネスの現場で実際に起こっていることを題材に、会計ソフトの操作習得を一つの目標とします。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 大貴	2年	講義終了後及びメール等	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会計ソフトの利便性だけでなく、手書きの簿記との相違を確認しながら会計の理解を深め、システムとして確立している会計ソフトの簿記構造の基本を習得する。	会計ソフトに入力するのも操作ミスや誤入力が生じた箇所を発見するのも、全て人の行為です。そのため、コンピュータ会計にも簿記の技能が不可欠です。

到達目標	一年次で学習した簿記の知識を使って会計ソフトを操作することで、初級簿記を復習しながら、会計ソフトの基本操作を習得し、日常の経理実務でも活かせるようにします。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの理解
	2	企業活動と会計処理	参考書P3~38を事前に読む
	3	会計ソフトの操作	参考書P78~80を事前に読む
	4	現金預金についての会計処理	参考書P39~47を事前に読む
	5	仕入についての会計処理	参考書P48~60を事前に読む
	6	売上についての会計処理	参考書P61~65を事前に読む
	7	経費についての会計処理	参考書P73~77を事前に読む
	8	その他の債権・債務等についての会計処理	参考書P66~72を事前に読む
	9	給与についての会計処理	参考書P66~72を事前に読む
	10	企業が関係する税金	参考書P81~83を事前に読む
	11	会計データの入力処理と集計	参考書 第4章~第11章の総復習
	12	クラウド会計①	講義で紹介する参考文献、資料等
	13	クラウド会計②	講義で紹介する参考文献、資料等
14	会計情報の活用①	参考書P84~98を事前に読む	
15	会計情報の活用②	参考書P84~98を事前に読む	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：『令和3年度版 コンピュータ会計 初級 テキスト・問題集』実教出版, 2021年。 参考書：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版, 2019年。			
学びの手立て			
今日の会計ソフトは簿記の知識がなくても使いこなせるように工夫されているため、簿記の技能がなくとも操作面での習得は、ある程度可能です。ただし、入力後の誤謬箇所の発見などには簿記の知識が不可欠なので、初級簿記の知識に欠ける場合は、合わせて学習し直すことが求められます。			
評価			
平常点……………80点（会計ソフトを操作する機会が講義内に限られるため、出席・受講態度を積極的に反映します） 課題の提出……………20点（基本的に講義の中で実施し、上記「到達目標」を評価します）			

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	サービス・マーケティング	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、サービス・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社のサービス商品の付加価値を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業方法の説明
	2	サービスとは	テキストを読む
	3	経済のサービス化	テキストを読む
	4	消費者の変化	テキストを読む、課題提出
	5	サービス・マーケティングの概要	テキストを読む
	6	モノとサービスの違い	テキストを読む
	7	製造業とサービスの関係	テキストを読む、課題提出
	8	サービス品質の考え方	テキストを読む
	9	品質評価の方法1	テキストを読む
	10	品質評価の方法2	テキストを読む、課題提出
	11	サービス商品のプロモーション	テキストを読む
	12	サービス商品の流通	テキストを読む
	13	サービス商品の価格	テキストを読む、課題提出
	14	サービスエンカウンターとは	期末試験の準備
	15	課題の発表	期末試験の準備
16	期末試験	期末試験実施	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：サービス・マーケティング入門。必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加 ②自分から動く ③課題提出は期日を守る ④他の学生に迷惑を掛けけない。 学びを深めるために： ①マーケティングとサービスの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④サービス企業のサービスを受けてみて感じた課題の改善策を考えてみる。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①試験 (60点) ②課題提出 (25点) ③平常点 (15点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で概論と損益計算書について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 日本の会計原則の基礎理論の理解 企業の営利活動をあらかず損益計算書の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	会計の体系についての復習
	2	会計主体論	会計主体についての整理
	3	会計公準論	公準の整理
	4	企業会計原則と会社法	会計関連法規の整理
	5	企業会計の一般原則 I	一般原則必要性の整理
	6	企業会計の一般原則 II	一般原則必要性の整理
	7	損益計算書概論	損益計算書の構造の整理
	8	収益・費用の認識と測定 I	収益概念の整理
	9	収益・費用の認識と測定 II	費用概念の整理
	10	収益・費用の認識と測定 III	費用概念の整理
	11	費用と収益の対応	対応概念の整理
	12	営業損益計算	営業活動の把握概念の整理
	13	期間業績計算	期間業績の把握概念の整理
	14	包括利益計算	包括業績の把握概念の整理
15	損益計算総論	企業活動における成果計算の整理	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第21版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート (20) 試験 (80)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で貸借対照表と連結財務報告について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の財政状態をあらわす貸借対照表の理解 企業グループの経営状態を示す連結財務諸表の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	貸借対照表と分類基準	貸借対照表の役割の整理
	2	貸借対照表と分類基準Ⅱ	貸借対照表の役割の整理
	3	流動資産の会計処理Ⅰ	流動資産の把握と整理
	4	流動資産の会計処理Ⅱ	流動資産の把握と整理
	5	固定資産の会計処理Ⅰ	固定資産の把握と整理
	6	固定資産の会計処理Ⅱ	固定資産の把握と整理
	7	繰延資産・負債の会計処理Ⅰ	繰延資産・負債の把握と整理
	8	繰延資産・負債の会計処理Ⅱ	繰延資産・負債の把握と整理
	9	純資産の会計処理Ⅰ	純資産の部の把握と整理
	10	純資産の会計処理Ⅱ	純資産の把握と整理
	11	貸借対照表総論（確認テスト）	総論の振り返り
	12	貸借対照表の利用	貸借対照表利用の展開
	13	連列財務諸表Ⅰ	結合会計の把握と整理
	14	連結財務諸表Ⅱ	結合会計の把握と整理
15	連結財務諸表Ⅲ	結合会計の利用	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第21版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート（20）試験（80）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	資金会計	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中でキャッシュ・フローとキャッシュ換算について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の資金獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の資金収支をあらわすキャッシュ・フローの理解 企業の資金収支に関わる外貨建て取引の会計処理の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	キャッシュ・フロー計算書概論	キャッシュ・フローの理解
	2	キャッシュ・フロー計算Ⅰ	キャッシュの計算の復習
	3	キャッシュ・フロー計算Ⅱ	間接法の確認
	4	キャッシュ・フロー計算Ⅲ	直接法の確認
	5	キャッシュ・フロー計算Ⅳ	計算書の概要復習
	6	キャッシュ・フローによる企業分析と情報、ディスカунテッド・キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー情報揭示の復習
	7	ディスカウンティッド・キャッシュ・フロー情報の利用	DCF法の復習
	8	キャッシュ・フローとPPM	キャッシュ増減の把握
9	企業活動のキャッシュ・フロー	企業行動とキャッシュ増減の把握	
10	企業キャッシュフローのまとめ（確認テスト）	企業キャッシュの振り返り	
11	企業キャッシュ・フロー情報の利用	企業キャッシュの振り返り	
12	リース取引の会計処理とキャッシュ・フロー	リース会計の復習	
13	リース取引とキャッシュ・フロー、外貨建て取引Ⅰ	リースの役割、外貨建て会計の基礎	
14	外貨建て取引の会計処理Ⅱ	外貨建て取引の展開	
15	外貨建て取引の会計処理Ⅲ	外貨建て取引とキャッシュ・フロー	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 受講時に指示する		
	学びの手立て 経済活動認識による簿記とことなる資金活動認識であるキャッシュ・フローを理解するために基礎的な練習課題を着実に進めていくことが重要となります		
	評価 小レポート（20）試験（80）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、財務会計、企業戦略論
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査演習	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探るための基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 高度な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの準備	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 高度な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	配布プリントを読む
	2	(特) 調査テーマの決定	グループでテーマ模索
	3	(特) 調査テーマ決定	グループでテーマ情報収集
	4	(特) 調査手法決定	調査手法の情報収集
	5	(特) 調査実施1	学外・オンラインにて調査実施
	6	(特) 調査実施2	学外・オンラインにて調査実施
	7	(特) 調査実施3	学外・オンラインにて調査実施
	8	(特) データの入力	統計手法予習
	9	(特) データの集計1	統計手法予習
	10	(特) データの集計2	統計手法予習
	11	(特) データの分析1	グループにて分析作業
	12	(特) データの分析2	グループにて分析作業
	13	(特) 調査報告書作成1	報告書作成作業
	14	(特) 調査報告書作成2	報告書作成作業
	15	(特) 調査結果のオンライン・プレゼンテーション1	プレゼンテーション準備
16	(特) 調査結果のオンライン・プレゼンテーション2	プレゼンテーション反省	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。  学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経BPを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (25点) ②課題提出 (75点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査総論	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探る基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの準備	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	調査とは何かに調べる
	2	市場調査とは	テキスト予習及び調査企画作成
	3	市場調査の種類とその活用1	テキスト予習及び調査企画作成
	4	市場調査の種類とその活用2	テキスト予習及び調査企画作成
	5	アンケートの基礎知識1	テキスト予習及び調査企画作成
	6	アンケートの基礎知識2	テキスト予習及び調査企画作成
	7	顧客をつかむアンケート1	テキスト予習及び調査企画作成
	8	顧客をつかむアンケート2	テキスト予習及び調査企画作成
	9	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見1	テキスト予習及び調査企画作成
	10	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見2	テキスト予習及び調査企画作成
	11	潜在的ニーズを知る調査1	テキスト予習及び調査企画作成
	12	潜在的ニーズを知る調査2	テキスト予習及び調査企画作成
	13	調査事例の発表準備	調査発表準備1
	14	調査企業の事例発表1	調査発表準備2
	15	調査企業の事例発表2	期末試験の準備
16	期末試験	内容の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。  学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点（15点）②課題提出（5点）③試験（70点）④レポート（10点）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1 年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、この講義と「商業簿記Ⅱ」は日商簿記検定試験3級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 簿記の基礎概念を理解し、説明できる。 ② 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ③ 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等) *時間外学習の内容：テ=テキスト，プ=プリント	シラバスの理解（以下，前/後）
	2	簿記の基礎：簿記の意義	テ3-5頁精読/テ3-5頁精読
	3	簿記の基礎：資産・負債・純資産と貸借対照表	テ6-9頁精読/プ問題の再解答
	4	簿記の基礎：収益・費用と損益計算書	テ9-12頁精読/プ問題の再解答
	5	簿記の基礎：取引と勘定，仕訳	テ12-16頁精読/プ問題の再解答
	6	簿記の基礎：転記	テ16-20頁精読/プ問題の再解答
	7	簿記の基礎：試算表	テ21-26頁精読/プ問題の再解答
	8	簿記の基礎：決算	テ26-33頁精読/プ問題の再解答
	9	簿記の基礎：精算表	テ35-36頁精読/プ問題の再解答
	10	第1編「簿記の基礎」の復習（テスト①）	テ3-36頁精読/プ問題の再解答
	11	諸取引の処理：現金・預金①ー現金，当座預金	テ39-45頁精読/プ問題の再解答
	12	諸取引の処理：現金・預金②ー小口現金	テ45-47頁精読/プ問題の再解答
	13	諸取引の処理：商品売買①ー商品売買	テ48-50頁精読/プ問題の再解答
14	諸取引の処理：商品売買②ー仕入帳・売上帳，商品有高帳	テ50-54頁精読/プ問題の再解答	
15	諸取引の処理の復習（テスト②）	テ39-54頁精読/プ問題の再解答	
16	テストの返却および解説・講評	講義内容の復習/テストの再解答	
テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版，2019年，2,300円（必須）。 ・プリント：テキストの解説プリント，練習問題プリントを配布します。 ・問題集：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック3級/商業簿記』中央経済社，2021年，880円（任意）。		
学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・企業システム学科の学生しか履修できません。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。  ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記ⅡⅢⅣ，工業簿記ⅠⅡ，英文簿記・会計など，会計コースの科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、ワークブックで問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	シラバスを読んでおくこと
	2	簿記の意義と仕組み	関連する練習問題を解くこと
	3	仕訳と転記	関連する練習問題を解くこと
	4	仕訳帳と元帳	関連する練習問題を解くこと
	5	決算の概要	関連する練習問題を解くこと
	6	現金・現金過不足	関連する練習問題を解くこと
	7	当座預金・当座借越	関連する練習問題を解くこと
	8	小口現金	関連する練習問題を解くこと
9	商品売買・三分法	関連する練習問題を解くこと	
10	商品有高帳	関連する練習問題を解くこと	
11	売掛金・買掛金	関連する練習問題を解くこと	
12	前払金・前受金	関連する練習問題を解くこと	
13	その他の債権と債務	関連する練習問題を解くこと	
14	その他の債権と債務	関連する練習問題を解くこと	
15	まとめ復習	第2回から第14回までの復習	
16	期末テスト	テスト問題を復習する	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『簿記が基礎からわかる本第3版』清村英之著 同文館出版 電卓必携		
	学びの手立て 最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。		
	評価 期末テスト30点、平常点（授業中の課題への取り組み、授業内でのミニテスト等）70点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 商業簿記Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-多賀 寿史	1年	htaga@grs.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業の「経済活動を記録、整理、集計するプロセス」のことを簿記と呼ぶ。簿記のプロセスで公表される財務諸表は、様々な利害関係者の意思決定に影響を与える。経済社会における簿記の意義は非常に高いといえよう。本講義では、企業が実際に採用している複式簿記のプロセスの基本を学ぶ。	商業簿記の講義において受け身の姿勢では身につけません。商業簿記の基本技法を学ぶことでは、会計・経営・マーケティング領域の学びにも役立つはずである。講義に毎回出席して、問題演習を通じて簿記の技法を身につけてほしい。
到達目標	毎回の授業で配布する演習問題を解くことで、簿記の技法と知識を身につけることができる。また、毎回の宿題としての自宅学習課題を解くことで、自律的な学習が身につくこと可能となる。さらに複式簿記の技法を用いて財務諸表を作成する技法を学ぶことで、将来会計学を学ぶ時にスムーズに入ることができる。この講義は日商簿記3級と直結しているのので、講義を受けた後で、社会で認知されている日商簿記3級を工学することで、将来の就職活動に役立つことになるはずである。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：簿記を学ぶ意義等の説明。	授業参加前にシラバスを読む。
	2	簿記の基礎概念：資産・負債・純資産と貸借対照表	配布資料を読む/復習課題を解く
	3	簿記の基礎概念：収益・費用と損益計算書	配布資料を読む/復習課題を解く
	4	簿記の基礎概念：取引・勘定/簿記の一巡の手続：概論	配布資料を読む/復習課題を解く
	5	簿記一巡の手続：仕訳・転記	配布資料を読む/復習課題を解く
	6	簿記一巡の手続：仕訳帳・総勘定元帳	配布資料を読む/復習課題を解く
	7	簿記一巡の手続：試算表	配布資料を読む/復習課題を解く
	8	簿記一巡の手続：決算（帳簿の締め切り・開始記入）	配布資料を読む/復習課題を解く
9	簿記一巡の手続：決算（損益計算書と貸借対照表の作成）	配布資料を読む/復習課題を解く	
10	簿記一巡の手続：決算（精算表）	配布資料を読む/復習課題を解く	
11	現金預金：現金概念・現金過不足・当座預金・その他の預金	配布資料を読む/復習課題を解く	
12	現金預金：小口現金・補助簿の記帳	配布資料を読む/復習課題を解く	
13	商品売買：三分法の記帳	配布資料を読む/復習課題を解く	
14	商品売買：仕入帳・売上帳・商品有高帳	配布資料を読む/復習課題を解く	
15	中間の総まとめ	配布資料を読む/復習課題を解く	
16	期末試験	テストの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版，2019年，2,300円 練習問題を毎回配布します。電卓必携をお願いします。	
学びの手立て	講義は毎回出席するように心がけてほしい。毎回復習提出課題を出す、この復習課題をコツコツこなしていけば簿記の技法を会得することが可能となるので必ず取り組んでほしい。		
評価	成績の評価は、課題の提出20%、授業内小テスト（2回実施、いつ実施するかは講義の進行によるので現在は未定）40%、期末試験40%で評価を行う。期末試験だけ受けて単位の修得は難しいと考えてほしい。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期開講科目である商業簿記Ⅱも受講してほしい。2年次以降、商業簿記Ⅲ・Ⅳ、会計学Ⅰ・Ⅱ等の会計関連科目を受講することでより会計の世界を楽しめるはずである。皆さんの意欲と頑張りを期待する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-多賀 寿史	1年	htaga@grs.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業の「経済活動を記録、整理、集計するプロセス」のことを簿記と呼ぶ。簿記のプロセスで公表される財務諸表は、様々な利害関係者の意思決定に影響を与える。経済社会における簿記の意義は非常に高いといえよう。本講義では、企業が実際に採用している複式簿記のプロセスの基本を学ぶ。	商業簿記の講義において受け身の姿勢では身につけません。商業簿記の基本技法を学ぶことでは、会計・経営・マーケティング領域の学びにも役立つはずである。講義に毎回出席して、問題演習を通じて簿記の技法を身につけてほしい。
到達目標	毎回の授業で配布する演習問題を解くことで、簿記の技法と知識を身につけることができる。また、毎回の宿題としての自宅学習課題を解くことで、自律的な学習が身につくこと可能となる。さらに複式簿記の技法を用いて財務諸表を作成する技法を学ぶことで、将来会計学を学ぶ時にスムーズに入ることができる。この講義は日商簿記3級と直結しているのので、講義を受けた後で、社会で認知されている日商簿記3級を工学することで、将来の就職活動に役立つことになるはずである。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期商業簿記の復習	授業参加前にシラバスを読む。
	2	売掛金・買掛金：売掛金・買掛金・貸倒引当金・クレジット売掛金	配布資料を読む/復習課題を解く
	3	手形：受取手形・支払手形・手形記入帳・電子記録債権債務	配布資料を読む/復習課題を解く
	4	その他の債権債務：前払金・前受金/未収入金・未払金/立替金・預り金	配布資料を読む/復習課題を解く
	5	その他の債権債務：貸付金・借入金/仮払金・仮受金/差入保証金	配布資料を読む/復習課題を解く
	6	固定資産：有形固定資産の取得・改善と改良・減価償却	配布資料を読む/復習課題を解く
	7	固定資産：減価償却・有形固定資産の売却・固定資産台帳	配布資料を読む/復習課題を解く
8	純資産：株式会社の設立・増資・剰余金の配当	配布資料を読む/復習課題を解く	
9	税金：法人税等・固定資産税・印紙税・消費税/決算整理：売上原価の計算	配布資料を読む/復習課題を解く	
10	決算整理：費用収益の見越し・繰延/貯蔵品	配布資料を読む/復習課題を解く	
11	決算整理：棚卸表・決算整理事項の復習	配布資料を読む/復習課題を解く	
12	8桁精算表の作成	配布資料を読む/復習課題を解く	
13	決算整理後残高試算表と財務諸表の作成	配布資料を読む/復習課題を解く	
14	決算整理後残高試算表と財務諸表の作成	配布資料を読む/復習課題を解く	
15	伝票	配布資料を読む/復習課題を解く	
16	期末試験	テストの振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：『簿記が基礎からわかる本第3版』清村英之著 同文館出版 電卓必携、問題演習資料を講義内で配布していきます。		
学びの手立て	この講義は毎回の出席と復習が必要となります。将来ビジネスを学ぶ上で必携となる商業簿記の基礎を学ぶ科目です。真剣に学ぶように心がけてください。		
評価	成績の評価は、課題の提出20%、授業内小テスト（3回実施日程は講義内でお知らせする。授業の進み具合で記実施時期が決まるため）30%、期末試験50%で評価を行う。小テストの範囲は、第1回が掛取引・その他債権債務・固定資産、第2回が株式会社会計・税金・決算整理、第3回が財務諸表の作成、期末試験は総合問題、である。補助簿の作成・伝票は授業内で演習するが小テストや試験での対象外とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度以降、商業簿記Ⅲ・Ⅳ、会計学Ⅰ・Ⅱ等の会計関連科目を受講することでより会計の世界を楽しめるはずである。皆さんの意欲と頑張りを期待する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、商業簿記Ⅰから引き続き、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストに沿って解説を行い、練習問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	

学びの準備	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション・登録	シラバスを読んでおくこと
	2	(特) 受取手形と支払手形	関連する練習問題を解くこと
	3	(対) 有価証券 (1)	関連する練習問題を解くこと
	4	(特) 有価証券 (2)	関連する練習問題を解くこと
	5	(対) 固定資産	関連する練習問題を解くこと
	6	(特) 減価償却	関連する練習問題を解くこと
	7	(対) 貸倒損失と貸倒引当金	関連する練習問題を解くこと
	8	(特) 資本金と引出金	関連する練習問題を解くこと
	9	(対) 収益と費用	関連する練習問題を解くこと
	10	(特) 伝票	関連する練習問題を解くこと
	11	(対) 試算表の作成 (1)	関連する練習問題を解くこと
	12	(特) 試算表の作成 (2)	関連する練習問題を解くこと
	13	(対) 決算整理事項	関連する練習問題を解くこと
	14	(特) 精算表の作成	関連する練習問題を解くこと
	15	(対) 財務諸表の作成	関連する練習問題を解くこと
16	(特) 期末テスト	期末テストの問題を復習する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『簿記が基礎からわかる本第3版』清村英之著 同文館出版 商業簿記Ⅰにて配布した練習問題プリント 電卓必携
-------	---

学びの実践	学びの手立て 最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト50点、平常点（授業中の課題への取り組み、課題提出等）50点
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 商業簿記Ⅲ、Ⅳ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、「商業簿記Ⅰ」とこの講義は日商簿記検定試験3級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ （小規模）株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(履修上の注意点の確認等) *時間外学習の内容：テ=テキスト，プ=プリント	シラバスの理解（以下，前/後）
	2	諸取引の処理：売掛金・買掛金－売掛金・買掛金，クレジット売掛金，貸倒れ	テ55-60頁精読/プ問題の再解答
	3	諸取引の処理：手形－手形，電子記録債権・電子記録債務	テ61-65頁精読/プ問題の再解答
	4	諸取引の処理：その他の債権・債務①－前払金・前受金，受取商品券，未収入金・未払金	テ66-68頁精読/プ問題の再解答
	5	諸取引の処理：その他の債権・債務②－立替金・預り金，仮払金・仮受金，差入れ保証金	テ69-72頁精読/プ問題の再解答
	6	諸取引の処理：固定資産－有形固定資産の取得，減価償却，有形固定資産の売却	テ73-76頁精読/プ問題の再解答
	7	諸取引の処理：純資産－株式会社の設立・増資，剰余金の配当	テ78-80頁精読/プ問題の再解答
	8	諸取引の処理：税金－法人税等，固定資産税・印紙税，消費税	テ81-83頁精読/プ問題の再解答
	9	伝票会計－三伝票制，伝票の集計	テ99-104頁精読/プ問題の再解答
	10	決算：決算整理①－売上原価の算定，費用・収益の前払い・前受け	テ84-88頁精読/プ問題の再解答
	11	決算：決算整理②－費用・収益の未払い・未収，貯蔵品の処理	テ88-90頁精読/プ問題の再解答
	12	決算：精算表の作成	テ91-96頁精読/プ問題の再解答
	13	決算：精算表の作成	テ91-96頁精読/プ問題の再解答
	14	決算：財務諸表の作成	テ97-98頁精読/プ問題の再解答
15	期末テスト	テ84-98頁精読/プ問題の再解答	
16	テストの返却および解説・講評	講義内容の復習/テストの再解答	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第3版）』同文館出版，2019年，2,300円（必須）。 ・プリント：テキストの解説プリント，練習問題プリントを配布します。 ・問題集：渡部裕亘他『検定簿記ワークブック3級/商業簿記』中央経済社，2021年，880円（任意）。
----	--

学びの手立て	○履修上の注意事項/心構え： ・企業システム学科の学生しか履修できません。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。  ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
--------	---

評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。期末テストの他にも小テストを数回行う予定です）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記ⅢⅣ，工業簿記ⅠⅡ，英文簿記・会計など，会計コースの科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅲ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、株式会社における商業簿記の基本的な知識を学び、実務で活かせるよう記帳方法や決算整理等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業では、商業簿記Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、日商簿記検定試験2級商業簿記の範囲を学習します。テキストに沿って解説を行い、練習問題を解いてもらいます。簿記は、できるだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記Ⅰ、Ⅱを基礎として、さらに複雑な取引に関する知識を習得し、日商簿記検定試験2級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録、商業簿記Ⅰ、Ⅱの復習問題	商業簿記Ⅰ、Ⅱの復習をしておくこと 関連する練習問題を解くこと
	2	現金・預金	関連する練習問題を解くこと
	3	商品売買①	関連する練習問題を解くこと
	4	商品売買②	関連する練習問題を解くこと
	5	売掛金・買掛金	関連する練習問題を解くこと
	6	手形①	関連する練習問題を解くこと
	7	手形②	関連する練習問題を解くこと
	8	その他の債権債務	関連する練習問題を解くこと
	9	有価証券①	関連する練習問題を解くこと
	10	有価証券②	関連する練習問題を解くこと
	11	固定資産①	関連する練習問題を解くこと
	12	固定資産②	関連する練習問題を解くこと
	13	リース取引	関連する練習問題を解くこと
	14	引当金	関連する練習問題を解くこと
	15	まとめ	これまでの問題を復習する
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『簿記が基礎から分かる本 第3版』清村英之著 同文館出版 テキストに関連した練習問題プリント  電卓必携		
	学びの手立て 簿記は基本的なルールを理解していないと、全く問題が解けないことになります。商業簿記Ⅰ、Ⅱと毎講義の内容をしっかりと理解していくことが大切です。 理解できないところがあるときは、次の講義までに解消すること。積極的に質問をしてください。		
	評価 期末テスト50点、平常点（授業中の課題への取り組み、課題提出等）50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 商業簿記Ⅳ、工業簿記Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅳ	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 本授業では、株式会社における商業簿記の基本的な知識を学び、実務で活かせるよう記帳方法や決算整理等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業では、商業簿記Ⅲから引き続き、日商簿記検定試験2級商業簿記の範囲を学習します。テキストに沿って解説を行い、練習問題を解いてもらいます。さらに難しい取引が増えますので、しっかり問題を解いてください。
	到達目標 商業簿記Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを基礎として、税効果会計、連結会計等さらに複雑な取引に関する知識を習得し、日商簿記検定試験2級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録、商業簿記Ⅲの復習問題	商業簿記Ⅲの復習をしておくこと
	2	外貨建取引	関連する練習問題を解くこと
	3	純資産①	関連する練習問題を解くこと
	4	純資産②	関連する練習問題を解くこと
	5	税金①	関連する練習問題を解くこと
	6	税金②	関連する練習問題を解くこと
	7	決算整理	関連する練習問題を解くこと
	8	損益計算書・貸借対照表等	関連する練習問題を解くこと
	9	本支店会計①	関連する練習問題を解くこと
	10	本支店会計②	関連する練習問題を解くこと
	11	連結会計①	関連する練習問題を解くこと
	12	連結会計②	関連する練習問題を解くこと
	13	総合問題①	関連する練習問題を解くこと
	14	総合問題②	関連する練習問題を解くこと
15	総合問題③	関連する練習問題を解くこと	
16	期末テスト	これまでの問題を復習する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『簿記が基礎から分かる本 第3版』清村英之著 同文館出版 テキストに関連した練習問題プリント  電卓必携		
	学びの手立て 簿記は基本的なルールを理解していないと、全く問題が解けないことになります。商業簿記Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと毎講義の内容をしっかりと理解していくことが大切です。 理解できないところがあるときは、次の講義までに解消すること。積極的に質問してください。		
	評価 期末テスト50点、平常点（授業中の課題への取り組み、課題提出等）50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 工業簿記Ⅰ、Ⅱ、簿記演習Ⅰ、Ⅱ
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動演習	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、グラス内で発表し、理解することを目的とする。</p>	<p>1) 授業を講義形式とディスカッション形式を採用する。 2) 消費者購買行動を解説しながら、ケーススタディを紹介する。 3) 授業計画は学習状況によって変更することがある 4) 「消費者行動概論」と連続したプログラムを組んでいる。概論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、必ず、「消費者行動概論」とセットで登録してください。</p>
到達目標	<p>○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。</p>	

学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある）</p>																																															
	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>(講義の概要説明と授業の受け方の確認)</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>デジタル消費行動と広告活動・販売促進活動</td> <td>(資料1を読む)</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>購買行動と価格設定</td> <td>(資料1を読む)</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>購買行動と商品デザイン</td> <td>(資料2を読む)</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>購買行動とブランド戦略</td> <td>(資料2を読む)</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>消費者行動の調査方法1 (定性調査)</td> <td>(定性調査の事例を調べる)</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>消費者行動の調査方法2 (定量調査)</td> <td>(定量調査の事例を調べる)</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>研究課題設定 (発表課題の設定)</td> <td>(発表課題に関する情報収集・実施調査)</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>【発表】研究課題1 (ホテル業)</td> <td>(ホテルに関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>【発表】研究課題2 (観光業)</td> <td>(観光に関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>【発表】研究課題3 (外食産業)</td> <td>(外食に関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>【発表】研究課題4 (コンビニ)</td> <td>(コンビニに関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>【発表】研究課題5 (娯楽ビジネス)</td> <td>(娯楽ビジネスに関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【発表】研究課題6 (特産品)</td> <td>(特産品に関する調査内容の整理・発表準備)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>レポート提出</td> <td>(レポートを作成)</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>期末試験</td> <td></td> </tr> </table>	第01回	オリエンテーション	(講義の概要説明と授業の受け方の確認)	第02回	デジタル消費行動と広告活動・販売促進活動	(資料1を読む)	第03回	購買行動と価格設定	(資料1を読む)	第04回	購買行動と商品デザイン	(資料2を読む)	第05回	購買行動とブランド戦略	(資料2を読む)	第06回	消費者行動の調査方法1 (定性調査)	(定性調査の事例を調べる)	第07回	消費者行動の調査方法2 (定量調査)	(定量調査の事例を調べる)	第08回	研究課題設定 (発表課題の設定)	(発表課題に関する情報収集・実施調査)	第09回	【発表】研究課題1 (ホテル業)	(ホテルに関する調査内容の整理・発表準備)	第10回	【発表】研究課題2 (観光業)	(観光に関する調査内容の整理・発表準備)	第11回	【発表】研究課題3 (外食産業)	(外食に関する調査内容の整理・発表準備)	第12回	【発表】研究課題4 (コンビニ)	(コンビニに関する調査内容の整理・発表準備)	第13回	【発表】研究課題5 (娯楽ビジネス)	(娯楽ビジネスに関する調査内容の整理・発表準備)	第14回	【発表】研究課題6 (特産品)	(特産品に関する調査内容の整理・発表準備)	第15回	レポート提出	(レポートを作成)	第16回	期末試験
第01回	オリエンテーション	(講義の概要説明と授業の受け方の確認)																																														
第02回	デジタル消費行動と広告活動・販売促進活動	(資料1を読む)																																														
第03回	購買行動と価格設定	(資料1を読む)																																														
第04回	購買行動と商品デザイン	(資料2を読む)																																														
第05回	購買行動とブランド戦略	(資料2を読む)																																														
第06回	消費者行動の調査方法1 (定性調査)	(定性調査の事例を調べる)																																														
第07回	消費者行動の調査方法2 (定量調査)	(定量調査の事例を調べる)																																														
第08回	研究課題設定 (発表課題の設定)	(発表課題に関する情報収集・実施調査)																																														
第09回	【発表】研究課題1 (ホテル業)	(ホテルに関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第10回	【発表】研究課題2 (観光業)	(観光に関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第11回	【発表】研究課題3 (外食産業)	(外食に関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第12回	【発表】研究課題4 (コンビニ)	(コンビニに関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第13回	【発表】研究課題5 (娯楽ビジネス)	(娯楽ビジネスに関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第14回	【発表】研究課題6 (特産品)	(特産品に関する調査内容の整理・発表準備)																																														
第15回	レポート提出	(レポートを作成)																																														
第16回	期末試験																																															

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：◇杉本徹雄編 (2012) 『新・消費者理解のための心理学』福村出版 ◇平久保仲人著 (2006) 『消費者行動論』ダイヤモンド社</p> <p>参考書・参考資料等 ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇Michael R. Solomon [著]、大竹光寿 [ほか]訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇宮本聡介・宇井美代子編 (2014) 『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス社</p>
----	--

学びの手立て	<p>履修条件：</p> <p>1) 「消費者行動概論」とセットで履修すること。 2) 第1週目の授業は必ず出席してください。欠席する場合、履修できないこともある。 3) 積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）、スーパーマーケット、ショッピングセンターなどで情報を収集してください。</p>
--------	--

評価	中間発表、最終発表、レポート (100%)
----	-----------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア消費・流通論、中小企業マーケティング、グローバルマーケティング総論、専門演習I・II、卒業論文演習I・II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動概論	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、クラス内で発表し、理解することを目的とする。</p>	<p>1) 「消費者行動演習」と連続したプログラムを組んでいる。概論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、「消費者行動概論」を履修する場合、必ず、「消費者行動演習」とセットで登録して下さい。 2) 消費者購買行動を解説しながら、ケーススタディを紹介する。 3) 授業計画は学習状況によって変更することがある。</p>
到達目標	<p>○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある）</p> <p>第01回 オリエンテーション (講義の概要説明と授業の受け方の確認) 第02回 消費者行動とは (資料1を読む) 第03回 消費者購買行動とマーケティング (資料1を読む) 第04回 消費者購買行動分析 (資料2を読む) 第05回 消費者購買行動モデル (資料2を読む) 第06回 購買意思決定プロセス (資料3を読む) 第07回 内的要因 (学習) (資料4を読む) 第08回 内的要因 (動機付け) (資料5を読む) 第09回 内的要因 (パーソナリティ) (資料6を読む) 第10回 内的要因 (認識、関与) (資料7を読む) 第11回 外的要因 (文化) (資料8を読む) 第12回 外的要因 (社会階層) (資料9を読む) 第13回 外的要因 (家族、準拠集団など) (資料10を読む) 第14回 消費者満足度の仕組み (資料11を読む) 第15回 購買後の消費行動 (レポートを作成) 第16回 期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：◇杉本徹雄編 (2012) 『新・消費者理解のための心理学』福村出版 ◇平久保仲人著 (2006) 『消費者行動論』ダイヤモンド社 参考書・参考資料等 ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇Michael R. Solomon [著]、大竹光寿 [ほか]訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇宮本聡介・宇井美代子編 (2014) 『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修条件】 1) 「消費者行動演習」とセットで履修すること。セットで履修できない場合、「消費者行動概論」を登録しないでください。 2) 第1回目の授業に必ず出席すること。欠席する場合、履修できないこともある。 3) 積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）、スーパーマーケット、ショッピングセンターなどで情報を収集してください。</p>
	<p>評価</p> <p>試験 (50%)、課題提出 (50%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア消費・流通論、中小企業マーケティング、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習、専門演習I・II、卒業論文演習I・II</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商法	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清水 太郎	3年	5-612	

学びの準備	ねらい 本講義においては、商法の中でもイメージのつかみやすい保険法を扱う。身近な保険の内容等が分かるようにすることを目標とする。	メッセージ 【実務経験】生命保険会社勤務の経験を活かして、理論と実務の架橋を試みたい。
	到達目標 保険法の基本概念の理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	保険法総論	
	2	保険契約総論	
		時間外学習の内容	
	3	被保険利益	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	4	告知義務	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	5	損害保険契約総論	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	6	保険代位	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	7	損害保険の免責事由	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	8	責任保険	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	9	自動車保険（1）	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	10	自動車保険（2）	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	11	生命保険契約	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	12	保険金受取人	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	13	生命保険の免責事由	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	14	傷害疾病保険	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	15	保険監督法	レジュメ・教科書をもとに予・復習
	16	期末考査	
	テキスト・参考文献・資料など 甘利公人＝福田弥夫＝遠山聡・ポイントレクチャー保険法第3版（有斐閣） レジュメを配布する。		
	学びの手立て 予習・講義・復習		
	評価 期末考査100% *追試等は一切ない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 法学部の保険海商法
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報概論	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。本講義では、コンピュータの歴史、仕組み、論理演算、その後の発展について、情報とその利用法の観点から学ぶ。	コンピュータは、今や生活の上でなくてはならないものです。スマホは、小さいけど強力なコンピュータです。これらを支える基本的な技術やそれらが育まれた歴史などを学ぶことは、とても重要です。また、昨今のAIや量子コンピュータなどについてもその概要を講義します。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
到達目標	デジタル化によるコンピュータを用いた情報処理について、概要をしっかりと把握する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	Google Classroom 講義ファイル1
	2	計算機の歴史	Google Classroom 講義ファイル2
	3	計算機の構造	Google Classroom 講義ファイル3
	4	符号化	Google Classroom 講義ファイル4
	5	論理演算	Google Classroom 講義ファイル5
	6	論理演算の回路	Google Classroom 講義ファイル6
	7	トランジスタの基本的な仕組み	Google Classroom 講義ファイル7
	8	CPUの仕組みと構造	Google Classroom 講義ファイル8
	9	コンピュータの種類と用途 その1	Google Classroom 講義ファイル9
	10	コンピュータの種類と用途 その2	Google Classroom 講義ファイル10
	11	プログラムの仕組み その1	Google Classroom 講義ファイル11
	12	プログラムの仕組み その2	Google Classroom 講義ファイル12
	13	ソフトウェアとハードウェア その1	Google Classroom 講義ファイル13
14	ソフトウェアとハードウェア その2	Google Classroom 講義ファイル14	
15	コンピュータの最先端（量子コンピュータなど）と未来	Google Classroom 講義ファイル15	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：毎回講義で使用する講義動画とPDFファイルをテキストとします（Google Classroomにアップロードします）。 参考文献：「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音葉哲・大槻有一郎、情報科学入門（日本理工出版会、佐々木良一、他 著）、その他。		
	学びの手立て		
	Google Classroomにアップロードされている、講義動画やPDFファイルの電子テキストを勉強して下さい。		
	評価		
	対面講義の場合は、テスト80%、提出物20%。 遠隔講義の場合は、毎回の課題の提出：100%、テスト無し。 対面講義と遠隔講義が折衷の場合は、案分する。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない（例：おしゃべり、授業と関係のない動画等の視聴・参加）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングA、プログラミングB。マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ HTML及びCSSに関する基本的な知識を本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 演習を通してウェブサイト作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	HTMLの基礎	当該講義の演習／次回講義の予習
	3	文字のデザイン・カラーコード	当該講義の演習／次回講義の予習
	4	リンク	当該講義の演習／次回講義の予習
	5	スタイルシート	当該講義の演習／次回講義の予習
	6	画像の加工方法	当該講義の演習／次回講義の予習
	7	テーブル	当該講義の演習／次回講義の予習
	8	フォーム	当該講義の演習／次回講義の予習
学びの実践	9	フレーム	当該講義の演習／次回講義の予習
	10	ギャラリーページ	当該講義の演習／次回講義の予習
	11	タグ以外のテクニック①	当該講義の演習／次回講義の予習
	12	タグ以外のテクニック②	当該講義の演習／次回講義の予習
	13	タグ以外のテクニック③	当該講義の演習／次回講義の予習
	14	課題の実習①	当該講義の演習／次回講義の予習
	15	課題の実習②	当該講義の演習／次回講義の予習
	16	プレゼンテーション	講義内容の復習
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。 場合によっては、退室を求めます。		
学びの実践	評価 課題点（80％）、平常点（20％）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミング演習B
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ HTML及びCSSに関する基本的な知識を本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 演習を通してウェブサイト作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	HTMLの基礎	当該講義の演習／次回講義の予習
	3	文字のデザイン・カラーコード	当該講義の演習／次回講義の予習
	4	リンク	当該講義の演習／次回講義の予習
	5	スタイルシート	当該講義の演習／次回講義の予習
	6	画像の加工方法	当該講義の演習／次回講義の予習
	7	テーブル	当該講義の演習／次回講義の予習
	8	フォーム	当該講義の演習／次回講義の予習
9	フレーム	当該講義の演習／次回講義の予習	
10	ギャラリーページ	当該講義の演習／次回講義の予習	
11	タグ以外のテクニック①	当該講義の演習／次回講義の予習	
12	タグ以外のテクニック②	当該講義の演習／次回講義の予習	
13	タグ以外のテクニック③	当該講義の演習／次回講義の予習	
14	課題の実習①	当該講義の演習／次回講義の予習	
15	課題の実習②	当該講義の演習／次回講義の予習	
16	プレゼンテーション	講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。 場合によっては、退室を求めます。		
	評価 課題点（80％）、平常点（20％）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミング演習B
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。	企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見だし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。
到達目標	①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人的資源管理（人事管理・労務管理）とは	講義内容の復習
	2	職務と組織の設計 (1) 職務設計	職務設計に関する学習
	3	職務と組織の設計 (2) 組織設計	組織設計に関する学習
	4	ヒューマングループ (1) 女性労働者	女性労働者に関する学習
	5	ヒューマングループ (2) 非正規労働者	非正規労働者に関する学習
	6	ヒューマングループ (3) 高齢労働者	高齢労働者に関する学習
	7	ヒューマングループ (4) 技術者	技術者に関する学習
	8	ヒューマングループ (5) 海外派遣労働者	海外派遣労働者に関する学習
	9	制度 (1) 雇用管理①	雇用管理制度の学習
	10	制度 (2) 雇用管理②	雇用管理制度の学習
	11	制度 (3) 労使関係	労使関係制度の学習
	12	制度 (4) ワーク・ライフ・バランス①	ワーク・ライフ・バランスの学習
	13	制度 (5) ワーク・ライフ・バランス②	ワーク・ライフ・バランスの学習
14	グループ・ディスカッション	学習内容をまとめる	
15	期末試験	学習成果をまとめる	
16	まとめ	学習成果をまとめる	
テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。			
学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。			
評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）			

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅱ、中小企業経営論、および経営コースの各科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。	メッセージ 人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	制度 (1) 賃金①	賃金制度の学習
	2	制度 (2) 賃金②	賃金制度の学習
	3	制度 (3) 昇進管理①	昇進管理制度の学習
	4	制度 (4) 昇進管理②	昇進管理制度の学習
	5	制度 (5) キャリアと人材育成①	人材育成制度の学習
	6	制度 (6) キャリアと人材育成②	キャリア発達制度の学習
	7	組織 (1) 働く動機づけ (モチベーション) ①	モチベーション論の学習
	8	組織 (2) 働く動機づけ (モチベーション) ②	モチベーション論の学習
9	組織 (3) リーダーシップ	リーダーシップ論の学習	
10	組織 (4) 組織文化・企業理念①	組織文化論の学習	
11	組織 (5) 組織文化・企業理念②	組織文化論の学習	
12	組織 (6) 組織学習	組織学習論の学習	
13	組織 (7) チームワーク	チームワーク論の学習	
14	グループ・ディスカッション	学習内容をまとめる	
15	期末試験	学習成果をまとめる	
16	まとめ	学習成果をまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。		
	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅰ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	--

※ポリシーとの関連性 フィールドワークを通じて、ビジネス課題への取り組みを通して、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マーケティングのビジネス環境、広告活動、地域消費者、地域物流などに触れ、観察や聞き取り調査などを行うことによって、ビジネス仕組み、マーケティングの仕組みを学ぶことが重要な技法の一つとされている。フィールドワークを通じて、マーケティングの楽しさを体験してもらうことが本科目の目的である。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。 マーケティングコースの礎演習I・IIの単位取得者が望ましい。

到達目標	1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文計画書の作成能力を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ゼミ運営の紹介	卒論テーマの選定1
	2	卒業論文テーマの計画案(観光マーケティング、消費行動分析、商品開発、広告戦略など)	卒論テーマの選定2
	3	フィールドワークのビジネス課題①	ビジネス課題に関する情報収集
	4	フィールドワークのビジネス課題②	卒論テーマの選定3
	5	現地調査の準備① 文献調査1	文献・関連資料の収集 1
	6	現地調査の準備② 文献調査2	文献・関連資料の収集 2
	7	現地調査の準備③ 研究テーマの問題提起や仮説の設定1	仮説設定の復習1
	8	現地調査の準備④ 研究テーマの問題提起や仮説の設定2	仮説設定の復習2
	9	現地調査の準備⑤ 調査方法の設定(アンケート調査、視察調査、インタビュー調査)	研究方法の計画1
	10	現地調査の準備⑥ 調査実施計画の検討と関係機関への事前連絡	研究方法の計画2
	11	フィールドワークの実施①	現地視察の計画1
	12	フィールドワークの実施②	現地視察の計画2
	13	フィールドワークの実施③	現地視察の計画3
	14	現地調査のプレゼンテーション①	発表の準備1
15	現地調査のプレゼンテーション②	発表の準備2	
16	まとめ・中間報告書の提出	調査報告書の作成	

テキスト・参考文献・資料など	◇フィリップ・コトラー、ヘルマワ・カルタジャヤ・ホイ・デンファン(2007)『ASEANマーケティング』McGrawHill ◇恩蔵直人監修(1999)『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇田中洋(2008)『消費者行動論体系』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します
----------------	---

学びの手立て	【履修の心構え】 1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) フィールドワークに必ず参加すること。 3) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢(報告に対する質疑応答、パティシペーションなど)が必要である。
--------	--

評価	個人課題(30%)、グループレポートの内容(70%)
----	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ: マーケティングコースの専門演習II、卒業論文演習I・II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該演習科目の前後に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい ベンチャービジネスとして独立開業を目指すのに重要な経営計画書の作成や商品開発能力の育成に関する実習も行う予定である。	メッセージ 国際ビジネスを学ぶ
	到達目標 比較経営および日本企業におけるコミュニケーション能力や情報化の基礎的な理論を学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	毎回各自に割り当てられた経営学に関するテーマを発表する。	関連図書の下調べ
	2	海外にての実地調査の計画	希望する海外地域の理解
	3	海外調査の内容を各自で発表し、期日までに報告書を提出する。	報告書の書き方
	4	各自で選んだテーマにつき全員でディスカッションする	プレゼンテーションの方法
	5	マイケルポーターの競争戦略について	3つの競争戦略
	6	コストリーダーシップ戦略	少種大量生産
	7	差別化戦略	多品種少量生産
	8	集中戦略	NO1 戦術
	9	5つの競争要因について	業界の競争要因
	10	新規参入の脅威	企業の適切な戦略について
	11	供給業者の敵対関係	サプライチェーン
	12	買い手の交渉力	アマゾンの企業戦略について
	13	代替品の脅威	商品のライフサイクルについて
	14	売り手の交渉力	企業の特許戦略について
15	日本の競争戦略	日本的経営の特質について	
16	日本的経営	三種の神器について調べる	
テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『国際経営の基礎知識』国際経営研究所			
学びの手立て 各自のテーマに応じて、図書館にて関連図書を一読することが重要である。			
評価 各自の演習時の議論の内容（50点）やレポートの提出（50点）合計100点によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論 I、II
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	興味があるビジネス分野の確認
	2	プロジェクトのテーマ設定 1	テーマの探索
	3	プロジェクトのテーマ設定 2	テーマの探索
	4	企業側と打ち合わせ 1	打ち合わせ準備
	5	企業側と打ち合わせ 2	打ち合わせ準備
	6	企業を取り巻く環境の調査 1	図書館訪問
	7	企業を取り巻く環境の調査 2	県庁情報公開室訪問
	8	企業を取り巻く環境の調査 3	企業訪問
	9	中間発表 1	発表準備
	10	中間発表 2	発表準備
	11	顧客の意識調査	学外調査
	12	競合調査	学外調査
	13	流通ルートの調査	学外調査
	14	報告書作成 1	作成準備
	15	報告書作成 2	プレゼン準備
	16	プレゼンテーション	プレゼン総括・反省
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。		
	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJ、日経BPを読む。		
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (25点) ②課題提出 (75点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。自らマーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身に付けることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点を置きます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。

学びの準備	到達目標
	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ④ 適切で分かり易いレジュメを作成し、効果的に発表できる。 ⑤ 他者の発表を聞き、討論するためのコミュニケーション能力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ○授業計画 ・3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ・資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ・「専門演習 I」では、資産会計、負債・純資産会計、収益・費用会計をA～Cグループに割り振り、発表・討論を行います。 ・授業は「発表→発表に対するディスカッション（テーマによってはディベート）」の形式で進めます。 ○時間外学習の内容 ・グループワークに多くの時間が割かれます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）は発表のための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）以外の学生は発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・割り振られたテーマを分かり易く発表しなければならないので、各自、プレゼンテーション能力を高める必要があります。
-------	--

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・遅刻や欠席をしない人。 ・ゼミの時間に積極的に発言できる人。 ・ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。2018年度のゼミ生が行ったゼミ会は、以下のとおりです。 4月：ゼミ歓迎会、5月：体育祭、6月：3・4年生合同飲み会、7月：前期打上げ、 8月：3・4年生合同BBQ、10月：OBOG会、11月：学祭、12月：クリスマス、 1月：セミナーハウスでの合宿、2月：運動会
-------	---

学びの実践	評価 ・平常点……50点（上記「到達目標④⑤」を評価します） ・課題……50点（上記「到達目標①②③」を評価します）
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習、財務会計 I II、資金会計など、会計コースの科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>なお演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参加を期待する。</p>
到達目標	演習の単位論文が、執筆できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>（演習の展開計画）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必修）</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必修）</td><td>演習中に指示する</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	1	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する	2	研究対象	演習中に指示する	3	研究対象	演習中に指示する	4	アメリカ経営学	演習中に指示する	5	（ゼミ合宿・必修）	演習中に指示する	6	ドイツ経営学	演習中に指示する	7	ドイツ経営学	演習中に指示する	8	企業論	演習中に指示する	9	企業論	演習中に指示する	10	経営管理	演習中に指示する	11	経営管理	演習中に指示する	12	意思決定	演習中に指示する	13	意思決定	演習中に指示する	14	経営戦略	演習中に指示する	15	（レポート提出・必修）	演習中に指示する
	回数	内容	時間外学習																																														
	1	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する																																														
	2	研究対象	演習中に指示する																																														
3	研究対象	演習中に指示する																																															
4	アメリカ経営学	演習中に指示する																																															
5	（ゼミ合宿・必修）	演習中に指示する																																															
6	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
7	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
8	企業論	演習中に指示する																																															
9	企業論	演習中に指示する																																															
10	経営管理	演習中に指示する																																															
11	経営管理	演習中に指示する																																															
12	意思決定	演習中に指示する																																															
13	意思決定	演習中に指示する																																															
14	経営戦略	演習中に指示する																																															
15	（レポート提出・必修）	演習中に指示する																																															
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト）未定</p> <p>（参考文献）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。</li> <li>・ 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</li> <li>・ 日録刊行会(編)『経営図書総目録2020』東販。</li> </ul>																																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・ 積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度(45%)、課題提出(10%)、レポート提出等(45%)によって、総合評価する。</p>																																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習II</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 専攻する分野の専門的な知識・理論・技術を習得する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行うことで、卒業論文執筆に向けて専門的な知識・理論を習得する。	好きになれるテーマや事例を見つけることが最重要。納得のいくまで悩んでほしい。何を書いたらいいか分からないときは、とにかくいろいろ読んでみることに。

到達目標
前期ゼミ終了までに個々の卒業論文の仮構成・仮タイトルを決定する。参考として、20年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。リーダーシップ、グループ・ダイナミクス、チームワーク、人材育成、経営戦略、競争戦略、国際経営、イノベーション、ベンチャー企業、顧客満足、アパレル業界、化粧品業界、高齢者雇用、地域活性化、など。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 専門演習・卒業論文演習での学びについて	前期課題を各自考える
	2	報告資料の準備について： 作成から印刷・配付まで	報告の段取りを確実に
	3	前期課題文献の割り振りとプレゼンテーションの方法について	プレゼンの方法を知る
	4	文章構造の理解と要約	読解力を高める
	5	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	6	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	7	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	8	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	9	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	10	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	11	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	12	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	13	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
	14	前期課題文献のプレゼンテーションと討論	報告後のレポート作成
15	卒業論文の仮構成・仮タイトルの決定	参考文献を確認する	
16	前期のまとめ ～ 夏休みに卒業論文の第2章を作成（4000字以上）	卒業論文を書き始める	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	受講生の意向を聞きながら決定する。20年度は、馬場杉夫ほか（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社、若林満 監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、などを使用。

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>
--------	--

評価	演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、中間報告課題の完成度50%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒論執筆に必要とされる技能の習得。                  ②グループワーク、フィールドワークの実践。                  ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>本演習では基礎文献の購読を通じて、日本型流通の近現代史を学ぶと同時に、レジュメ作成や報告方法を訓練し、卒業論文作成に必要な技能を習得する。                  また、沖縄県内の商店街においてフィールドワークを行い、中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。                  ②これまでに習得したマーケティング・流通に関する知識の活用と応用。                  ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 自己紹介	テキストの準備
	2	レジュメ作成ならびに報告スライド作成について	簡易レポートの作成
	3	資料・文献収集の方法について	図書館の利用方法の習得
	4	課題発見のための商店街散策	商店街の課題について調査
	5	グループワーク①: 商店街の課題整理	商店街の課題についてまとめる
	6	グループワーク②: 地域経済の歴史と現状	地域経済の歴史をまとめる
	7	グループワーク③: 地域小売業の現状	地域小売業の現状をまとめる
	8	グループワーク④: プロジェクトテーマの設定	プロジェクトテーマの決定
	9	グループワーク⑤: 関係各所との調査内容打ち合わせ	調査内容の打ち合わせ
	10	グループワーク⑥: 商店街の実地調査①	グループによる共同調査作業
	11	グループワーク⑦: 商店街の実地調査②	グループによる共同調査作業
	12	グループワーク⑧: 商店街の実地調査③	グループによる共同調査作業
	13	グループワーク⑨: 経過報告①	経過報告レジュメ・スライド作成
14	グループワーク⑩: 経過報告②	経過報告レジュメ・スライド作成	
15	プロジェクト活動報告書作成にむけて	夏季休暇中の作業確認	
16	予備日	予備日	
実践	テキスト・参考文献・資料など 【使用テキスト】: 講義中に使用するテキストのため、購入して毎回持参すること。 ・満蘭勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社) ・久黎哲之介 (2013) 『商店街再生の畏一売りたいモノから、顧客がしたいコトへ』ちくま新書 (筑摩書房)		
学びの手立て	【履修の心構え】 ①プロジェクトに関わるスケジュール管理は怠らないこと。 ②担当教員に対して経過報告を逐一行うこと。 ③ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。		
評価	【成績評価の内訳】 (100%) 1. 毎講義終了後に課すミニレポート(計15回) (30%) 2. 平常点 (ゼミへの取り組みの姿勢) (20%) 3. プロジェクト活動報告もしくはレポート課題 (50%) ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができる技能を養う。4年次の卒業論文演習 I に向けて、履修学生が興味関心を持つ研究テーマ・問題意識を引き出す。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善方案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	専門演習 I・II を通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
到達目標	マーケティング・コース科目の履修において、専門演習 I と II は受講生自分が課題を探し、その改善方案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	調査研究テーマの選定およびグループ分け	Brain Storming
	3	グループ別の基礎調査実施 I	基礎調査の中間報告
	4	グループ別の基礎調査実施 II	基礎調査の中間報告
	5	グループ別の基礎調査結果発表 I	1次グループ発表
	6	グループ別の基礎調査結果発表 II	1次グループ発表
	7	フィールドワーク計画樹立 I	調査実行計画の樹立
	8	フィールドワーク計画樹立 II	調査実行計画の樹立
	9	フィールドワーク計画報告	調査実行計画の樹立
	10	フィールドワーク実施 I	グループ別調査(中間報告)
	11	フィールドワーク実施 II	グループ別調査(中間報告)
	12	フィールドワーク実施 III	グループ別調査(中間報告)
	13	グループ課題の最終発表 I	2次グループ発表
14	グループ課題の最終発表 II	2次グループ発表	
15	グループ課題の総合ディスカッション	総合ディスカッション	
16	専門演習 I のまとめ。	総合ディスカッション	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。		
	学びの手立て		
	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)		
	2. 積極的にグループ課題に参加しながら、協力してください。		
	3. グループ活動の準備課程と最終の発表(報告書)で評価します。		
	評価		
	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。		
	2. グループ課題(2回、1回目40%、2回目60%)の準備課程【報告内容の水準と、グループ活動の過程、参与・熱情など】を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した様々な書籍や論文を3本以上読んでみてください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する課題を自ら設定、分析をして発表することで、会計とプレゼンテーションの基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は経営者や管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。経営者や管理者が必要とする会計情報は、企業によってまた経営者によって異なるため、管理会計を理解するためには、企業がどのような活動をしているのか、しようとしているのかを理解することが重要になります。そのため会計を利用する企業とその活動に興味を持つようにしてください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論とグループワークでの発表によって、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を養う。 ・自ら設定したテーマについて発表することで、自ら問題設定をしてその解決をする能力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	教科書を熟読する
	2	レジュメ発表	教科書を熟読する
	3	レジュメ発表	教科書を熟読する
	4	レジュメ発表	教科書を熟読する
	5	レジュメ発表	教科書を熟読する
	6	レジュメ発表	教科書を熟読する
	7	レジュメ発表	教科書を熟読する
	8	レジュメ発表	教科書を熟読する
	9	レジュメ発表	教科書を熟読する
	10	まとめ	教科書を熟読する
	11	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	12	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	13	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	14	グループ発表	グループ内で打ち合わせをする
15	グループ発表	グループ内で打ち合わせをする	
16	まとめ	グループ内で打ち合わせをする	
	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 ・平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表やレジュメ）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒論執筆に必要とされる技能の習得。                  ②グループワーク、フィールドワークの実践。                  ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>本演習では基礎文献の購読を通じて、日本型流通の近現代史を学ぶと同時に、レジュメ作成や報告方法を訓練し、卒業論文作成に必要な技能を習得する。                  また、沖縄県内の商店街においてフィールドワークを行い、中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。                  ②これまでに習得したマーケティング・流通に関する知識の活用と応用。                  ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	グループワーク①：商店街の実地調査①	関係機関への連絡と日程調整
	3	グループワーク②：商店街の実地調査② プロジェクトの実施準備	プロジェクト実施の準備
	4	グループワーク③：商店街の実地調査③ プロジェクトの実施準備	プロジェクト実施の準備
	5	グループワーク④：商店街の実地調査④ プロジェクトの実施	プロジェクト実施
	6	グループワーク⑤：経過報告①	内容について議論・調整を行う
	7	グループワーク⑥：商店街の実地調査⑤ まとめ作業	収集データの整理・分析
	8	グループワーク⑦：商店街の実地調査⑥ まとめ作業	収集データの整理・分析
	9	グループワーク⑧：商店街の実地調査⑦ まとめ作業	収集データの整理・分析
	10	グループワーク⑨：経過報告②	内容について議論・調整を行う
	11	グループワーク⑩：商店街の実地調査⑧ まとめ作業	報告スライドの作成
	12	グループワーク⑪：商店街の実地調査⑨ まとめ作業	報告書の作成
	13	グループワーク⑫：商店街の実地調査⑩ まとめ作業	報告書の作成
	14	グループワーク⑬：プロジェクト成果報告会	報告スライド・報告書の提出
15	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定	
16	予備日	予備日	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、毎回持参すること。                  ・満蘭勇 (2015) 『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』講談社現代新書 (講談社)                  ・久繁哲之介 (2013) 『商店街再生の畏一売りたいモノから、顧客がしたいコトへ』ちくま新書 (筑摩書房)</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】                  ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。                  ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。                  ③報告および報告書作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。                  ④報告書作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。                  ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>【成績評価の内訳】 (100%)                  1. 毎講義終了後に課すミニレポート(計15回) (30%)                  2. 報告書提出 (締め切り厳守) (40%)                  3. 報告会で発表 (30%)                  ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができる技能を養う。4年次の卒業論文演習Ⅰに向けて、履修学生が興味関心を持つ研究テーマ・問題意識を引き出す。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室（5号館6階） ・メール：hkiyomura(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身に付けることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点を置きます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。

学びの準備	到達目標
	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ④ 適切で分かり易いレジュメを作成し、効果的に発表できる。 ⑤ 他者の発表を聞き、討論するためのコミュニケーション能力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ○授業計画 ・3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ・資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ・「専門演習Ⅰ」では、資産会計、負債・純資産会計、収益・費用会計をA～Cグループに割り振り、発表・討論を行います。 ・授業は「発表→発表に対するディスカッション（テーマによってはディベート）」の形式で進めます。 ○時間外学習の内容 ・グループワークに多くの時間が割かれます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）は発表のための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・各時間ごとに、発表者（グループ）以外の学生は発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。 ・割り振られたテーマを分かり易く発表しなければならないので、各自、プレゼンテーション能力を高める必要があります。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの実践	学びの手立て ・遅刻や欠席をしない人。 ・ゼミの時間に積極的に発言できる人。 ・ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。2018年度のゼミ生が行ったゼミ会は、以下のとおりです。 4月：ゼミ歓迎会、5月：体育祭、6月：3・4年生合同飲み会、7月：前期打上げ、 8月：3・4年生合同BBQ、10月：OBOG会、11月：学祭、12月：クリスマス、 1月：セミナーハウスでの合宿、2月：運動会
-------	---

学びの実践	評価 ・平常点……50点（上記「到達目標④⑤」を評価します） ・課題……50点（上記「到達目標①②③」を評価します）
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習、財務会計ⅠⅡ、資金会計など、会計コースの科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該演習の前後が望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際社会で活躍するための人前でのプレゼンテーション能力の育成を目指す	メッセージ 演習活動を通してお互いのコミュニケーションの能力の向上を図る
	到達目標 各自が自己のプレゼンテーションや議論をうまく行えるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ベンチャービジネスについて	マイケルポーターの競争戦略論
	2	(対) 商品開発の方法について	特許開発の方法
	3	(対) 日本の企業特質について	年功序列制度
	4	(対) 終身雇用の行方について	日本的な能力評価基準
	5	(対) 日本企業の企業別組合について	日本的集団主義
	6	(対) 日本型企业社会について	会社中心主義の生活
	7	(対) ワークライフバランスについて	生き甲斐、やりがいについて
	8	(対) 能力主義について	年功主義
	9	(対) 日本型能力主義について	長期的雇用システム
	10	(対) プレゼンテーションの方法について	自己の考えを整理する方法
	11	(対) 報告書の書き方	5 W2Hの伝達
	12	(対) 比較経営の研究手法について	関連図書のリスト作成
	13	(対) 自己の将来像について	就職状況の調査
	14	(対) 自己の意見を述べる方法	自己の確立
15	(対) 自己の目標を達成する手段とは	目標を設定し、その方法を考える	
16	(対) 論文の書き方について	最初に レジューメをまとめる	
テキスト・参考文献・資料など 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所			
学びの手立て 演習時間外での将来に向けた計画をたて、準備することが重要である。			
評価 各自が選んだ経営に関するテーマのレポート50点や与えられたテーマでのレポート50点、合計100点で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力を付ける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション (グループ分け)	テーマ情報収集
	2	(対) ゼミ論文のテーマ設定 1	テーマ情報収集
	3	(対) ゼミ論文のテーマ設定 2	テーマ情報収集
	4	(対) ゼミ論文の目次作成 1	目次作成
	5	(対) ゼミ論文の目次作成 2	目次作成
	6	(対) ゼミ論文作成 1	論文作成
	7	(対) ゼミ論文作成 2	論文作成
	8	(対) ゼミ論文作成 3	論文作成
	9	(対) ゼミ論文作成 4	論文作成
	10	(対) 中間提出	発表準備
	11	(対) ゼミ論文校正 1	論文校正
	12	(対) ゼミ論文校正 2	論文校正
	13	(対) ゼミ論文最終確認	論文校正
	14	(対) ゼミ論文レゼンテーション 1	論文提出準備 (校正)
15	(対) ゼミ論文プレゼンテーション 2	論文提出準備 (フォーマット確認)	
16	(対) ゼミ論文プレゼンテーション 3	論文提出	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。 ②企業人、社会人とのコミュニケーションを多く取る。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②ゼミ論文と発表 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	演習の質問時間中(00:00~00:10pm)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ(経営学の諸分野の中から)と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>なお演習のイベント(ゼミ合宿・学園祭・コンパ)への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p>
到達目標	卒業論文の第1章が、執筆・完了できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>(演習の展開計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>キャリア課・進路ガイダンス</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>17</td><td>経営組織</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>18</td><td>労務管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>19</td><td>卒業年次ゼミテーマ登録カード提出</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>20</td><td>財務管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>21</td><td>財務管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>22</td><td>販売管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>23</td><td>販売管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>24</td><td>計画と統制</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>25</td><td>キャリア課・進路面接</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>26</td><td>いわゆる「日本的経営」</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>27</td><td>後期末ゼミ年報記事の提出締切り</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>28</td><td>(合説[企業合同説明会]参加)</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>29</td><td>企業の社会的責任</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>30</td><td>(新ゼミ生 募集計画)</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外学習	16	キャリア課・進路ガイダンス	演習中に指示する	17	経営組織	演習中に指示する	18	労務管理	演習中に指示する	19	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出	演習中に指示する	20	財務管理	演習中に指示する	21	財務管理	演習中に指示する	22	販売管理	演習中に指示する	23	販売管理	演習中に指示する	24	計画と統制	演習中に指示する	25	キャリア課・進路面接	演習中に指示する	26	いわゆる「日本的経営」	演習中に指示する	27	後期末ゼミ年報記事の提出締切り	演習中に指示する	28	(合説[企業合同説明会]参加)	演習中に指示する	29	企業の社会的責任	演習中に指示する	30	(新ゼミ生 募集計画)	演習中に指示する	31	[予備日]	
	回数	内容	時間外学習																																																	
	16	キャリア課・進路ガイダンス	演習中に指示する																																																	
	17	経営組織	演習中に指示する																																																	
18	労務管理	演習中に指示する																																																		
19	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出	演習中に指示する																																																		
20	財務管理	演習中に指示する																																																		
21	財務管理	演習中に指示する																																																		
22	販売管理	演習中に指示する																																																		
23	販売管理	演習中に指示する																																																		
24	計画と統制	演習中に指示する																																																		
25	キャリア課・進路面接	演習中に指示する																																																		
26	いわゆる「日本的経営」	演習中に指示する																																																		
27	後期末ゼミ年報記事の提出締切り	演習中に指示する																																																		
28	(合説[企業合同説明会]参加)	演習中に指示する																																																		
29	企業の社会的責任	演習中に指示する																																																		
30	(新ゼミ生 募集計画)	演習中に指示する																																																		
31	[予備日]																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。</li> <li>・ 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</li> <li>・ 日録刊行会(編)『経営図書総目録2020』東販。</li> </ul>																																																				
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・ 積極的に多様なメディア(書籍、雑誌、新聞、TV等)で、情報を収集してください。</li> </ul>																																																				
<p>評価</p> <p>演習への参加態度(45%)、課題提出(10%)、レポート提出等(45%)によって総合評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ(産 企業)</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashiアットまーくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに、今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示し、具体的な方向性を決めていく。	研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

到達目標	個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。参考として、20年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。リーダーシップ、グループ・ダイナミクス、チームワーク、人材育成、経営戦略、競争戦略、国際経営、イノベーション、ベンチャー企業、顧客満足、アパレル業界、化粧品業界、高齢者雇用、地域活性化、など。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 専門演習・卒業論文演習での学びについて	卒業論文の書き方を学ぶ
	2	卒業論文サンプルの講読	卒業論文の書き方を学ぶ
	3	卒業論文サンプルの講読	卒業論文の書き方を学ぶ
	4	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の3年次中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	14	就職活動について：先輩たちとの懇談会	学びとキャリアを結ぶ
15	グループ・ディスカッション	学びとキャリアを結ぶ	
16	後期のまとめ	卒業論文の加筆修正	

テキスト・参考文献・資料など	個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。20年度は、馬場杉夫ほか（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社、若林満 監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、などを使用。
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>
--------	--

評価	演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、中間報告での卒業論文の完成度50%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@oki. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい 観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
	到達目標 マーケティング・コース科目の履修において、専門演習ⅠとⅡは受講生自分が課題を探し、その改善案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なのかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	個別研究テーマの調査方法	沖縄観光の特徴
	3	個別研究テーマの選定①	個別発表
	4	個別研究テーマの選定②	個別発表
	5	個別研究テーマの最終選定	個別発表
	6	個別研究テーマの調査設計①	リサーチ・アンケート開発
	7	個別研究テーマの調査設計②	リサーチ・アンケート開発
	8	個別研究テーマの調査設計最終報告	リサーチ・アンケート完成
	9	個別研究テーマの調査実行計画の報告	調査対象・方法・期間・実施計画
	10	個別研究テーマの調査実施①	個別調査実施
	11	個別研究テーマの調査実施②	個別調査実施
	12	データ分析の演習①	データ・コーディング完了
	13	データ分析の演習②	分析演習
	14	データ分析の演習③	分析演習
15	データ分析の結果のドラフト作成	分析結果まとめ	
16	専門演習Ⅱのまとめ	総合ディスカッション	
実践	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 積極的に自分の研究以外他人の研究課題にも興味を持ちながら、参加してください。 3. 個人研究の準備課程全般と最終の発表(報告書)で評価します。		
	評価 1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 個別研究(報告2回、1回目40%、2回目60%)の【準備課程。報告書(ドラフト)】に関する報告内容の水準と、研究活動の過程を総合的に評価します]		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した卒論準備のために、関連書籍や論文を10本以上読んでみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する課題を自ら設定、分析をして発表することで、会計とプレゼンテーションの基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は経営者や管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。経営者や管理者が必要とする会計情報は、企業によってまた経営者によって異なるため、管理会計を理解するためには、企業がどのような活動をしているのか、しようとしているのかを理解することが重要になります。そのため会計を利用する企業とその活動に興味を持つようにしてください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論とグループワークでの発表によって、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を養う。 ・自ら設定したテーマについて発表することで、自ら問題設定をしてその解決をする能力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	グループ内で打ち合わせをする
	2	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	3	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	4	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	5	グループ発表	グループ内で打ち合わせをする
	6	グループ発表	グループ内で打ち合わせをする
	7	まとめ	グループ内で打ち合わせをする
	8	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	9	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	10	グループ発表準備	グループ内で打ち合わせをする
	11	グループ発表	グループ内で打ち合わせをする
	12	まとめ	グループ内で打ち合わせをする
	13	卒業論文に向けて	卒業論文のテーマを探す
	14	卒業論文に向けて	卒業論文のテーマを探す
15	卒業論文に向けて	卒業論文のテーマを探す	
16	卒業論文に向けて	卒業論文のテーマを探す	
	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 ・平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表やレジュメ）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 ビジネス課題への取り組みを通して、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	原田優也研究室：5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネス課題に対して自分で考える力を身につける。	メッセージ ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールド（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 **新型コロナウイルス感染症の感染防止等などのため、講義内容は変更になる場合があります**
	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス	ビジネスに関する情報収集
	2	(対) 研究計画書・レジメの作成方法・発表方法・参考文献・引用方法の再確認	ビジネスに関する資料収集
	3	(対) 調査テーマに関する文献・関連資料の収集 1	情報整理、分析方法などの検討
	4	(対) 調査テーマに関する文献・関連資料の収集 2	関連資料の収集と整理 1
	5	(対) 調査テーマに関する文献・関連資料の収集 3	関連資料の収集と整理 2
	6	(対) 調査テーマおよびビジネス課題選択 1	卒業論文の関係資料をまとめ
	7	(対) 調査テーマおよびビジネス課題選択 2	聞き取り調査・質問票調査の実施
	8	(対) フィールドワーク・調査活動	現地調査先と調整
	9	(対) フィールドワーク・調査活動の比較分析	収集データの分析
	10	(対) プレゼンテーションと討論 ①	スライド作成・資料整理 1
	11	(対) プレゼンテーションと討論 ②	スライド作成・資料整理 2
	12	(対) プレゼンテーションと討論 ③	スライド作成・資料整理 3
	13	(対) 調査テーマの中間発表会 1	発表内容の整理
	14	(対) 調査テーマの中間発表会 2	発表内容のまとめ
15	(対) 調査テーマの中間発表会 3	発表内容の点検	
16	(対) レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など ◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー (著)、恩蔵 直人 (監訳) (2010) 『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節 (2015) 『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します		
	学びの手立て 履修生は特定プロジェクトおよび特定課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。 【1】特定プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケティングに必要な知識や技能を習得します。 【2】特定課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。		
	評価 ◇平常点（フィールドワークへの取り組み方、ゼミに対する意欲など）（50%） ◇卒業論文の発表と内容（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ： マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	戦略管理会計	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年	s.sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 会計情報は経営管理のために不可欠です。管理会計は能率的、効率的に経営管理を実施するためのシステムです。本講義では管理会計の理論を理解し、練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者や管理者、あるいは管理される労働者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントの会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布したプリントを読む
	2	設備投資の経済計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く
	3	設備投資の経済計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く
	4	設備投資の経済計算Ⅲ	配布したプリントを読み問題を解く
	5	ライフサイクルコストⅠ	配布したプリントを読み問題を解く
	6	ライフサイクルコストⅡ	配布したプリントを読み問題を解く
	7	ABC/ABMⅠ	配布したプリントを読み問題を解く
	8	ABC/ABMⅡ	配布したプリントを読み問題を解く
9	品質原価計算Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
10	品質原価計算Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
11	原価企画Ⅰ	配布したプリントを読み問題を解く	
12	原価企画Ⅱ	配布したプリントを読み問題を解く	
13	環境管理会計	配布したプリントを読み問題を解く	
14	バランス・スコアカードⅠ	配布したプリントを読み問題を解く	
15	バランス・スコアカードⅡ	配布したプリントを読み問題を解く	
16	テスト	指定したテスト範囲を勉強する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：『エッセンシャル管理会計』谷武幸中央経済社 『管理会計入門ゼミナール〔改訂版〕』高栢真一編著、創成社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト40%とテスト60%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セールス・プロモーション	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティング・コミュニケーションの成り立ちとその活用方法学び、いかにして商品・サービスが必要とされている消費者の元に届けられるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	マーケティング入門の復習をする
	2	(特) セールス・プロモーションとは	マーケティング入門の復習をする
	3	(特) マーケティングとセールス・プロモーションの関係性	テキストを読む
	4	(特) 広告とプロモーションの違い	テキストを読む
	5	(特) 顧客の行動を変える	テキストを読む
	6	(特) 効果的なプロモーションとは	テキストを読む
	7	(特) チラシ広告の現状	テキストを読む。チラシの分析
	8	(特) 買う・買わないを決める要因	テキストを読む
	9	(特) インストア・プロモーション	テキストを読む
	10	(特) セールス・プロモーションの3つのタイプ	テキストを読む
	11	(特) 消費者プロモーション	テキストを読む。消費者調査実施
	12	(特) トレード・プロモーション	テキストを読む
	13	(特) リテール・プロモーション	テキストを読む
	14	(特) プロモーションの計画と実施	テキストを読む
	15	(特) プロモーションの評価	テキストを読む
16	(特) レポートの提出	レポートの作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：セールス・プロモーションの実際。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングとセールス・プロモーションの関係性を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (10点) ②期末試験 (70点) ③レポート (5点) ④豆テスト (5点) ⑤課題提出 (10点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税務会計	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 良平	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、税務会計の基礎及び応用知識の修得を目標としています。特に法人税法の課税所得計算と企業会計（財務会計）の利益計算との関わりを中心に講義をする。	法人税法は、会計上の利益を基に課税所得の計算を行いますので、商業簿記の知識が必要となります。日商簿記検定2級の取得を目指すことをお勧めします。

到達目標	企業の経理や税理士事務所等の業務に役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また、税理士資格試験の試験科目「法人税法」を受験する際に基礎的な知識として役立ちます。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 法人税・課税所得計算の基礎-1	質問等の準備
	2	法人税・課税所得計算の基礎-2	講義内容を復習
	3	益金の会計-1	同上
	4	益金の会計-2	同上
	5	益金の会計-3	同上
	6	損金の会計-1	同上
	7	損金の会計-2	同上
	8	損金の会計-3	同上
	9	損金の会計-4	同上
	10	損金の会計-5	同上
	11	課税所得・税額の計算-1	同上
	12	課税所得・税額の計算-2	同上
	13	申告・納付等-1	同上
	14	申告・納付等-2	同上
15	法人税法の質疑応答事例・判例の研究	同上	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 基本テキスト：講義開始時に指定 参考文献：大城建夫「税務会計の理論的展開」同文館出版、坂本雅士編著「現在税務会計論<第3版>」中央経済社出版
-------	---

学びの手立て	受講にあたって必要となる前提科目：商業簿記<日商簿記2級程度> 講義前に前回の講義内容をテキスト等で復習し、疑問点があれば質問してください。
--------	---

評価	授業参加度(30%)と期末テスト(70%)の総合評価
----	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：財務会計、会計監査、会社法等 次のステージ：非営利会計、経営分析、管理会計等
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの諸状況でも役立つよう、テーマの設定, 考察を行い、思考を論文としてまとめ、プレゼンテーション能力を涵養する

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池幸雄	4年	担当教員まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これまで学修した専門知識について、テーマを特定して研究するとともに、体系的にまとめ、論文、報告として表現する。	様々な知識を概観し、その中から自身のテーマを絞り込み、まとめるために、多くの情報に接し、まとめてください。

到達目標	後期の卒業論文演習 II において、まとめるための論文構成、骨子を固め、報告する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	テーマについての研究
	2	卒業論文テーマの選択・報告	テーマ報告の復習
	3	ブレインストームの展開	ブレインストームの研究
	4	ブレインストームの展開 2	ブレインストームの研究
	5	ブレインストームの報告	骨子の検討
	6	会計書購読 I	購読書の復習
	7	会計書購読 II	購読書の復習
	8	卒業論文構成の報告	構成の復習
	9	卒業論文構成の報告 II	構成の復習
	10	会計書購読 III	購読書の復習
	11	会計書購読 IV	購読書の復習
	12	会計書購読 V	中間報告の作成
	13	卒業論文中間報告 I	中間報告の作成・修正
14	卒業論文中間報告 II	中間報告の作成・修正	
15	卒業論文中間報告 III	中間報告の修正	
16			
テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示します。			
学びの手立て 教員の指導だけでなく、図書館やネットワークでの資料の収集・検討が必要です。			
評価 講義中の報告、60% 中間報告評価 40%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年	当該演習時間の前後が望ましい。	

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文の作成を指導したあとで期限までに提出する。	メッセージ 講義は学生の自主的な発表を中心に進めていくことから、積極的に参加意識を持つことが前提となる。
	到達目標 国際社会で活動するための人前で自己の表現ができる能力の育成	

学びの準備	到達目標 国際社会で活動するための人前で自己の表現ができる能力の育成
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	毎回割り当てられた時間に経営に関するテーマの論文発表する。	関連図書のリスト作成 I
	2	海外調査に関する報告書の書き方	関連図書のリスト作成 II
	3	海外調査地の選定作業	関連図書のリスト作成 III
	4	海外調査計画の作成	海外調査地案の作成 I
	5	海外調査のスケジュール案 I	海外調査地案の作成 II
	6	海外調査のスケジュール案 II	海外調査地案の作成 III
	7	海外調査のスケジュール案 III	海外調査の方法 I
	8	海外調査のスケジュール案 IV	海外調査の方法 II
	9	海外調査のスケジュール案 V	海外調査の方法 III
	10	海外調査のスケジュール案 VI	海外調査のスケジュール作成 I
	11	海外調査の報告書提出 I	海外調査の報告書 I
	12	海外調査の報告書提出 II	海外調査の報告書 II
	13	海外調査の報告書提出 IV	海外調査の報告書 III
	14	海外調査の報告書提出 V	海外調査の報告書 IV
	15	卒業論文の書き方 I	卒業論文の構想 I
16	卒業論文レジュメの提出	卒業論文の構想 II	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『日本的経営と過労シンドローム』中央経済社
-------	--

学びの実践	学びの手立て 演習時間では積極的に発言し、教員との議論に参加することで自己の表現能力が育成できる。
-------	--

学びの実践	評価 各自のテーマによる論文の作成 (50点) と海外市場調査の報告書の提出 (50点), 合計 100点による。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学への進路相談などを加えて可能な限り個別の指導を行うことにしたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年	講義集終了後、教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。</p>	<p>卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</li> <li>2. プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</li> <li>4. 大学生として高度な論文が書ける。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	興味があるビジネス分野を考える
	2	卒業論文のテーマ設定 1	テーマ情報収集
	3	卒業論文のテーマ設定 2	テーマ情報収集
	4	卒業論文の目次作成 1	目次の確認
	5	卒業論文の目次作成 2	目次の確認
	6	卒業論文の作成 1	論文作成と情報収集
	7	卒業論文の作成 2	論文作成と情報収集
	8	卒業論文の作成 3	論文作成と情報収集
	9	卒業論文の作成 4	論文作成と情報収集
	10	卒業論文の作成 5	論文作成と情報収集
	11	卒業論文の作成 6	論文作成と情報収集
	12	卒業論文の作成 7	発表準備
	13	中間発表 1	発表準備
14	中間発表 2	発表反省	
15	卒業論文の作成 8	論文作成と情報収集	
16	卒業論文の作成 9	論文作成と情報収集	
テキスト・参考文献・資料など	<p>また随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> <li>・先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。</li> </ul>		
評価	<p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点（25点）②課題提出（75点）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年	第5-603番教室(天野研)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	<p>「皆さん、卒業論文に しっかり取りくんでまいりましょう。(天野)」</p>
到達目標	卒業論文の第2章までの執筆が、ほぼ完了する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお本演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(レポート提出・必須)</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>2</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>5</td><td>(ゼミ合宿・必須)</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td><td>演習中に指示する</td></tr> <tr><td>15</td><td>(レポート提出・必須)</td><td>演習中に指示する</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外の学習	1	(レポート提出・必須)	演習中に指示する	2	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する	3	研究対象	演習中に指示する	4	アメリカ経営学	演習中に指示する	5	(ゼミ合宿・必須)	演習中に指示する	6	ドイツ経営学	演習中に指示する	7	ドイツ経営学	演習中に指示する	8	企業論	演習中に指示する	9	企業論	演習中に指示する	10	経営管理	演習中に指示する	11	経営管理	演習中に指示する	12	意思決定	演習中に指示する	13	意思決定	演習中に指示する	14	経営戦略	演習中に指示する	15	(レポート提出・必須)	演習中に指示する
	回数	内容	時間外の学習																																														
	1	(レポート提出・必須)	演習中に指示する																																														
	2	演習のすすめ方、評価のしかた	演習中に指示する																																														
3	研究対象	演習中に指示する																																															
4	アメリカ経営学	演習中に指示する																																															
5	(ゼミ合宿・必須)	演習中に指示する																																															
6	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
7	ドイツ経営学	演習中に指示する																																															
8	企業論	演習中に指示する																																															
9	企業論	演習中に指示する																																															
10	経営管理	演習中に指示する																																															
11	経営管理	演習中に指示する																																															
12	意思決定	演習中に指示する																																															
13	意思決定	演習中に指示する																																															
14	経営戦略	演習中に指示する																																															
15	(レポート提出・必須)	演習中に指示する																																															
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。 日録刊行会(編)『経営図書総目録2020』。</p>																																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度(45%)、課題提出(10%)、レポート提出等(45%)によって総合評価する。</p>																																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習II</p>
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年	s. sugamori@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関して習得した専門的な知識を使って、現代企業に関する課題を自ら設定、分析をして発表し、卒業論文としてまとめることで、会計とプレゼンテーションの基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 卒業論文は自ら研究テーマを決めて、計画的に進めていく必要がありますので、自主的に取り組むようにしてください。
	到達目標 ・研究した内容をプレゼンテーションできるようになる。 ・卒業論文を書き進める。	

学びの準備	到達目標 ・研究した内容をプレゼンテーションできるようになる。 ・卒業論文を書き進める。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	設定したテーマについて調べる
	2	担当者による報告①	設定したテーマについて調べる
	3	担当者による報告②	設定したテーマについて調べる
	4	担当者による報告③	設定したテーマについて調べる
	5	担当者による報告④	設定したテーマについて調べる
	6	担当者による報告⑤	設定したテーマについて調べる
	7	担当者による報告⑥	設定したテーマについて調べる
	8	担当者による報告⑦	設定したテーマについて調べる
	9	担当者による報告⑧	設定したテーマについて調べる
	10	担当者による報告⑨	設定したテーマについて調べる
	11	担当者による報告⑩	設定したテーマについて調べる
	12	担当者による報告⑪	設定したテーマについて調べる
	13	担当者による報告⑫	設定したテーマについて調べる
	14	担当者による報告⑬	設定したテーマについて調べる
15	担当者による報告⑭	設定したテーマについて調べる	
16	担当者による報告⑮	設定したテーマについて調べる	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：各自研究に必要な本やデータを図書館等で集めること		
学びの実践	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。 ・報告や発表が多くあります。自分のテーマだけでなく、他者の発表に関心を持ち意見や質問をできるようにしましょう。		
学びの実践	評価 ・平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表やレジュメ）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4 年	原田研究室 (5 6 3 3) mongkhol@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。		
到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)			
	履修生は特定プロジェクトおよび特定課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。			
	<p>【1】特定プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。</p> <p>【2】特定課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。</p> <p>第1回 ゼミ運営方針の説明</p> <p>第2回～第5回：特定プロジェクト・特定課題研究を選択し、調査計画書・レジュメを作成</p> <p>第6回～第9回：課題テーマに関する情報収集・発表原稿の準備</p> <p>第10回～第15回：各グループの最終発表</p> <p>第16回：特定プロジェクトまたは、特定課題研究の中間レポート提出</p>			
テキスト・参考文献・資料など				
講義の中で、適切なテキストを指示する。				
学びの手立て				
①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。				
評価				
◇特定プロジェクトまたは特定課題研究の発表・レポートの内容 (80%) ◇平常点 (20%)				
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの準備	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 卒業論文演習での学びについて	論文の書き方を学ぶ
	2	就職活動について： 学びとキャリア	学びとキャリアを結ぶ
	3	グループ・ディスカッション	学びとキャリアを結ぶ
	4	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の4年次前期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	14	卒業論文の書き方	論文の書き方を学ぶ
	15	卒業論文の書き方	論文の書き方を学ぶ
16	前期のまとめ	卒業論文の加筆修正	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。 ・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。
-------	---

学びの実践	評価 演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、卒業論文の完成度50%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性

課題への取り組みを通して、深い専門性に加え、「理解力」「表現力」「問題解決能力」を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、論理的思考力、そして物事を端的に説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得することを目的とする。

学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とても大変なことである。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもある。悔いを残さないよう最後までしっかりとやり遂げてほしい。

卒論指導は授業時間外にも随時個別に実施する。第1回講義資料の指示に従って、受講学生は卒論指導を必ず受けること。

①研究対象とするテーマについて、資料収集ならびに先行研究の整理を正確に行うことができる。  
 ②上記①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ問題提起を行うことができる。  
 ③データを正確に読み取り分析できること。  
 ④根拠に基づいた論理展開を論文上で発揮できること。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：卒論のテーマ設定①	卒論のテーマ設定
	2	卒論指導①：卒論のテーマ設定②	卒論のテーマ設定
	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析
	6	卒論指導⑤：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	11	卒論指導⑩：テーマに対応した個別指導	先行研究の整理
	12	卒論指導⑪：テーマに対応した個別指導	問題提起の作成
	13	卒論指導⑫：テーマに対応した個別指導	問題提起の作成
14	卒論指導⑬：経過報告①	経過報告レジュメ・スライド作成	
15	卒論指導⑭：経過報告②	経過報告レジュメ・スライド作成	
16	卒論指導⑮：経過報告③	経過報告レジュメ・スライド作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	※個別の研究テーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ①卒論作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ②卒論作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。 ③ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。		
	評価		
	【成績評価の内訳】 (100%) 卒論・テーマの設定 (20%) : 期限までに必ず報告を行うこと。 卒論・先行研究の整理 (50%) : 期限までに必ず報告を行うこと。 卒論・研究上の問題意識 (30%) : 期限までに必ず報告を行うこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	設定したテーマに対応した文献や資料を収集し、先行研究の整理ならびに問題提起に対する調査方法の選定を終えた状態で後期の卒業論文演習Ⅱに移行する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	4 年	i. sanjon@okiu. ac. jp または 授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習 I・II のねらいは、観光マーケティングまたは観光ビジネスを巡る多様な課題に関する問題意識や課題を取り上げ、受講生自分の視覚や解決方法など様々なソリューションを提案することで、今後の有能な社会人になるために必要な資質を育てることである。	卒業論文演習 I を通じて、卒業論文のタイトルをはじめ、具体的な研究計画(論文作成計画)を準備します。なお、卒業論文作成における基本形式や作成方法を演習します。特に、参考資料や参考文献のまとめ方、グラフや図の書き方など卒業論文作成において必要な多様なスキルを繰り返し演習します。
到達目標	①卒業論文の具体的な課題や研究方法を決定する。 ②卒業論文作成に必要な基本知識やスキルを身につける。 ③卒業論文作成における自分の意見伝達方法(ロジック)について演習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	卒業論文作成のガイダンス(研究計画・参考文献・引用方法など)	個別演習
	3	卒業論文タイトルの調整①	個別論文タイトルを決定
	4	卒業論文タイトルの調整②	個別論文タイトルを決定
	5	ベース論文及び参考文献の探し方法	個別調査
	6	ベース論文発表①	個別発表及びディスカッション
	7	ベース論文発表②	個別発表及びディスカッション
	8	調査データの修正・補完	個別データの修正・補完活動
	9	調査データのまとめ方	個別データの修正・補完活動
	10	データ分析・結果まとめ演習①	個別データの修正・補完活動
	11	データ分析・結果まとめ演習②	個別データの修正・補完活動
	12	データ分析・結果まとめ演習③	個別データの修正・補完活動
	13	卒業論文中間報告①	個別論文作成
14	卒業論文中間報告②	個別論文作成	
15	卒業論文中間報告③	個別論文作成	
16	卒業論文演習 I のまとめ	卒業論文のドラフト提出	
テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。個別受講生の卒論テーマに応じて適切な参考文献を案内します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 就活による欠席については事前・事後に必ず欠席届を提出してください。 3. 資料探しや分析方法などに悩みがあるときには、積極的に相談に来てください。		
評価	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. ベース論文発表(1回、40%)と卒業論文中間報告(2回、60%)など卒論準備過程を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：卒業論文演習 II に進める前に、自分の論文内容と関連した専門論文(ジャーナル)3本以上読むこと。
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの諸状況で役立つよう、テーマの設定、考察を行い思考を論文としてまとめ、プレゼンテーション能力を涵養する

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池幸雄	4年	指導教員まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これまで学修した専門知識について、テーマを特定して研究するとともに、体系的にまとめ、論文、報告として表現する。	様々な知識を概観し、その中から自身のテーマを絞り込み、まとめるために多くの情報に接し、まとめてください。

到達目標	テーマに基づき展開された 卒業論文の提出、 論文概要のプレゼンテーション による探求・報告
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	中間報告の改定報告	中間報告の修正
	2	第1章までの中間報告①	論文の作成・修正
	3	第1章までの中間報告②	論文の作成・修正
	4	第1章までの中間報告③	論文の作成・修正
	5	第1章までの中間報告④	論文の作成・修正
	6	第2章までの中間報告①	論文の作成・修正
	7	第2章までの中間報告②	論文の作成・修正
	8	第2章までの中間報告③	論文の作成・修正
	9	第3章までの中間報告①	論文の作成・修正
	10	第3章までの中間報告②	論文の作成・修正
	11	第3章までの中間報告③	論文の作成・修正
	12	総合報告①	論文・プレゼンの作成・修正
	13	総合報告②	論文・プレゼンの作成・修正
14	プレゼンテーション①	論文・プレゼンの作成・修正	
15	プレゼンテーション②	論文・プレゼンの作成・修正	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 各人の課題に従って指示します		
	学びの手立て 教員の指導だけでなく、資料の検討、文章の構成などについて参考資料、文献を精読し繰り返すことが必要となります。		
	評価 卒業論文（パワーポイントによる報告服務）100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財務会計、経営分析、経営戦略など
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性

現代の国際企業は、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。そうした国際企業の営み（経営活動）について学ぶ時間である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年	演習時間の前後に直接問い合わせることが望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際経営に関する専門の論文を作成することと海外演習による市場調査を通して、国際経営に関する基礎知識を習得する。	メッセージ 国際社会で活躍しうる人材育成を目指す。
	到達目標 人前での自己表現の向上を図る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 経営学について	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	(対) イギリスにおける企業の発展Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	(対) 日本的経営と過労シンドローム	関連図書のリスト作成Ⅲ
	4	(対) アメリカにおける企業の発展Ⅰ	プレゼンテーションの方法Ⅰ
	5	(対) アメリカにおける企業の発展Ⅱ	プレゼンテーションの方法Ⅱ
	6	(対) 日本における企業の発展Ⅰ	プレゼンテーションの方法Ⅲ
	7	(対) 日本における企業の発展Ⅱ	論文レジュメの書き方Ⅰ
	8	(対) 科学的管理法Ⅰ	論文レジュメの書き方Ⅱ
	9	(対) 科学的管理法Ⅱ	論文レジュメの書き方Ⅲ
	10	(対) 人間関係論Ⅰ	報告書の書き方Ⅰ
	11	(対) 人間関係論Ⅱ	報告書の書き方Ⅱ
	12	(対) 動機づけ理論Ⅰ	報告書の書き方Ⅲ
	13	(対) 動機づけ理論Ⅱ	レポートの提出Ⅰ
	14	(対) 経営組織の基本形態Ⅰ	レポートの提出Ⅱ
15	(対) 経営組織の基本形態Ⅱ	レポートの提出Ⅲ	
16	(対) レポートの提出	レポートの提出Ⅳ	
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一著『能力主義管理の国際比較』東京図書出版会		
	学びの手立て 演習時間外での資料収集や自己の論文に関する関連図書を読むことが望ましい。		
	評価 各自が選んだ経営に関するテーマの論文および与えられたテーマのレポートを提出することで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年	講義終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。</p>	<p>卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。                  4. 大学生として高度な論文が書ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	情報収集と論文テーマの決定
	2	(対) 卒業論文作成 1	情報収集と論文作成
	3	(対) 卒業論文作成 2	情報収集と論文作成
	4	(対) 卒業論文作成 3	情報収集と論文作成
	5	(対) 卒業論文作成 4	情報収集と論文作成
	6	(対) 卒業論文作成 5	情報収集と論文作成
	7	(対) 中間発表 1	中間発表準備
8	(対) 中間発表 2	中間発表準備	
9	(対) 卒業論文作成 6	情報収集と論文作成	
10	(対) 卒業論文作成 7	情報収集と論文作成	
11	(対) 卒業論文作成 8	情報収集と論文作成	
12	(対) 卒業論文作成 9	情報収集と論文作成	
13	(対) 卒業論文作成 10	卒論報告会準備	
14	(対) 卒業論文報告会 1	卒論報告会準備	
15	(対) 卒業論文報告会 2	卒論報告会準備	
16	(対) 卒業論文最終確認	学生の相互確認	
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集すること。</li> <li>先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。</li> </ul>		
評価	<p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。                  ①平常点（10点）②卒業論文とそのプレゼンテーション内容（70点）③レポート（5点）④豆テスト（5点）⑤課題提出（10点）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年	第5-603番教室(天野研)	

学びの準備	ねらい 年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ(経営学の諸分野の中から)と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	メッセージ 「皆さん、ひきつづき卒業論文に取りくんでまいりましょう。(天野)」
	到達目標 各自の卒業論文を完成させる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(授業の展開計画) 本演習の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>時間外の課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>経営組織</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>17</td><td>経営組織</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>18</td><td>労務管理</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>19</td><td>卒業年次ゼミテーマ登録カード提出</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>20</td><td>財務管理</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>21</td><td>財務管理</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>22</td><td>販売管理</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>23</td><td>販売管理</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>24</td><td>計画と統制</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>25</td><td>計画と統制</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>26</td><td>いわゆる「日本的経営」</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>27</td><td>後期末卒業論文の提出締切り</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>28</td><td>企業の社会的責任</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>29</td><td>卒業式・謝恩会パーティの実施計画</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>30</td><td>企業の社会的責任</td><td>演習時に指示する</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	時間外の課題	16	経営組織	演習時に指示する	17	経営組織	演習時に指示する	18	労務管理	演習時に指示する	19	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出	演習時に指示する	20	財務管理	演習時に指示する	21	財務管理	演習時に指示する	22	販売管理	演習時に指示する	23	販売管理	演習時に指示する	24	計画と統制	演習時に指示する	25	計画と統制	演習時に指示する	26	いわゆる「日本的経営」	演習時に指示する	27	後期末卒業論文の提出締切り	演習時に指示する	28	企業の社会的責任	演習時に指示する	29	卒業式・謝恩会パーティの実施計画	演習時に指示する	30	企業の社会的責任	演習時に指示する	31	[予備日]	
	回数	内容	時間外の課題																																																	
	16	経営組織	演習時に指示する																																																	
	17	経営組織	演習時に指示する																																																	
18	労務管理	演習時に指示する																																																		
19	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出	演習時に指示する																																																		
20	財務管理	演習時に指示する																																																		
21	財務管理	演習時に指示する																																																		
22	販売管理	演習時に指示する																																																		
23	販売管理	演習時に指示する																																																		
24	計画と統制	演習時に指示する																																																		
25	計画と統制	演習時に指示する																																																		
26	いわゆる「日本的経営」	演習時に指示する																																																		
27	後期末卒業論文の提出締切り	演習時に指示する																																																		
28	企業の社会的責任	演習時に指示する																																																		
29	卒業式・謝恩会パーティの実施計画	演習時に指示する																																																		
30	企業の社会的責任	演習時に指示する																																																		
31	[予備日]																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。 日録刊行会(編)『経営図書総目録2020』。</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・ 積極的に多様なメディア(書籍、雑誌、新聞、TV等)で、情報を収集してください。</li> </ul>																																																				
<p>評価</p> <p>演習への参加態度(45%)、単位レポート[卒業論文]提出等(55%)によって総合評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス界で活躍できる責任感ある社会人へ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年	s.sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関して習得した専門的な知識を使って、現代企業に関する課題を自ら設定、分析をして発表し、卒業論文としてまとめることで、会計とプレゼンテーションの基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 卒業論文は自ら研究テーマを決めて、計画的に進めていく必要がありますので、自主的に取り組むようにしてください。
	到達目標 ・研究した内容をプレゼンテーションできるようになる。 ・卒業論文を書き上げる。	

学びの準備	到達目標 ・研究した内容をプレゼンテーションできるようになる。 ・卒業論文を書き上げる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	設定したテーマについて調べる
	2	担当者による報告①	設定したテーマについて調べる
	3	担当者による報告②	設定したテーマについて調べる
	4	担当者による報告③	設定したテーマについて調べる
	5	担当者による報告④	設定したテーマについて調べる
	6	担当者による報告⑤	設定したテーマについて調べる
	7	担当者による報告⑥	設定したテーマについて調べる
	8	担当者による報告⑦	設定したテーマについて調べる
	9	担当者による報告⑧	設定したテーマについて調べる
	10	担当者による報告⑨	設定したテーマについて調べる
	11	担当者による報告⑩	設定したテーマについて調べる
	12	担当者による報告⑪	設定したテーマについて調べる
	13	担当者による報告⑫	設定したテーマについて調べる
	14	担当者による報告⑬	設定したテーマについて調べる
15	担当者による報告⑭	設定したテーマについて調べる	
16	担当者による報告⑮	設定したテーマについて調べる	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：各自研究に必要な本やデータを図書館等で集めること		
学びの実践	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。 ・報告や発表が多くあります。自分のテーマだけでなく、他者の発表に関心を持ち意見や質問をできるようにしましょう。		
学びの実践	評価 ・平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表やレジュメ）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業プロジェクト・特定課題研究のレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。
到達目標	卒業プロジェクトまたは、特定課題研究のレポートの作成能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>*****</p> <p>(1) (対) 後期日程のガイダンス                  (2) (対) 課題研究の研究手法の点検 (情報収集)                  (3) (対) 課題研究の先行研究の点検 (情報収集)                  (4) (対) 仮説設定などの再検討 (仮説の準備・検討)</p> <p>(5) (対) 課題研究執筆：個別指導① (レポートの作成・準備1)                  (6) (対) 課題研究執筆：個別指導② (レポートの作成・準備2)                  (7) (対) 課題研究執筆：個別指導③ (レポートの作成・準備3)                  (8) (対) 課題研究執筆：個別指導④ (レポートの作成・準備4)                  (9) (対) 課題研究執筆：個別指導⑤ (レポートの作成・準備5)                  (10) (対) 課題研究執筆：個別指導⑥ (レポートの作成・準備6)                  (11) (対) 課題研究執筆：個別指導⑦ (レポートの作成・準備7)                  (12) (対) 課題研究執筆：個別指導⑧ (レポートの作成・準備8)</p> <p>(13) (対) 課題研究の原稿の校正 (最終レポート内容の校正)                  (14) (対) 課題研究の原稿の点検 (最終レポート内容の点検)                  (15) (対) 課題研究の原稿の印刷 (最終レポートの印刷)                  (16) (対) 卒業プロジェクトまたは、特定課題研究の最終レポートの提出</p> <p>*****</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。                  ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
評価	<p>◇発表・レポートの内容（80%）                  ◇平常点（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 各自のテーマに基づき学修成果をまとめる。今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示し、具体的な方向性を決めていく。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 卒業論文演習での学びについて	論文の書き方を学ぶ
	2	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	3	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	4	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	5	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	6	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	7	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	8	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	9	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	10	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	11	卒業論文の4年次後期中間報告と討論	卒業論文の加筆修正
	12	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	13	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	14	卒業論文の添削と修正	卒業論文の加筆修正
	15	卒業論文の編集と印刷	製本印刷に向けた編集
16	後期のまとめ	学修成果の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	評価 演習への貢献度（討論での積極的な発言やゼミでの意欲的な取り組みなど）50%、卒業論文の完成度50%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 これまで関心をもったすべての科目が関連しうる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	4年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰ・Ⅱのねらいは、観光マーケティングまたは観光ビジネスを巡る多様な課題に関する問題意識や課題を取り上げ、受講生自分の視覚や解決方法など様々なソリューションを提案することで、今後の有能な社会人になるために必要な資質を育てることである。	卒業論文演習Ⅱを通じて完成した卒業論文は、受講生自分が大学4年間学んだ知識やスキルを最終的にまとめた成果物の中で一つです。また、指導教員としてはこの卒業論文演習の過程を通じて、今後社会でマーケティング実務者として活躍する時に、いろんな意味で役に立てる時間になってほしいです。お互いに後悔の残らないよう最後まで頑張ってください。
到達目標	①卒業論文完成とその内容のレベルを高める。 ②卒業論文のオリジナリティやソリューションを自分のアイデアに基づいて提案する。 ③卒業論文作成過程で身につけた知識やスキルを今後の社会人としての実務で効果的に活用する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	卒業論文作成の最終ガイダンス(修正・補完のやり方)	個別論文作成
	3	卒業論文1次指導：個別指導①	コメントによる個別修正・補完
	4	卒業論文1次指導：個別指導②	コメントによる個別修正・補完
	5	卒業論文1次指導：個別指導③	コメントによる個別修正・補完
	6	卒業論文1次指導：個別指導④	コメントによる個別修正・補完
	7	卒業論文1次指導：個別指導⑤	コメントによる個別修正・補完
	8	卒業論文1次報告会	全体報告会
	9	卒業論文2次指導：個別指導⑥	コメントによる個別修正・補完
	10	卒業論文2次指導：個別指導⑦	コメントによる個別修正・補完
	11	卒業論文2次指導：個別指導⑧	コメントによる個別修正・補完
	12	卒業論文2次指導：個別指導⑨	コメントによる個別修正・補完
	13	卒業論文2次指導：個別指導⑩	コメントによる個別修正・補完
14	卒業論文2次報告会	全体報告会	
15	卒業論文最終修正・補完	個別論文作成	
16	卒業論文最終報告会	全体報告会	
テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。個別受講生の卒論テーマに応じて適切な参考文献を案内します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 就活による欠席については事前・事後に必ず欠席届を提出してください。 3. 論文作成に関して悩みがあるときには、積極的に相談に来てください。		
評価	1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 卒業論文1次報告(1回、40%)と卒業論文2次報告(2回、60%)など卒論準備過程を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：多様な企業への進出。マーケティング関連仕事で活躍。今後転職・大学院進学などの自我発展を通じて一層素晴らしい社会人になる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、論理的思考力、そして物事を端的に説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得することを目的とする。

学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とても大変なことである。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもある。悔いを残さないよう最後までしっかりとやり遂げてほしい。

卒論指導は授業時間外にも随時個別に実施する。第1回講義資料の指示に従って、受講学生は卒論指導を必ず受けること。

①研究対象とするテーマについて、資料の取捨選択、データの分析を正確に行うことができる。  
 ②上記①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。  
 ③根拠に基づいた論理展開を論文上で発揮できること。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏季休暇中の卒論進捗報告	論文内容について教員と再調整
2	卒論指導①：テーマに対応した個別指導	アンケート・聞取調査等の実施	
3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	アンケート・聞取調査等の実施	
4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	収集データの整理・分析	
5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	収集データの整理・分析	
6	卒論指導⑤：テーマに対応した個別指導	考察部分の作成	
7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	考察部分の作成	
8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	結論部分の作成	
9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	結論部分の作成	
10	卒論指導⑨：卒業論文仮原稿提出	担当教員と卒論の修正作業	
11	卒論指導⑩：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業	
12	卒論指導⑪：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業	
13	卒論指導⑫：卒業論文の修正作業	担当教員と卒論の修正作業	
14	卒論指導⑬：卒業論文完成稿提出	卒業論文完成稿の最終見直し	
15	卒論指導⑭：卒業論文報告	卒論報告スライドの作成	
16	予備日	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など		
	※個別の研究テーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜指示する。 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版 ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とする。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡をすること。 ③卒論作成のためのスケジュール管理は怠らないこと。 ④卒論作成のために、担当教員との話し合いは密に行うこと。 ⑤ゼミ生相互の交流や情報交換は密に行うこと。		
	評価		
	【成績評価の内訳】 (100%) 1. 卒業論文完成稿 (70%) : 決められた期限までに卒論を提出すること。 2. 卒業論文最終報告 (30%) : 卒論完成後に報告（プレゼンテーション）を行うこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後は、複眼的思考を持ち、問題解決に際して柔軟に回答を提示できる人材になってもらいたい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャル・マーケティング	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、ソーシャル・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品に社会的加価値を必要とされているを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	マーケティング入門の復習
	2	(特) ソーシャル・マーケティングとは	テキストを読む
	3	(特) 社会貢献と企業1	テキストを読む
	4	(特) 社会貢献と企業2	テキストを読む、課題提出
	5	(特) 社会文化的変化の創出1	テキストを読む
	6	(特) 社会文化的変化の創出2	テキストを読む
	7	(特) 消費者に対するコミットメント活動1	テキストを読む、課題提出
	8	(特) 消費者に対するコミットメント活動2	テキストを読む
	9	(特) 新興市場における起業家の創造	テキストを読む
	10	(特) 環境の持続可能性に対する取り組み1	テキストを読む、課題提出
	11	(特) 環境の持続可能性に対する取り組み2	テキストを読む
	12	(特) 消費者に対するミッションのマーケティング1	テキストを読む
	13	(特) 消費者に対するミッションのマーケティング2	テキストを読む、課題提出
	14	期末試験に向けてソーシャルマーケティングの総合的な全体像の把握	試験の準備
	15	期末試験に向けて復習	試験の準備
16	期末試験	期末試験実施	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業で指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングと社会貢献の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④ソーシャル・マーケティングを実践している企業の経営者や従業員の経営哲学を学ぶ。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①期末試験 (60点) ②課題提出 (25点) ③平常点 (15点)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業経営論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashiアットまーくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業経営について理解を深める。	メッセージ この授業では、グローバル化と地域のはざまで、中小企業がいかにして経営環境に適応していくのかを学ぶ。
	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。	

学びの準備	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	中小企業経営とは	講義内容の復習
	2	日本経済と中小企業 (1) 戦前から現在まで	時代区分でまとめる
	3	日本経済と中小企業 (2) 大企業と中小企業	大企業との関係を学習
	4	日本経済と中小企業 (3) 地域経済と中小企業	地域経済の学習
	5	環境変化と中小企業 (1) 下請けシステムとものづくり中小企業	下請けシステムの学習
	6	環境変化と中小企業 (2) 国際化と中小企業	国際化の学習
	7	環境変化と中小企業 (3) 事業継承と中小企業①	事業継承の学習
	8	環境変化と中小企業 (4) 事業継承と中小企業②	事業継承の学習
	9	環境変化と中小企業 (5) 集積・ネットワークを活かす中小企業	産業集積の学習
	10	環境変化と中小企業 (6) 地域と共に生きる中小企業	地域のつながりを学ぶ
	11	政策とイノベーション (1) 国・自治体による中小企業政策	中小企業政策の学習
	12	政策とイノベーション (2) イノベーションを展開する中小企業	イノベーションを学ぶ
	13	沖縄の中小企業の事例	沖縄の中小企業を知る
	14	グループ・ディスカッション	学習内容をまとめる
	15	期末試験	学習成果をまとめる
16	まとめ	学習成果をまとめる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。参考文献として、植田浩史ほか(2014)『中小企業・ベンチャー企業論 [新版]: グローバルと地域のはざままで』有斐閣。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 県内外の中小企業に対する関心を深めて欲しい。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)
-------	-------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断Ⅰ、中小企業診断Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業や小規模事業者の経営課題は、年々、複雑化・多様化しており、持続的経営に向けた経営診断は高度な専門知識や技術を使って課題解決を進める必要がある。本講義では、診断先の中小企業及び小規模事業者の現状を理解するとともに経営診断の基本について学んでいく。	メッセージ ・論理的思考で物事を捉えるよう心掛けて欲しい。 ・大学で学ぶ知識を横断的に活用できるよう心掛けて欲しい。
	到達目標 ・中小企業・小規模事業者の現状について説明ができる。 ・経営診断のプロセスを体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認する。
	2	中小企業とは	中小企業白書にて調べる。
	3	中小企業の現状	中小企業白書にて調べる。
	4	中小企業の産業別構造	中小企業白書にて調べる。
	5	中小企業を取り巻く環境変化と生産性	中小企業白書にて調べる。
	6	中小企業の経営課題	中小企業白書にて調べる。
	7	中小企業政策①	中小企業庁HPにて調べる。
	8	中小企業政策②	中小企業庁HPにて調べる。
	9	中小企業基本法	中小企業庁HPにて調べる。
	10	中小企業診断制度	中小企業庁HPにて調べる。
	11	コンサルティングスタイル	経営学等の参考文献にて学習
	12	コンサルティングプロセス①	経営学等の参考文献にて学習
	13	コンサルティングプロセス②	経営学等の参考文献にて学習
	14	中小企業の経営戦略策定プロセス	経営学等の参考文献にて学習
15	中小企業の経営戦略実行プロセス	経営学等の参考文献にて学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる。	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。 『中小企業白書』中小企業庁 青山和正『中小企業論』同友館 伊丹敬之、加護野忠雄『経営学入門』日本経済新聞社		
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験60%、レポート提出30%、授業態度10% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士の一次試験に関連する科目（経営学、財務・会計学、マーケティング、経済学、経営情報、経営法務、中小企業論）を履修し、資格取得を目指してもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断Ⅱ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安谷屋 盛広	3年	info@adaniya-consulting.com	

学びの準備	ねらい 中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、企業の分析事例をもとに具体的な診断を体系的に学習する。	メッセージ 大学にて学んだ経営理論を仕事の現場で活かせるような、もの考え方を身につけます。さまざまな仕事についても、ビジネスパーソンとして必要な知識とそれを具体的に活用する方法を学べます。
	到達目標 ・企業経営の事象を論理的に分析し、問題点、課題、解決策を導くことができる。 ・中小企業診断士試験の問題を理解し、回答できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス、履修登録	講義内容の復習
	2	(特) 企業診断の進め方	企業診断のフレームワークの理解
	3	(特) 中小企業の経営戦略	経営理論のおさらい
	4	(特) " の財務診断の概略	財務管理のおさらい
	5	(特) " の販売診断の概略	フレームワークのおさらい
	6	(特) " の生産診断の概略	原価管理のおさらい
	7	(特) " の企業診断の概略	企業診断のおさらい
	8	(特) 中間テスト	学習成果をまとめる
	9	(特) 中間テストの解説	学習成果をまとめる
	10	(特) 小売商業の診断演習 1	国内の小売商業の動向について調査
	11	(特) " 2	同上
	12	(特) サービス業の診断演習 1	国内のサービス業について調査
	13	(特) " 2	同上
	14	(特) 製造業の診断演習	国内の製造業について調査
	15	(特) 期末テスト	学習成果をまとめる
	16	(特) 期末テスト解説、考査	学習成果をまとめる
	テキスト・参考文献・資料など 市販のテキスト等は使用しません。オリジナルの資料を適宜配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行い、評価点とします。 ・講義に参加して議論に積極的に参加することを重視します。 ・社会情勢、経済環境に興味・関心を持ち普段のニュース等から企業経営に関する影響などをウォッチしてください。		
	評価 平常点（60％）：講義への受講態度と積極的な発言に対して加点します。 中間テスト（20％）：経営戦略、マネジメント、マーケティングの基本知識のおさらいをします。 期末テスト（20％）：中小企業診断に必要な知識のおさらいをします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士試験の資格取得を目指していただきたい。 就職後の仕事においてももの考え方や物事の進め方を実践的に活かしていただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業マーケティング	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	原田優也研究室: 5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は中小企業のマーケティング活動を中心に概説し、中小企業マーケティングの必要性・基礎的な概念、中小企業の持続型経営モデル・発展型経営モデル、中小企業マーケティング構造、中小企業マーケティングの特質などを学習する。また、中小企業の事業形態別のマーケティング活動の事例を紹介しながら、中小企業のグローバル・マーケティングや地域ブランド形成などを説明する。	授業計画は学習状況によって変更することがある
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中小企業の現状と課題を理解する</li> <li>2) 中小企業の運営能力を身につけることを目標とする</li> <li>3) 中小企業の定義、歴史、競争、経営とマーケティング役割などについて理解する</li> </ol>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回: シラバス説明 (資料を読む)</p> <p>第2回: 中小企業マーケティングとは (グループを設定)</p> <p>第3回～第4回: 中小企業のビジネス課題 (各グループが課題を選択)</p> <p>第5回～第7回: ビジネス課題の情報収集 (各グループが中間発表を準備)</p> <p>第8回: 課題提出・理解度テスト (資料を復習)</p> <p>第9回～第11回: 沖縄中小企業のマーケティング活動の調査 (各グループが情報収集)</p> <p>第12回～第14回: 調査発表 (調査報告を準備)</p> <p>第15回: レポートの作成・点検 (レポートを準備)</p> <p>第16回: レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト: 田中 道雄 (2014) 「中小企業マーケティング」中央経済社                  参考書・参考資料等: ●田中 道雄 (著・編集), 白石 善章 (著・編集), &amp; その他 (2016) 「中小企業マーケティングの構図」同文館出版 ●『中小企業白書』2015年版</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修の心構え】</p> <p>1) 第1回目の授業は必ず出席すること。出席しない場合、履修できないこともある。</p> <p>2) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (報告に対する質疑応答、パティシペーションなど) が必要である</p>
評価	課題提出 (100%)

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティングコースの卒業論文演習、中小企業診断士など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	2年	授業終了後、教室にて質問を受け付けます。	

学びの準備	ねらい データベースの概要から基本操作、簡単なデータベース設計の修得までを目的とする。データベースソフトの一つである「Microsoft Access」を使用し講義を進める。	メッセージ コンピュータ (Windows PC) を用いた演習を中心に学びます
	到達目標 1. データベースの基本概念について説明できる 2. Microsoft Accessの基本的な操作ができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス -データベースとは-	講義の復習・次回講義の予習
	2	(対) Microsoft Accessの概要	課題の提出・次回講義の予習
	3	(対) テーブル機能 -空のデータベースの作成・テーブルの作成-	課題の提出・次回講義の予習
	4	(対) テーブル機能 -データのインポート・データシートの編集-	課題の提出・次回講義の予習
	5	(対) フォーム機能 -フォームの概要・フォームの作成-	課題の提出・次回講義の予習
	6	(対) フォーム機能 -フォームデザインの変更-	課題の提出・次回講義の予習
	7	(対) クエリ機能 -選択クエリ-	課題の提出・次回講義の予習
	8	(対) レポート機能 -レポートの種類・レポート作成-	課題の提出・次回講義の予習
	9	(対) レポート機能 -レポートデザインの変更-	課題の提出・次回講義の予習
	10	(対) リレーションシップ -リレーションシップの概要・設定-	課題の提出・次回講義の予習
	11	(対) クエリ機能 -複数テーブルを使ったクエリ-	課題の提出・次回講義の予習
	12	(対) フォーム機能	課題の提出・次回講義の予習
	13	(対) マクロ機能	課題の提出・次回講義の予習
	14	(対) 総合演習 -単一テーブルデータベース-	課題の提出・次回講義の予習
15	(対) 総合演習 -複数テーブルデータベース-	課題の提出	
16	(対) 試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト ・「誰でも使えるデータベース! Access」 noa出版 参考文献・資料など ・「データベースってなんですか? これからAccessでデータベースを始めたい人のための本」 著者 E-Trainer.jp 発行書 秀和システム		
	学びの手立て 講義では演習を中心とし、毎回の課題に取り組むことで理解を深めます。 テキストを予習していることを前提に講義を進めるので、必ずテキストを購入すること。 締切(次回の講義日前に設定)、Moodleにて課題を提出してもらいます。		
	評価 課題(60%)+最終試験(40%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ウェブプログラミング プログラミング概論 プログラミング I 情報処理システム論など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本流通論	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。                  ②流通業発展の歴史を学ぶことで、流通業の役割を理解する。                  ③日本型流通の特徴について理解する。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っている。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな消費生活を送ることができる。                  本講義の目的は、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を基礎から学ぶことで、日本型流通の特徴や問題点を理解することである。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態について理解する。                  ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通の特徴を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	流通とは何か	流通を学ぶ意義について確認
	3	商圈とエリアマーケティング	購買圏と商圈について確認
	4	卸売業と小売業	日本の小売業・卸売業について確認
	5	小売業のかたち／無店舗小売業	無店舗小売業について確認
	6	業種と業態	業種と業態について確認
	7	零細小売業と商店街	零細小売業について確認
	8	百貨店	百貨店の歴史・特徴について確認
	9	GMSとスーパーマーケット	GMS・スーパーについて確認
	10	コンビニエンス・ストア	コンビニの特徴について確認
	11	物流とは何か	物流の定義について確認
	12	物流革新による物流プロセスの最適化	ロジスティクス4.0について確認
	13	EC市場の現状	EC市場の現状について確認
	14	日本におけるPB商品の展開方向	PB商品について確認
15	消費財流通の変化／SPA	SPAについて確認	
16	予備日	予備日	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。                  ・住谷宏編著（2019）『流通論の基礎（第3版）』中央経済社</p>
----	---

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、流通チャネルの重要性を身近から学ぶこと。                  ②新聞やニュースに触れ、卸売業・小売業の動向についてチェックすること。                  ③①や②を通じて、現代流通の問題点について自分自身で考える癖をつけること。</p>
--------	---

評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%)</p> <p>1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (30%)                  2. レポート課題〈中間試験〉 (30%)                  3. レポート課題〈期末試験〉 (40%)</p> <p>※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、わが国の卸売業・小売業が抱える課題を発見する。                  関連科目としてグローバル流通論がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング・経営科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、実務をより身近に感じてもらう。	ショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはないだろうか。販売実務の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしている。 本講義では、リテールマーケティング（販売士）検定3級レベルの知識を修得しつつ、流通・マーケティングをより身近に学ぶ。
到達目標	①流通における小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	これからの授業展開について確認
2	小売業の類型①	小売業の定義について学習	
3	小売業の類型②	小売業の役割、卸売業を学習	
4	小売業の類型③	組織小売業について学習	
5	小売業の類型④	店舗形態別小売業について学習	
6	小売業の類型⑤	海外小売業の特徴について学習	
7	小売業の類型⑥	商品別流通経路について学習	
8	マーチャンダイジング①	商品の定義について学習	
9	マーチャンダイジング②	マーチャンダイジングの定義を学習	
10	マーチャンダイジング③	POSシステムについて学習	
11	マーチャンダイジング④	価格設定について学習	
12	マーチャンダイジング⑤	価格制度の変遷について学習	
13	マーチャンダイジング⑥	補充・発注、物流について学習	
14	ストアオペレーション①	包装技術について学習	
15	ストアオペレーション②	ディスプレイの方法について学習	
16	予備日	予備日	
テキスト・参考文献・資料など	【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・坪井晋也・河田賢一編著（2018）『販売管理論入門』学文社		
学びの手立て	【履修の心構え】 ①スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、販売のための工夫を身近な事例から学ぶこと。 ②新聞などに目を通し、小売業・サービス業の動向についてチェックすること。		
評価	【成績評価の内訳】 1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (100%) 2. レポート課題〈中間試験〉 (30%) 3. レポート課題〈期末試験〉 (30%) 4. レポート課題〈期末試験〉 (40%) ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。 関連科目として日本流通論がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング・経営科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、実務をより身近に感じてもらう。	本講義は、オンラインによる特例授業（全15回）を実施する。 受講学生は「沖国大ポータル」で配布される第1回講義資料をよく読んで、講義資料に記載されている指示に従って、第1回講義開始までにオンライン授業に参加する準備を行うこと。
到達目標	①流通における小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	これからの授業展開について確認
2	(特) 小売業の類型①	小売業の定義について学習	
3	(特) 小売業の類型②	小売業の役割、卸売業を学習	
4	(特) 小売業の類型③	組織小売業について学習	
5	(特) 小売業の類型④	店舗形態別小売業について学習	
6	(特) 小売業の類型⑤	海外小売業の特徴について学習	
7	(特) 小売業の類型⑥	商品別流通経路について学習	
8	(特) マーチャンダイジング①	商品の定義について学習	
9	(特) マーチャンダイジング②	マーチャンダイジングの定義を学習	
10	(特) マーチャンダイジング③	POSシステムについて学習	
11	(特) マーチャンダイジング④	価格設定について学習	
12	(特) マーチャンダイジング⑤	価格制度の変遷について学習	
13	(特) マーチャンダイジング⑥	補充・発注、物流について学習	
14	(特) ストアオペレーション①	包装技術について学習	
15	(特) ストアオペレーション②	ディスプレイの方法について学習	
16	(特) 予備日	予備日	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・坪井晋也・河田賢一編著（2018）『販売管理論入門』学文社</p> <p>【使用ツール】：毎回の講義で使用するため、各自で必ず準備すること。第1回講義資料で導入説明。 ・Microsoft Teams (<a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software">https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software</a>)</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①スーパーマーケット、コンビニなどを観察し、販売のための工夫を身近な事例から学ぶこと。 ②新聞などに目を通し、小売業・サービス業の動向についてチェックすること。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%)</p> <p>1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (30%) 2. レポート課題〈中間試験〉 (30%) 3. レポート課題〈期末試験〉 (40%)</p> <p>※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。 関連科目として日本流通論がある。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	非営利会計	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-喜舎場 耕太	3年	k.kishaba@tkcnf.or.jp	

学びの準備	ねらい 非営利会計の対象は、国・地方公共団体・公益法人・学校法人・社会福祉法人・宗教法人等であり、それぞれに会計基準が存在します。簿記会計の知識を基礎として、非営利会計特有の会計基準を学びます。	メッセージ 非営利会計は企業会計に近似していますが、異なるところも多数あります。簿記会計の基礎を習得した学生にとって、将来の選択肢が広がる科目と思います。
	到達目標 非営利組織ごとの会計基準の違いにより、一般的な会計知識ではその情報を理解し利用することが困難であることを学習するとともに、近年における各会計基準の改定の動向を確認し、その方向性を考察できるようになること。また、非営利会計の知識があることで、就職においても一般企業のみならず公益法人も選択肢になることから幅が広がる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドンスー我が国の非営利組織会計	提供レジュメの確認
	2	公益法人会計の「貸借対照表」－「資産の部」	テキスト及び配布資料で復習
	3	公益法人会計の「貸借対照表」－「負債の部」「正味財産の部」	テキスト及び配布資料で復習
	4	公益法人会計の「正味財産増減計算書」	テキスト及び配布資料で復習
	5	公益法人会計の「キャッシュ・フロー計算書」	テキスト及び配布資料で復習
	6	公益法人会計の法人税等1 概要	テキスト及び配布資料で復習
	7	公益法人会計の法人税等2 収益事業の意義と範囲等	テキスト及び配布資料で復習
	8	公益法人会計の法人税等3 みなし寄付金制度、消費税等	テキスト及び配布資料で復習
9	その他非営利法人会計1 社会福祉法人	テキスト及び配布資料で復習	
10	その他非営利法人会計2 社会福祉法人	テキスト及び配布資料で復習	
11	その他非営利法人会計3 NPO法人会計、病院会計	テキスト及び配布資料で復習	
12	その他非営利法人会計4 学校法人会計	テキスト及び配布資料で復習	
13	その他非営利法人会計5 宗教法人会計	テキスト及び配布資料で復習	
14	地方政府の会計－政府会計の「基本目的」「貸借対照表」	テキスト及び配布資料で復習	
15	地方政府の会計－政府会計の「行政コスト計算書」「資金収支計算書」	テキスト及び配布資料で復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義開始時に指定 参考文献：大蔵財務協会「非営利法人の税務と会計」中田ちず子編著		
	学びの手立て 非営利組織の会計も「簿記」の知識が必要です。企業会計の知識を前提に、各非営利組織の特殊性とその会計基準等を学習します。		
	評価 授業参加度及び課題内容評価（30%）、レポート（40%）、期末テスト（30%）の総合評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」税法、税務会計等
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅰ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	当該講義時間の前後に直接問い合わせることが望ましい。	

学びの準備	ねらい 国際比較の経営的な視点より辺境における経済発展の理論について説明する。	メッセージ 国際社会で活躍しよう。
	到達目標 経営組織を構成する人・文化・経済という視点から、イギリス・アメリカ・日本の経済発展のプロセスを辿っていくことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 国際的な企業における経営組織Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	(特) 国際的な企業における経営組織Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	(特) 国際的な企業における経営組織Ⅲ	関連図書のリスト作成Ⅲ
	4	(特) イギリスにおける企業経営の組織Ⅰ	マーケティングⅠ
	5	(特) イギリスにおける企業経営の組織Ⅱ	マーケティングⅡ
	6	(特) アメリカにおける企業経営の組織Ⅰ	大量生産方式Ⅰ
	7	(特) アメリカにおける企業経営の組織Ⅱ	大量生産方式Ⅱ
	8	(特) 日本における企業経営の組織Ⅰ	経営戦略Ⅰ
	9	(特) 日本における企業経営の組織Ⅱ	経営戦略Ⅱ
	10	(特) 日本における企業経営の組織Ⅲ	経営戦略Ⅲ
	11	(特) 経営理念Ⅰ	日本的経営の文化構造Ⅰ
	12	(特) 経営理念Ⅱ	日本的経営の文化構造Ⅱ
	13	(特) 組織化された企業者活動Ⅰ	日本的経営の文化構造Ⅲ
	14	(特) 組織化された企業者活動Ⅱ	日本の技術者Ⅰ
15	(特) 日本の経営者Ⅰ	日本の技術者Ⅱ	
16	(特) 日本の経営者Ⅱ	日本経済の二重構造	
テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の労働と日本型企業社会』国際経営研究所、1995年。			
学びの手立て 講義にて展開される理論に関する関連図書を収集し、理解することが望ましい。			
評価 2回実施される理解度テストの結果（50点）と授業中に行われる教員との議論の内容（50点）、合計100点による。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、比較経営論Ⅰ、Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年	講義時間の前後に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい 国際経営に関する専門知識を把握する。	メッセージ 国際ビジネスを学ぶ
	到達目標 将来貿易が行える企業活動に関する知識の習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) アメリカンマネジメントの特質Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	(特) アメリカンマネジメントの特質Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	(特) 日米比較経営Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅲ
	4	(特) 日米比較経営Ⅱ	日本的経営Ⅰ
	5	(特) 経営構想力Ⅰ	日本的経営Ⅱ
	6	(特) 経営構想力Ⅱ	企業競争の意識Ⅰ
	7	(特) 経営構想力Ⅲ	企業競争の意識Ⅱ
	8	(特) 企業経営者の経営行動Ⅰ	企業競争の意識Ⅲ
	9	(特) 企業経営者の経営行動Ⅱ	経営戦略Ⅰ
	10	(特) 企業経営者の経営行動Ⅲ	経営戦略Ⅱ
	11	(特) 日本企業と過労シンドロームⅠ	経営戦略Ⅲ
	12	(特) 日本企業と過労シンドロームⅡ	日本の経営者Ⅰ
	13	(特) 日本型企业社会Ⅰ	日本の経営者Ⅱ
	14	(特) 日本型企业社会Ⅱ	日本の経営者Ⅲ
15	(特) 日本型企业社会Ⅲ	日本的経営と文化構造Ⅰ	
16	(特) 日本的経営と国際化	日本的経営と文化構造Ⅱ	
テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社 3 佐久本 朝一『技術革新下の労働に日本型企业社会』国際経営研究所			
学びの手立て 理解度を増すためには講義中に展開される理論に関する関連動画や関連図書を参照する必要がある。			
評価 レポート提出による理解度の評価（80点）と講義中での質疑応答（20点を加味して）、合計100点で判断する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 外書講読、経営学演習、経営学総論など経営に関する科目。
-------	--

※ポリシーとの関連性

県内産業（企業）の現状と課題を理解するとともに、ビジネスにおける課題解決等のスキルを提供する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス特別講義	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	2年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネスを実践されている実務家の方をゲスト・スピーカーとして招き、沖縄県の産業の置かれている現状と課題を学び、その課題について検討・報告することにより、ビジネスマインドとビジネス実践を習得する。	メッセージ 沖縄県で展開する産業の現状と課題を知るとともに、課題解決に向けた討論などにより、ビジネスマインドをつかんでください。
	到達目標 ・専門科目の講義で学んだ知識を実践と融合した形で理解するとともに、その課題解決に向けたスキルを身につけ、沖縄県のビジネスに参加する基礎を作る。 ・グループワークを通して、情報収集・分析力、報告書（パワポ）作成力、プレゼン力、協調力等のスキルアップを図る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの理解
	2	県経済・産業の現状について	県経済・産業の把握
3	県経済・産業の現状について	県経済・産業の把握	
4	課題企業の経営状況の把握（実務家招聘による）	課題企業の経営状況の把握	
5	課題企業の経営状況の把握（前回講義の確認）	課題企業の経営状況の把握	
6	課題企業の経営状況の分析	経営環境・資源の整理	
7	課題企業の経営状況の分析	経営環境・資源の整理	
8	課題企業の経営目的達成のための問題点と課題抽出	経営目標達成への問題点と課題把握	
9	課題企業の経営目的達成のための問題点と課題抽出	経営目標達成への問題点と課題把握	
10	課題解決に向けた改善提案の検討	課題解決策の検討、発表用PPの作成	
11	課題解決に向けた改善提案の検討	課題解決策の検討、発表用PPの作成	
12	グループ発表	課題解決策の検討、発表用PPの作成	
13	グループ発表	他者発表を踏まえた解決策の再検討	
14	グループ発表	他者発表を踏まえた解決策の再検討	
15	グループ発表	他者発表を踏まえた解決策の再検討	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。各回の講義ごとに資料を配布します。 また、この講義に関する参考書もありません。講義中、適宜、指示します。		
	学びの手立て 沖縄国際大学産業情報学部とともに「産学協力会」を構成する企業より実務家の方をゲスト・スピーカーとして招き、ビジネスマインドとビジネス実践を学修する講義です。受講する学生は、コーディネータの指導のもと、実務家の講師による講義の中で、沖縄県で展開する産業の現状と課題を知り、これまでに学んできた理論的な講義の中で培った知識がどのように働いているかを理解すると同時に、企業の実践における問題点について考えてください。		
	評価 レポート・発表【100%】・・・それぞれの企業が抱える課題を適切に理解しているか、その課題解決策は現実的かなどの観点から評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義で学習した産業・企業に関わるビジネスソリューションに関わる知識を、学部講義へ学習を展開していきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスプレゼンテーション	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	3年	ptt569@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「伝えたいこと」を誤解なく、効果的に表現するためには、コミュニケーションの基本を知ることが必要です。傾聴、理解、共感、確認、伝達など、「相手を知ること」で、伝える内容や表現を選ぶことができます。あわせて、相手への敬意を表すためには、姿勢を整え挨拶を交わし、より伝わる話し方を身につけ、言葉に責任を持った表現ができることを目指します。</p>	<p>社会人として求められるスキルのトップにあげられるのは、コミュニケーション力です。ビジネスの基本である報告・連絡・相談も、相手の身になって考え、行動することから始まります。姿勢を正して挨拶ができ、その言葉は聞き取りやすく、しっかりと責任をもって伝えることができるようにスキルアップを図ります。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して実践します。</p>
到達目標	<p>●傾聴（話の内容と意図を理解）し、要点をメモにとることができる。●姿勢を整え、しっかりと挨拶をすることができる。●言葉が聞きとりやすく、はっきりと話すことができる。●情報の収集・整理・選択ができる。●グループワークで意見を調整し、プレゼンテーションができる。●聞き手にあわせて、効果的に話をする事ができる。●論的な発言で理解を促すことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	自己紹介・受講目的について準備
	2	姿勢・挨拶・発声トレーニング・自己紹介・インタビュー・他己紹介	発声練習・自己PR文の作成
	3	自己PRスピーチトレーニング・音読トレーニング	ディスカッションテーマの提案
	4	新聞記事の音読・ディスカッションテーマの提案プレゼンテーション・テーマの決定	テーマについての情報収集・考察
	5	ディスカッションの基本・実践<情報の収集・整理・選択・表現>	ディスカッションの振り返り・考察
	6	ディスカッションの報告プレゼンテーションの準備<言葉の選択・効果的な表現>	コメントの作成・言葉の選択
	7	ディスカッションの報告プレゼンテーション・実践	振り返りレポート・評価と課題
	8	ディベートについて<多角的なもの見方・多様な価値観の理解> ○チーム・役割の決定	ディベートテーマの提案準備
	9	ディベートテーマの提案・決定<社会的な課題からの選択>	裏付けデータ等、情報の収集・選択
	10	ディベートマップの作成<多角的視点・ストーリーの作成> ○リハーサル・時間確認	ファイルの整理・発言リハーサル
	11	ディベートマッチ<実践>=物事の本質を観る論理的な話し方	振り返りレポート・就活の現状を整理
	12	テーマディスカッション<就職活動を有利に展開するために>	現状の把握・情報収集・整理・所見
	13	グループワーク<情報共有・整理・選択・要点・表現方法等>	パワーポイントの作成
	14	プレゼンテーション・スピーチ<実践1>	PDCAマネジメントサイクルで検証
15	プレゼンテーション・スピーチ<実践2>	総括レポートのまとめ	
16	総括<コミュニケーション力とプレゼンテーション>	学習成果をまとめる	

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。

学びの手立て  
 履修の心構えとして ●コロナ禍ということもあり、今期はteamsを活用したりリモートを予定しています。 ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡することを基本とします。欠席届は必ず翌週までに提出してください。 ●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。 ●プリントは最小限に準備する予定です。講義内の話をきちんと聞く姿勢から、傾聴と学び取るチカラをつけてもらいます。あわせて、その要点をメモにして記録を残し、振り返り・確認ができること評価します。社会でもとめられているスキルのひとつです。 ●人と人を繋ぐ意識を持ち、グループワークでよりよいコミュニケーションのために行動してください。 ●質問するチカラで講義の内容をより有意義なものにしてください。

評価  
 ○受講態度(活動内容や実践・実績など) 50%  
 ○提出物の完成度(レポートやノートなど) 50%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 ●この講義で要点となっていることを意識的に実践していくことが、スキルアップに繋がります。3年生は、就職活動の中で、また、社会人としても常にコミュニケーションと表現。自分の言葉に責任をもつことをこころがけることが大切です。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%) 1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (30%) 2. レポート課題 (30%) 3. プレゼン資料の作成およびプレゼン (40%) ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年次の終了時に「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	i. sanjon@okiu. ac. jp 098-893-7449	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年	s. sugamori@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度（12%）、課題提出（28%）、レポートの提出（60%）によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 桂	1年	kshimabukuro@okiu.ac.jp 研究室：13号館210研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	講義の質問時間中(12:00~12:10)に、対応する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(経済記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度(50%)、課題提出(30%)、期末試験等(20%)によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</li> <li>2. プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</li> </ol>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（ビジネス記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など	参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> </ul>		
評価	調査テーマの発表・レポートの提出（100%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。

到達目標	1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など	随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。
----------------	---

学びの手立て	・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。
--------	---

評価	授業への参加態度（60%）、課題提出（40%）によって総合評価する。
----	------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	慶田花 英太	1年	e.kedahana@okiu.ac.jp 研究室：9号館503号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。

到達目標
1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など
随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。

学びの手立て
・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。

評価
授業への参加態度（50%）、課題提出（30%）、期末試験等（20%）によって総合評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。授業においては、課題の提出を求めます。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	Google Classroom 講義ファイル1
	2	表の編集	Google Classroom 講義ファイル2
	3	四則演算と関数	Google Classroom 講義ファイル3
	4	グラフ	Google Classroom 講義ファイル4
	5	データベース	Google Classroom 講義ファイル5
	6	印刷&売り上げ実績表	Google Classroom 講義ファイル6
	7	印刷&売り上げ報告書	Google Classroom 講義ファイル7
	8	申し込み一覧の作成	Google Classroom 講義ファイル8
	9	入力作業をサポートする機能	Google Classroom 講義ファイル9
	10	関数を使用した入力サポート	Google Classroom 講義ファイル10
	11	データ配布について&データのビジュアル化	Google Classroom 講義ファイル11
	12	データ分析の準備とデータベース機能	Google Classroom 講義ファイル12
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	Google Classroom 講義ファイル13
	14	四半期売り上げ実績の制作	Google Classroom 講義ファイル14
15	四半期売り上げ分析	Google Classroom 講義ファイル15	
16			
テキスト・参考文献・資料など Google Classroomへ講義テキストならびにヒントをアップロードします。  書籍「Microsoft Excel2013 セミナーテキスト問題集（日経BP社）」 Excelは、教室によってバージョンが異なる場合がありますので、上記テキストのバージョンと一致するとは限りません。			
学びの手立て 大学のコンピュータールームや自宅のPCで、テキストに沿って、出された課題をしっかりとやること。コンピュータールームによっては、テキストのバージョンとエクセルのバージョンが異なります。社会に出たときも、同じような状況に遭遇すると思います。バージョンの違いに幅広く適応できるようになりましょう。			
評価 提出物：100%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営。マーケティング。簿記会計。プログラミングB。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。授業においては、毎回の課題の提出を求めます。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの準備	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。
-------	---------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	Google Classroom 講義ファイル1
	2	表の編集	Google Classroom 講義ファイル2
	3	四則演算と関数	Google Classroom 講義ファイル3
	4	グラフ	Google Classroom 講義ファイル4
	5	データベース	Google Classroom 講義ファイル5
	6	印刷&売り上げ実績表	Google Classroom 講義ファイル6
	7	印刷&売り上げ報告書	Google Classroom 講義ファイル7
	8	申し込み一覧の作成	Google Classroom 講義ファイル8
	9	入力作業をサポートする機能	Google Classroom 講義ファイル9
	10	関数を使用した入力サポート	Google Classroom 講義ファイル10
	11	データ配布について&データのビジュアル化	Google Classroom 講義ファイル11
	12	データ分析の準備とデータベース機能	Google Classroom 講義ファイル12
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	Google Classroom 講義ファイル13
	14	四半期売り上げ実績の制作	Google Classroom 講義ファイル14
	15	四半期売り上げ分析	Google Classroom 講義ファイル15
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Google Classroomへ講義テキストならびにヒントをアップロードします。  書籍「Microsoft Excel2013 セミナーテキスト問題集（日経BP社）」 Excelは、教室によってバージョンが異なる場合がありますので、上記テキストのExcelバージョンと一致するとは限りません。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 大学のコンピュータールームや自宅のPCで、テキストに沿って、出された課題をしっかりとやること。コンピュータールームによっては、テキストのバージョンとエクセルのバージョンが異なります。社会に出たときも、同じような状況に遭遇すると思います。バージョンの違いに幅広く適応できるようになりましょう。
-------	---

学びの実践	評価 毎回の提出物：100%
-------	-------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営。マーケティング。簿記会計。プログラミングB。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習B	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）を学びつつ、スマートフォン用アプリのブロックプログラミング技法を学びます。</p>	<p>Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末（スマートフォン）で利用することができます。30分以上の遅刻、ならびに課題未提出の場合は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成・実行する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	Google Classroom 講義ファイル1
	2	APP Inventor開発環境について	Google Classroom 講義ファイル2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	Google Classroom 講義ファイル3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	Google Classroom 講義ファイル4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	Google Classroom 講義ファイル5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	Google Classroom 講義ファイル6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	Google Classroom 講義ファイル7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	Google Classroom 講義ファイル8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	Google Classroom 講義ファイル9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	Google Classroom 講義ファイル10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	Google Classroom 講義ファイル11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	Google Classroom 講義ファイル12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	Google Classroom 講義ファイル13
14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	Google Classroom 講義ファイル14	
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	Google Classroom 講義ファイル15	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いず、Google Classroomへアップロードされた電子ファイルを用います。Android関連書籍。関連Webページ。</p>		
学びの手立て	<p>毎時間の講義内容をGoogle Classroomにアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java JDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。</p>		
評価	<p>提出物（10～12回程度）：100%                  授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない（例：おしゃべり、授業と関係のない動画閲覧等）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ベンチャー経営論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ベンチャー企業は普通の企業とは何が異なるのだろうか。違いがあるなら当然、マネジメント活動なども異なるはずだ。そこで本講義はベンチャー企業特有のマネジメントを理解するとともに、新規事業に果敢に立ち向かうアントレプレナーについて、さらにはビジネスプラン作成に関する基礎知識を学んでいく。	経済の持続的発展に必要とされる創業や新規事業創出に関心を持ち、理解を深めてもらいたい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチャーマネジメントについて理解を深める。</li> <li>ビジネスプラン作成に必要な知識を習得する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の全体像を確認
	2	ベンチャー企業の定義と位置づけ	ベンチャー企業に関する学習
	3	ベンチャー企業の役割	ベンチャー企業に関する学習
	4	イノベーション	イノベーションに関する学習
	5	アントレプレナーとアントレプレナーシップ	アントレプレナーに関する学習
	6	ベンチャー企業政策の変遷	ベンチャー企業政策に関する学習
	7	創業・開業の公的支援	創業・開業に関する学習
	8	ベンチャーマネジメントの特性①	ベンチャーマネジメントの学習
	9	ベンチャーマネジメントの特性②	ベンチャーマネジメントの学習
	10	株式公開とベンチャー企業	株式公開に関する学習
	11	事業機会の発見と評価	事業機会に関する学習
	12	ビジネスモデルの構築	ビジネスモデルに関する学習
	13	ビジネスプランの重要性	ビジネスプランに関する学習
14	ビジネスプランの基本型①	ビジネスプランに関する学習	
15	ビジネスプランの基本型②	ビジネスプランに関する学習	
16	期末試験	学習成果をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。 <b>【参考文献】</b> 早稲田大学アントレプレナーヌール研究会『ベンチャー企業の経営と支援』日本経済新聞社 P, F, ドラッカー『イノベーションと起業家精神』ダイヤモンド社 シュンペーター『経済発展の理論』岩波文庫		
学びの手立て	毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席とする。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
評価	期末試験60%、レポート提出30%、授業態度10%。 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅰ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易ビジネス論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①貿易実務の基礎を学び、貿易取引の基本を理解する。 ②国際物流の実態を学び、日本と世界各国の関係を理解する。 ③国際電子商取引について学び、グローバルSCMの構築を知る。	本講義は、オンラインによる特例授業（全15回）を実施する。受講学生は「沖国大ポータル」で配布される第1回講義資料をよく読んで、講義資料に記載されている指示に従って、第1回講義開始までにオンライン授業に参加する準備を行うこと。
到達目標	①貿易取引の全体像を把握できる。 ②貿易の基本実務を理解できる。 ③世界における経済連携強化の枠組みを理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	(特) 貿易取引の概念	貿易取引の概念について確認
	3	(特) 貿易取引と国内取引の相違	貿易取引のリスクについて確認
	4	(特) 商社機能の変遷	商社について確認
	5	(特) 特殊貿易／個人貿易	特殊貿易について確認
	6	(特) 世界貿易体制の変遷	貿易体制の変遷について確認
	7	(特) 貿易商談の流れ	貿易の流れについて確認
	8	(特) インコタームズ	インコタームズについて確認
	9	(特) 外国為替相場と為替予約	為替リスクヘッジについて確認
	10	(特) 輸出入の物流	貿易における物流について確認
	11	(特) 関税の基礎知識	関税について確認
	12	(特) 貿易に関わる保険	貿易保険について確認
	13	(特) 輸入ビジネスの形態	輸入ビジネスについて確認
	14	(特) 越境ECと一般貿易	越境ECの特徴について確認
15	(特) 今日における世界貿易の動向	世界貿易の動向について確認	
16	(特) 予備日	予備日	

テキスト・参考文献・資料など
【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。 ・布施克彦（2017）『図解入門ビジネス 貿易実務の基本と仕組みがよ〜くわかる本（第4版）』秀和システム 【参考テキスト】：時間外学習に使用するテキスト。復習に利用すること。 ・小林潔司・古市正彦編著（2017）『グローバルロジスティクスと貿易』ウェイツ 【使用ツール】：毎回の講義で使用するため、各自で必ず準備すること。第1回講義資料で導入説明。 ・Microsoft Teams ( <a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software">https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software</a> )

学びの手立て
【履修の心構え】 ①身近な製造業や小売業などを観察し、貿易と国際物流の仕組みを学ぶこと。 ②新聞やニュースなどに目を通し、世界の経済情勢についてチェックすること。

評価
【成績評価の内訳】 (100%) 1. 毎講義終了後に課すミニレポート〈計15回〉 (30%) 2. レポート課題〈中間試験〉 (30%) 3. レポート課題〈期末試験〉 (40%) ※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目として、日本流通論、グローバル流通論がある。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年	s. sugamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、商業簿記の内容を復習し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	メッセージ 日商簿記検定試験（統一試験）は6月、11月、2月に行われます。合格を目指し、頑張ってください。
	到達目標 ① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ 損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの準備	到達目標 ① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ 損益計算書と貸借対照表を作成できる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	各自、検定試験の勉強をする
	2	精算表の作成 I	各自、検定試験の勉強をする
	3	精算表の作成 II	各自、検定試験の勉強をする
	4	精算表の作成 III	各自、検定試験の勉強をする
	5	精算表の作成 IV	各自、検定試験の勉強をする
	6	試算表の作成 I	各自、検定試験の勉強をする
	7	試算表の作成 II	各自、検定試験の勉強をする
	8	補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 I	各自、検定試験の勉強をする
	9	補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 II	各自、検定試験の勉強をする
	10	補助簿、伝票式会計、決算仕訳、勘定記入 III	各自、検定試験の勉強をする
	11	総合問題 I	各自、検定試験の勉強をする
	12	総合問題 II	各自、検定試験の勉強をする
	13	総合問題 III	各自、検定試験の勉強をする
	14	総合問題 IV	各自、検定試験の勉強をする
	15	総合問題 V	各自、検定試験の勉強をする
16	テスト	各自、検定試験の勉強をする	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『よくわかる簿記シリーズ 合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2021年SS』 日商簿記3級 TAC出版 参考文献：必要だと思う教科書や問題集を適宜購入する
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・簿記の基本的な内容を一通り学んだものとして授業を行います。 ・資格取得を目指す講義なので、多くの時間外学習が必要です。
-------	---

学びの実践	評価 課題提出30%、テスト70%で評価します。
-------	-----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：商業簿記、工業簿記
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

「国際的ビジネス感覚を有する企業人の育成」をするため、それに伴う英語力とグローバルな視点を待つことを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング英語	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>知られざる日本の「ものづくり」企業の世界を通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。マーケティング関連のアクティビティやグループワークを行い、実践的な英語力を身につけていく。また、ビジネスマナー、外国人対応、異文化についての知識と理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*日本のものづくりに関する教材を用いてビジネスやマーケティングに必要な英単語や表現を身につけ、使うことができる。</li> <li>*英語を用いて、アンケートや資料を作成し、マーケティング調査を行うことができる。</li> <li>*英語を用いて調査結果を報告することができる。</li> <li>*英語を用いて国内外のアーティストのプロモーションや商品開発のプレゼンを行う。</li> <li>*異文化への知識・理解を深める。</li> </ul>	<p>【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、マーケティングに関連の英語表現や実践的な使い方を指導します。様々なアクティビティやディスカッションを通して英語力を向上させ、異文化理解を深めることを目指します。講師の海外経験や職場エピソードも好評です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション&ガイダンス Chapter 1: Mazda	Unit 1復習、Unit 2予習
	2	Chapter 2: House	Unit 2復習、Unit 3予習
	3	Chapter 3: TOTO	Unit 3復習、Unit 4予習
	4	Chapter 4: Shimano	Unit 4復習、Unit 6予習
	5	Chapter 6: UCC	Unit 6復習、Unit 7予習
	6	Chapter 7: Daifuku	Unit 7復習、Unit 8予習
	7	Chapter 8: SAKURA Color Products	Unit 1-8復習、テスト準備
	8	Review Test: Chapter 1-8 & 課題	Unit 9予習
	9	Chapter 9: Yanmar	Unit 9復習、Unit 11予習
	10	Chapter 11: Otafuku Sauce	Unit 11復習、Unit 12予習
	11	Chapter 12: Tombow &課題提出	Unit 12復習、“The Best Singer”
	12	“The BEST SINGER”	Unit 14予習
	13	Chapter 14 Morozoff	Unit 14復習、Unit 15予習
	14	Chapter 15: Company Museums and Cafes	Unit 9-15 復習、テスト準備
15	Review Test: Chapter 9-15 & TOEIC	TOEIC 復習、Presentation練習	
16	Final Presentation プレゼンテーション		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・教科書：Outstanding Monozukuri Companies in Japan (松柏社) (朝野書房・アマゾンなどで購入可) 課題図書：「マーケティング英語の教科書— 完璧でなくても、仕事で自信を持てる英語— (宣伝会議養成講座シリーズ)」(アマゾンなどで購入可) その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>【重要】受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>・小テストやクイズなどで学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> <li>・日頃より沖縄・日本・世界の取組に関心を持ち、経済・ビジネスに目を向けることを心がけてほしい。</li> </ul>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性・貢献度 Self-Reflection (20%) ②Individual 課題 (20%) ③Group 課題 (20%) ④クイズ・小テスト(20%) ④ Final Presentation (20%) を総合的に判断して評価する。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ネットなどを活用し、積極的に海外のビジネスやマーケティングに関する情報収集をすること。観光地などでは他言語のパンフレットや資料があるのでそういったものを教材とし、活用すること。また、英語VやVI (英検)、英語VII (TOEIC)などの英語資格試験対策の授業にも是非チャレンジしてほしい。異文化に興味があれば国際理解課題研修I, IIを受講し、グローバルな知識や考え方が身につけることができるだろう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 戦略的なマーケティング思考について理解する	メッセージ 今日のマーケティングでは、顧客価値の創造、そして収益性の高い顧客リレーションシップを構築することが重要視される。そのためには、まず顧客のニーズを理解することが重要である。
	到達目標 戦略的なマーケティング思考について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	指定テキストを事前によく読む
	2	マーケティングとは、プレゼンテーションの方法、グループ分け	同上
	3	男女の違い、五つのポイント	同上
	4	女性の買い物を変える五つの世界的トレンド	同上
	5	女性の心をつかむ商品をどう生み出すか	同上
	6	女性にアピールするマーケティングとは	同上
	7	プレゼンテーション	同上
	8	プレゼンテーション	同上
	9	プレゼンテーション	同上
	10	プレゼンテーション	同上
	11	プレゼンテーション	同上
	12	プレゼンテーション	同上
	13	プレゼンテーション	同上
	14	プレゼンテーション	同上
15	プレゼンテーション	同上	
16	授業のまとめ	同上	
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、必要時にプリントを配布します。			
学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください。 ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。どのために自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度、それを、どんどん述べてください。			
評価 (1) プレゼンテーション70点 (2) 課題提出20点 (3) 授業態度・積極性10点			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本講義でマーケティングの理論を理解することにより、後期の「マーケティング演習」で、より実践的にマーケティングと社会の動きの関連を理解できる
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様なマーケティング事例を通じて、受講生の「マーケティングの重要性」についての理解力を向上させる。</li> <li>グループワークの活動を通じて、チームワークの重要性を理解する。</li> </ol>	<p>マーケティングの成功事例は大企業から小企業まで多様です。マーケティングによる成果は必ずしも高い利益を獲得することだけではありません。小さい町にある『定食店』にお客さんが並んでいることも、マーケティング視点から見ると、意味のあることです。本講義では、マーケティングの意味について、考え直せるきっかけになるような内容で学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</li> <li>戦略的なマーケティング思考について理解する。</li> <li>これからのマーケティングの変遷について議論する。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	基本プレゼンテーションの方法(レジュメの作成方法)、グループ分け	グループ内の情報交換
	3	1次グループ・プレゼンテーション(指定課題)の選択と報告リハーサル	グループ内の役割の決定
	4	指定課題のプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	5	指定課題のプレゼンテーション②	グループ間ディスカッション
	6	指定課題のプレゼンテーション③	グループ間ディスカッション
	7	指定課題のプレゼンテーション④	グループ間ディスカッション
	8	指定課題のプレゼンテーション⑤	グループ間ディスカッション
	9	2次グループ・プレゼンテーション(自由テーマ)の準備方法	グループ別自由テーマ討議
	10	2次グループ・プレゼンテーションのテーマを決定	グループ内の役割の決定
	11	自由テーマのプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	12	自由テーマのプレゼンテーション②	グループ間ディスカッション
	13	自由テーマのプレゼンテーション③	グループ間ディスカッション
14	自由テーマのプレゼンテーション④	グループ間ディスカッション	
15	自由テーマのプレゼンテーション⑤	グループ間ディスカッション	
16	授業のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など <ol style="list-style-type: none"> <li>テキスト：栗木契・岩田弘三・矢崎和彦編著『ビジョナリー・マーケティング』碩学舎、2013年。</li> </ol>		
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> </ol>		
	評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>1次(40%)・2次(60%)プレゼンテーションの評価を総合して評価します。</li> </ol>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：『グローバル観光ビジネス』のような、特別なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。 次のステージ：『セールス・プロモーション』や『中小企業マーケティング』のような科目を履修すると、さらにマーケティングの面白さを感じられると思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【マーケティング情報処理I】は【マーケティング情報処理II】と連続したプログラムを組んでいるので、【マーケティング情報処理II】とセットで登録すること。</li> <li>●授業計画は学習状況によって変更することがある。</li> </ul>		
到達目標	<p>1) 調査データの種類の分析準備、2) データの要約と探索的分析、3) マーケティング課題のリサーチ化と基礎的分析などの項目が理解でき、実際に一人で分析が行えるようになること。</p>			
学びの実践	学びのヒント	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある)</p> <p>第01回 オリエンテーション (講義概要、レポートの提出方法、マーケティング課題の情報を調べる)</p> <p>第02回 課題1：新型コロナによる行動の変化 (課題1の情報収集)</p> <p>第03回 課題1を提出 (課題1を準備・作成)</p> <p>第04回 課題2：「インフルエンサー型」「フォロワー型」で変わる SNS 利用状況 (課題2の情報収集)</p> <p>第05回 課題2を提出 (課題2を準備・作成)</p> <p>第06回 課題3：「P&amp;Gマーケター流 失敗からの逆転法」 (課題3の情報収集)</p> <p>第07回 課題3を提出 (課題3を準備・作成)</p> <p>第08回 課題4：花王大研究 (課題4の情報収集)</p> <p>第09回 課題4を提出 (課題4を準備・作成)</p> <p>第10回 課題5：IoT (ベビーテック) (課題5の情報収集)</p> <p>第11回 課題5を提出 (課題5を準備・作成)</p> <p>第12回 課題6：ウォルマートVSアマゾン (課題6の情報収集)</p> <p>第13回 課題6を提出 (課題6を準備・作成)</p> <p>第14回 課題7：「キットカット」のプレミアム化戦略 (課題7の情報収集)</p> <p>第15回 課題7を提出 (課題7を準備・作成)</p>		
	テキスト・参考文献・資料など	<p>○各課題資料はクラス内で配布する。</p>		
学びの継続	学びの手立て	<p>履修条件：</p> <p>1) 「マーケティング情報処理II」とセットで履修する。</p> <p>2) 第1週目の授業は必ず出席してください。欠席する場合、履修できないこともある。</p>		
	評価	<p>課題提出 (100%)</p>		
学びの継続	次のステージ・関連科目	<p>○関連科目： マーケティング情報処理II、市場調査論、消費者行動論、専門演習</p> <p>○次のステージ： マーケティング情報処理IIで、マーケティング課題の分析手法をより実践的に解説します。</p>		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理II	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み取る能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	●【マーケティング情報処理II】は【マーケティング情報処理I】と連続したプログラムを組んでいるので【マーケティング情報処理I】とセットで登録すること。
到達目標	データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。 1) より高度な分析手法について考え方や注意点を理解できるようになること。 2) 分析計画と適切な分析手法の選択、結果のまとめができるようになること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(授業計画は学習状況、新型コロナウイルス感染症の感染防止等によって変更することがある)</p> <p>第01回 オリエンテーション (講義概要、レポートの提出方法)                  第02回 ビジネス課題の選択 (課題に関する情報収集)                  第03回 ビジネス課題1 (課題1の情報収集)                  第04回 ビジネス課題2 (課題2の情報収集)                  第05回 ビジネス課題3 (課題3の情報収集)                  第06回 ビジネス課題4 (課題4の情報収集)                  第07回 グループ1発表 (グループ発表1の情報収集)                  第08回 グループ2発表 (グループ発表2の情報収集)                  第09回 グループ3発表 (グループ発表3の情報収集)                  第10回 グループ4発表 (グループ発表4の情報収集)                  第11回 グループ5発表 (グループ発表5の情報収集)                  第12回 グループ6発表 (グループ発表6の情報収集)                  第13回 レポート作成 (グループ発表7の情報収集)                  第14回 レポート点検 (レポート原稿の準備・作成)                  第15回 レポートの提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎                  ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する                  ○分析の実習用に、RESASオンライン講座を活用する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修条件：                  1) 「マーケティング情報処理I」とセットで履修する。                  2) 第1週目の授業は必ず出席してください。</p>
評価	平常点 (20%)、中間発表・最終レポートなど (80%) を勘案し、総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目： マーケティング総論、市場調査論、消費者行動概論、専門演習、卒業論文演習など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 戦略的なマーケティング思考について理解する	メッセージ 今日のマーケティングでは、顧客価値の創造、そして収益性の高い顧客リレーションシップを構築することが重要視される。そのためには、まず顧客のニーズを理解することが重要である。
	到達目標 戦略的なマーケティング思考について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	マーケティングの本質	指定テキストを事前によく読む
	2	企業とマーケティング戦略	同上
	3	競争優位の創造	同上
	4	マーケティングの基本的枠組み	同上
	5	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	同上
	6	消費者の購買行動	同上
	7	製品、サービス、ブランド	同上
	8	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	同上
	9	マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供	同上
	10	価格設定	同上
	11	コミュニケーションによる顧客価値の説得	同上
	12	広告とパブリック・リレーションズ	同上
	13	人的販売と販売促進	同上
	14	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	同上
15	マーケティングと社会的責任	同上	
16	期末試験	同上	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、必要時にプリントを配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください。 ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。どのために自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度、それを、どんどん述べてください。		
	評価 (1) 期末試験 70点 (2) 課題提出 20点 (3) 授業態度・積極性 10点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本講義でマーケティングの理論を理解することにより、後期の「マーケティング演習」で、より実践的にマーケティングと社会の動きの関連を理解できる
-------	---

※ポリシーとの関連性 多様なマーケティング視角について学習することで、マーケティング分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. マーケティング分野で活用されている「マーケティングの多様性」について学習する。</p> <p>2. 伝統的な「マーケティング理論」から拡張している「マーケティング視角」について学習する。</p>	<p>マーケティングはこれまでの製造業や、サービス産業、観光産業だけではなく、最近では都市のようなスペース(空間)創造などの公共政策分野にまで、拡張されてきました。本講義では、多様なマーケティング理論または新しく注目されているマーケティング視角について学習します。</p>
到達目標	<p>1. マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</p> <p>2. 戦略的なマーケティング思考について理解する。</p> <p>3. これからのマーケティングの変遷について議論する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	マーケティングと戦略的思考Ⅰ	配布資料をよく読むこと
	3	マーケティングと戦略的思考Ⅱ	配布資料をよく読むこと
	4	マーケティングと戦略的思考Ⅲ	配布資料をよく読むこと
	5	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅠ	配布資料をよく読むこと
	6	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅡ	配布資料をよく読むこと
	7	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅢ	配布資料をよく読むこと
8	中間テスト(又は振替レポート)	個別学習	
9	体験マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
10	体験マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
11	ストーリーテリング・マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
12	ストーリーテリング・マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
13	スペース・マーケティングⅠ	配布資料をよく読むこと	
14	スペース・マーケティングⅡ	配布資料をよく読むこと	
15	期末テスト	期末テスト実施	
16	マーケティング総論のまとめ	授業内容総評	
テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</p>		
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</p>		
評価	<p>1. 出席・受講態度を積極的に反映します *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</p> <p>2. 中間テスト又は振替レポート(40%)と期末テスト(60%)の評価を総合して評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『グローバル・マーケティング総論』や『グローバル観光ビジネス』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『アジアの企業と文化』や『ソーシャル・マーケティング』のような科目を履修すると、マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。                  ②現実の企業活動に関心を持つことができる。                  ③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことである。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングといえる。                  本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。                  ②国内外企業のマーケティング戦略に対する興味・関心を持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	マーケティングとは何か	マーケティングの定義について確認
	3	プロダクトアウト, マーケットイン	マーケティング概念の変遷を確認
	4	STP	STP戦略について確認
	5	マーケティング環境分析	SWOT分析等について確認
	6	マーケティング・ミックス①	マーケティングの4Pについて確認
	7	マーケティング・ミックス②	プッシュ戦略・プル戦略を確認
	8	消費者行動論：購買意思決定プロセス	購買意思決定プロセスを確認
	9	消費者行動論：消費者行動モデル	消費者行動モデルについて確認
	10	マーケティング・リサーチ①	Mリサーチの過程について確認
	11	マーケティング・リサーチ②	定性調査・定量調査について確認
	12	インターネット・マーケティング	インターネットMについて確認
	13	デジタル・マーケティング	デジタルMについて確認
	14	キャラクター・マーケティング	キャラクターMについて確認
15	これからのマーケティング	エシカル消費について確認	
16	予備日	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。  
 ・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版

学びの手立て

【履修の心構え】

①スーパーマーケットやコンビニなどを観察し、マーケティングの重要性を身近から学ぶこと。  
 ②新聞などに目を通し、メーカー・小売業・サービス業の動向についてチェックすること。  
 ③①や②を通じて、現代マーケティングの問題点について自分自身で考える癖をつけること。

評価

【成績評価の内訳】 (100%)

1. 毎講義終了後に課すミニレポート<計15回> (30%)  
 2. レポート課題<中間試験> (30%)  
 3. レポート課題<期末試験> (40%)

※本講義におけるミニレポート提出回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。

次のステージ・関連科目

2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。  
 関連科目としてマーケティング総論およびマーケティング演習がある。

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1 年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	マーケティングとは何か考える
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	企業におけるマーケティングの役割	配布プリントの予習
	4	企業におけるマーケティングの位置づけ	配布プリントの予習
	5	マーケティングの概念とその拡張	配布プリントの予習
	6	マーケティング理念とその再検討	配布プリントの予習
	7	戦略思考と戦略体系 1	配布プリントの予習
	8	戦略思考と戦略体系 2	配布プリントの予習
	9	経営資源の配分とPPM	配布プリントの予習
	10	マーケティング戦略の策定 1	配布プリントの予習
	11	マーケティング戦略の策定 2	配布プリントの予習
	12	マーケティング戦略の方向付け	配布プリントの予習。経営者調査
	13	製品ライフサイクル	配布プリントの予習。経営者調査
	14	戦略的マーケティング	配布プリントの予習。報告書作成
	15	これまでの復習。調査報告書のプレゼンテーション	期末試験の準備
	16	期末試験	内容の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。		
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。		
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (15点) ②課題提出 (5点) ③試験 (70点) ④レポート (10点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)  第01回 オリエンテーション (マーケティングニュースに関する情報収集) 第02回 マーケティングとは (資料1を読む) 第03回 マーケティングプロセスとは (資料1を読む) 第04回 戦略計画マーケティングとは (資料1を読む) 第05回 BCGの手法、成長戦略 (資料2を読む) 第06回 【理解度テスト】 (資料を復習) 第07回 マーケティングミクロ環境 (ミクロ環境要因を調べる) 第08回 マーケティングマクロ環境 (マクロ環境要因を調べる) 第09回 SWOT分析の事例 (企業のSWOT分析を復習する) 第10回 マーケティング・リサーチ (資料3を読む) 第11回 マーケティング・リサーチのプロセス (資料3を読む) 第12回 【理解度テスト】 (資料を復習) 第13回 消費者の購買行動 (資料4を読む) 第14回 消費者購買意思決定要因 (資料4を読む) 第15回 まとめ (レポートの準備) 第16回 レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。
	評価 課題レポート (100%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことである。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングといえる。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②国内外企業のマーケティング戦略に対する興味・関心を持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	これからの授業展開について確認
	2	マーケティング個別事例研究①／グループ報告の準備作業	各グループで報告に向けて準備
	3	マーケティング・ミックス①：製品戦略【前編】	製品戦略についての確認
	4	マーケティング個別事例研究②／グループ報告の準備作業	各グループで報告に向けて準備
	5	マーケティング・ミックス②：製品戦略【後編】	製品戦略についての確認
	6	マーケティング個別事例研究③／グループ報告の準備作業	各グループで報告に向けて準備
	7	マーケティング・ミックス③：価格戦略【前編】	価格戦略についての確認
	8	マーケティング個別事例研究④／グループ報告	各グループの報告について議論
	9	マーケティング・ミックス④：価格戦略【後編】	価格戦略についての確認
	10	マーケティング個別事例研究⑤／グループ報告	各グループの報告について議論
	11	マーケティング・ミックス⑤：チャネル戦略	チャネル戦略についての確認
	12	マーケティング個別事例研究⑥／グループ報告	各グループの報告について議論
	13	マーケティング・ミックス⑥：プロモーション戦略【前編】	プロモーション戦略について確認
14	マーケティング個別事例研究⑦／報告書の提出	報告書の提出	
15	マーケティング・ミックス⑦：プロモーション戦略【後編】	プロモーション戦略について確認	
16	予備日	予備日	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【使用テキスト】：講義中に使用するテキストのため、購入して毎回必ず持参すること。</p> <p>・現代マーケティング研究会編（2019）『マーケティング論の基礎』同文館出版</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①スーパーマーケットやコンビニなどを観察し、マーケティングの重要性を身近から学ぶこと。</p> <p>②新聞やニュースなどに目を通し、製造業・小売業・サービス業の動向についてチェックすること。</p> <p>③グループワークは、メンバーが協力して作業を行うこと。</p>		
評価	<p>【成績評価の内訳】 (100%)</p> <p>1. レポート課題&lt;期末試験&gt; (40%)</p> <p>2. グループ報告・プレゼンテーション (30%)</p> <p>3. グループ報告・報告書（締切厳守） (30%)</p> <p>※本講義における出席回数が10回以下の場合、当該学生は成績評価の対象とならない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。関連科目としてマーケティング総論およびマーケティング演習がある。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) オリエンテーション	配布プリントを読む
	2	(対) マーケティングとは1	配布プリントの予習
	3	(対) マーケティングとは2	配布プリントの予習
	4	(対) マーケティングとは3	配布プリントの予習
	5	(対) マーケティング理念1	配布プリントの予習
	6	(対) マーケティング理念2	配布プリントの予習
	7	(対) マーケティング戦略1	配布プリントの予習
	8	(対) マーケティング戦略2	配布プリントの予習
	9	(対) マーケティング戦略3	配布プリントの予習
	10	(対) マーケティング4Pについて1	配布プリントの予習
	11	(対) マーケティング4Pについて2	配布プリントの予習
	12	(対) マーケティング4Pについて3	配布プリントの予習。企業調査
	13	(対) マーケティング4Pについて4	配布プリントの予習。企業調査
	14	(対) マーケティングミクスによる統合	配布プリントの予習。企業調査
	15	(対) これまでの復習。企業調査の報告	期末試験の準備
16	(対) 期末試験	内容の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する。②日経BPを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①平常点 (15点) ②期末試験 (70点) ③レポート (10点) ④課題提出 (5点)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。 グループメンバーを選出するため、第1回目の講義は必ずご参加下さい。
	到達目標 マーケティング活動および役割について理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) **新型コロナウイルス感染防止等などのため、講義内容は変更になる場合があります** 第01回 オリエンテーション (各グループメンバーの選出) 第02回 マーケティング課題の選定 (グループ課題の設定) 第03回 マーケティング課題1 (課題1の情報収集) 第04回 マーケティング課題2 (課題2の情報収集) 第05回 マーケティング課題3 (課題3の情報収集) 第06回 マーケティング課題4 (課題4の情報収集) 第07回～第09回 グループ課題概要の発表 (各グループの中間発表の準備) 第10回～第12回 グループ課題の情報収集 (課題に関する情報収集) 第13回～第15回 グループレポートの点検 (原稿内容の点検) 第16回 最終レポート提出 (レポート準備)
	テキスト・参考文献・資料など 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション
	学びの手立て ・グループメンバーを選出するため、第1回目の講義は必ず参加してください。 ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。
評価 課題提出・中間発表・最終発表 (70%)、レポート (30%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習など
-------	---

※ポリシーとの関連性

契約などの学習をとおして、市民生活に直結した法律知識を習得すると同時に、課題発見力・解決力を身に付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福里 芝人	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 私たちの日常生活で起こる紛争を解決する手段としての民法について学ぶことにより、契約社会で生き抜く力(課題発見力・解決力)を養う。	メッセージ これまで民法について学んだことのない初学者にも、例えを交えながらわかりやすく教えます。この講義をきっかけに「法律って難しい」⇒「あれ？法律って結構たのしいぞ！」という考えになってくれたら嬉しいです。他学科の学生の受講も歓迎します。
	到達目標 契約や結婚・離婚などについての基礎的仕組みや法律用語の意味を理解でき、さらに、六法の仕組みや条文を理解することができます。そのことによって、家庭や地域社会において必要とされる法的センスを身に付け、これからの日常生活を賢く生き抜く力を磨くことができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (民法とは、民法の基本ルールである「契約」について)	シラバス、テキスト第1章Ⅰ、Ⅱ
	2	総則(1)権利の主体、未成年者の契約他	テキスト第2章Ⅱ
	3	総則(2)法律行為と代理制度	テキスト第2章Ⅲ
	4	総則(3)時効	テキスト第2章Ⅴ及び配布資料
	5	物権(1)物権のしくみ、物権の客体及び種類	テキスト第2章Ⅳ
	6	物権(2)物権変動と対抗要件	テキスト第2章Ⅳ
	7	債権(1)債権のしくみ、債権の発生①契約	テキスト第2章Ⅲ
	8	債権(2)債権の発生②不法行為、不当利得、事務管理	テキスト第1章Ⅱ
9	債権(3)債務不履行と危険負担	テキスト第2章Ⅵ	
10	債権(4)債権の履行確保の手段(強制履行)	テキスト第2章Ⅶ	
11	債権(5)債権の履行確保の手段(人的担保)	テキスト第2章Ⅶ	
12	債権(6)債権の履行確保の手段(物的担保)	テキスト第2章Ⅶ	
13	親族(1)結婚・離婚	テキスト第3章Ⅰ	
14	親族(2)親子	テキスト第3章Ⅰ	
15	相続～財産の承継(遺言・法定相続)～	テキスト第3章Ⅱ	
16	テスト	合計60点未満の人は再試	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：伊藤真著『伊藤真の民法入門第6版』(2017年・日本評論社)1,700円＋税。 参考文献・資料：必要に応じて参考文献を紹介し、また資料を配付します。		
	学びの手立て 【履修の心構え】初学者にもわかりやすいように工夫して教えるようにしますが、民法は分量が多いので、1回の授業で進む範囲も多くなります。欠席や遅刻をすると授業についていけなくなる恐れもありますので、遅刻・欠席をなくし、早めに教科書を購入して予習・復習をしっかりとすること。また、授業中は私語・居眠りをしないで、真面目な態度で受講すること。		
	評価 期末試験70%、レポート20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業では、初学者を対象に民法の概要について学ぶので、民法の全ての領域をカバーすることができません。授業終了後は、各自で公務員試験対策や各種試験対策などの民法の授業を受講して、さらに知識を増やすことをおすすめします。また、「関連科目」としては、民法で培った法律の考え方を土台として、「商法」や「会社法」を学ぶことによって、ビジネス現場で必要とされる法的センスを身につけることができます。
-------	---